

山形村遺跡発掘調査報告書 第11集

YODONOUCHI 4

淀の内遺跡Ⅳ

— 村道2級1号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書 —

2001.3

長野県山形村教育委員会

山形村遺跡発掘調査報告書 第11集

YODONOUCHI 4

淀の内遺跡Ⅳ

— 村道2級1号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書 —

2001.3

長野県山形村教育委員会



ひすい製垂飾

左: SK-034 右2点: SK-049



ひすい製垂飾出土状況 (左:SK-034 右:SK-049)



出土土器

序 文

淀の内遺跡は、山形村内に数ある遺跡の中でも代表的なものの一つに上げられます。

この淀の内遺跡の中を通る、村道2級1号線拡幅工事が平成9年から3年間にわたり実施されることになり、文化財の保護を図るため緊急発掘調査を実施しました。

淀の内遺跡はこれまでの発掘調査で、縄文時代と平安時代の遺構・遺物が多数発見され、特に縄文時代中期には大規模な集落が営まれていたことが判っています。今回の発掘調査では、この地方でも数少ないひすい製大珠(ペンダント)が出土し、特に出土状況が明確な例としては県内最大級であることが注目されました。果たしてどんな人が身につけていたのか、どんな社会が存在していたのか、当時を知る上で貴重な発見であり、大いに役立つ資料になると思います。

この度報告書としてまとめました。本書を通じて山形村の古を知り、文化財への関心と理解が更に深まればと願うものであります。

終わりにこの調査にあたり、ご参加いただいた方々、ご協力を賜りました皆様方に心よりお礼を申し上げます。

平成13年3月

山形村教育委員会

教育長 上條 勝

例 言

1. 本書は、平成10年度及び11年度に実施された長野県東筑摩郡山形村上大池区に存在する淀の内遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 本調査は、平成9年度から3ヶ年にわたって実施された村道2級1号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査であり、山形村教育委員会が平成10年度及び11年度に調査を実施、本書の作成は平成12年度に行ったものである。
3. 遺跡及び遺物の概要については、郷土誌や各種教養講座等で紹介しているが、本報告を優先させ最終報告とする。
4. 本調査及び遺物整理作業にあたっては、以下の方々のご協力を得た。記して感謝申し上げます。
逢澤 育子 青木 重一 安藤 満 飯島 由次 井口くみ子 池上 英夫
池上 由子 今井 太成 大池 佳子 上條 利昭 上條と志江 上條 忠昭
上條 賢憲 小林弥寿枝 高井 正宏 帳山 昌一 中村 安雄 中村 文夫
古田 守一 村田 寿子 百瀬 隆喜 百瀬 時雄 百瀬 義友 山口 栄子
横水 良夫 (50音順)
5. 本調査で用いた遺構の略称は次のとおりである。
SB → 竪穴式住居址 SK → 土壇 SP → ビット SX → 不明遺構
6. 図中で用いた方位記号は磁北である。ただし調査を3回に分け実施したため、1区分は4度02分、2区分は2度41分、3・4区分は1度37分、それぞれ真北より西へ振れている。
7. 本調査で用いた土色は、農林水産省農林技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』である。
8. 遺物実測図作成にあたっては、株式会社写真測図研究所に作業の一部を委託した。また同社には遺構平面図の作成も一部委託している。
9. 石器の材質鑑定は森義直氏にお願いした。またいわゆるひすいと思われる遺物に関しては、糸魚川市立フォッサマグナミュージアムの宮島宏氏に依頼し化学分析を行った。本文中これに関する記述を行っているが、両氏より御教授いただいたことをまとめたものであり、事実関係を含めて文責は和田にある。
10. 本調査及び本書作成にあたり、以下の方々より有益な御教示・御指導を賜った。記して感謝申し上げます。
大沢 哲 小口 達志 桐原 健 小池 岳史 小林 康男 小松 学
佐々木 明 島田 哲男 竹原 学 直井 雅尚 樋口 昇一 平林 彰
会田 進 百瀬 長秀 小坂 英文 山下 泰永 綿田 弘美 守矢 昌文
樋口 誠司 柳沢 亮
11. 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類(図面・写真等)は、山形村教育委員会が保管し、出土遺物は山形村ふるさと伝承館(〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村3866 Tel 0263-98-3938)に、調査の記録類は山形村農業者トレーニングセンター(〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 Tel 0263-98-3155)に収蔵されている。

目次

巻頭図版 序文 例言 目次 挿図目次 挿表目次

I	調査の経緯	1
1	調査に至る経緯	1
2	調査の経過	1
3	作業の経過	2
II	遺跡の立地と歴史的環境	3
III	調査の結果	7
1	調査の方法	7
2	検出遺構	7
(1)	竪穴式住居址	7
①	SB-01	7
②	SB-02	12
③	SB-03	12
④	SB-04	13
⑤	SB-05	14
⑥	SB-06	14
⑦	SB-07	15
⑧	SB-08	16
⑨	SB-09	17
⑩	SB-10	17
⑪	SB-11	17
⑫	SB-12	18
⑬	SB-13	18
⑭	SB-14	19
⑮	SB-15	19
(2)	土壇・ピット	19
3	出土遺物	32
(1)	縄文時代の遺物	32
①	土器	32
②	石器	58
③	土製品	58
④	石製品	59
⑤	ひすい原石・剥片	59
(2)	平安時代の遺物	63
IV	まとめ	64

写真図版

挿図目次

第1図	遺跡の位置と周辺遺跡	4	第25図	縄文土器実測図(2)	35
第2図	発掘調査範囲	6	第26図	縄文土器実測図(3)	36
第3図	遺構配置図(1)	8	第27図	縄文土器実測図(4)	37
第4図	遺構配置図(2)	9	第28図	縄文土器実測図(5)	38
第5図	遺構配置図(3)	10	第29図	縄文土器実測図(6)	39
第6図	遺構配置図(4)	11	第30図	縄文土器実測図(7)・土製品	40
第7図	SB-01	12	第31図	縄文土器拓影(1)	41
第8図	SB-02	12	第32図	縄文土器拓影(2)	42
第9図	SB-03	13	第33図	縄文土器拓影(3)	43
第10図	SB-04	13	第34図	縄文土器拓影(4)	44
第11図	SB-05	14	第35図	縄文土器拓影(5)	45
第12図	SB-06	15	第36図	縄文土器拓影(6)	46
第13図	SB-07	16	第37図	縄文土器拓影(7)	47
第14図	SB-08	16	第38図	縄文土器拓影(8)	48
第15図	SB-09	17	第39図	縄文土器拓影(9)	49
第16図	SB-10	17	第40図	縄文土器拓影(0)	50
第17図	SB-11	18	第41図	石器(1)	51
第18図	SB-12	18	第42図	石器(2)	52
第19図	SB-13・14	19	第43図	石器(3)	53
第20図	SB-15	19	第44図	石器(4)・石製品	54
第21図	土壌(1)	20	第45図	EPMA分析チャート(1)	61
第22図	土壌(2)	21	第46図	EPMA分析チャート(2)	62
第23図	土壌(3)	22	第47図	平安時代の土器	63
第24図	縄文土器実測図(1)	34			

挿表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	5	第5表	石製遺物観察表	56
第2表	土壌一覧表	25	第6表	県内ひすい出土土壌一覧表	60
第3表	ピット一覧表	27	第7表	分析遺物一覧表	62
第4表	実測土器観察表	55			

I 調査の経緯

1. 調査に至る経緯

淀の内遺跡は、山形村上大池区の集落域から東へやや下った畑作地帯内に存在する。一帯は縄文時代中期を主とした遺物が昔から数多く採取されており、地域の住民なら多くが知る遺跡として認知されてきた。山形村では10数年来、松本市のベットタウンとして人口が急増しているが、遺跡を含んだこの周辺は、その需要にこたえる住宅が次々と建設されており、遺跡内での建設も相次いでいる。その発端となったのが、平成4年に長野県住宅供給公社が実施した淀の内団地造成事業であり、この際3,650㎡が緊急発掘調査（第1次調査）され、縄文時代中期の環状集落跡が発見された。これにより、淀の内遺跡の存在は明確となった訳である。その後も住宅建設は続いているが、平成8年に策定された山形村土地利用計画では、遺跡を含むこの場所は「住居系」になっていることもあり、遺跡の保護を考慮した場合、厳しい状況が続くと言わざるを得ない。

人口の増加、松本臨空工業団地の拡充、大規模ショッピングセンターの村内進出等に伴い、村をとりまく交通事情は、車両の増加という当然の結果が生じてきている。円滑かつ安全な交通を維持するには道路改良も実施せねばならない状況となってきたため、村当局では数年来これを精力的に取り組んでいる。この一つが今回実施された村道2級1号線拡幅工事である。この道路に南接する淀の内団地造成の際に発掘調査を実施していたため、当然工事による遺跡の破壊が生じると懸念された。そこで事業に先立ち、平成9年度に建設水道課と教育委員会において埋蔵文化財の保護協議を実施した。現道を北側へ4m拡幅する内容で、工事は3ヵ年にわたり、村道に接続する県道新田松本線側から西へ向かって順次工事実施の計画であった。事業実施に伴う埋蔵文化財の破壊は避けられないとの結論に至り、事前に記録作成のための発掘調査を実施することになった。

2. 調査の経過

工事が3ヵ年計画であったこと、年度毎の予算規模、用地取得などの事情から、発掘調査は分割して実施せざるを得ない状況であった。

平成9年度には県道新田松本線から西へ140m区間の工事が予定された。第1次調査の状況から、この着手区間に遺構・遺物は存在しない可能性が大であったので、工事の際職員が立会うことにした。結果、遺構・遺物の存在しないことを確認した。

平成10年度当初には、県道から西へ140m～270mの間(253番地3、242番地2)が対象にされた。この区間は遺跡の東端部と推測されたため、調査範囲を絞り込むべく試掘調査を実施した。作物作付の都合上、253番地3は7月13・14日に、242番地2は9月16・17日に試掘調査を実施したが、遺構・遺物は存在しなかった。よってこれより西に遺構・遺物が存在することがほぼ確定された。その後年度当初の計画が変更され、県道から西へ280m～320m区間(240番地4)が工事着手されることになった。この区間は第1次調査区と道を挟んで北側に位置し、遺構・遺物の存在が確実であったため、急速発掘調査を実施す

ることになった。調査は11月10日～27日まで145㎡が調査されたが、この区間を「2区」としている。

平成11年度には残りの区間が工事されることになったが、用地取得の都合から2回に分けての調査になった。まず5月6日～6月23日まで2区の西側232㎡(216番地5、239番地2、240番地5)が調査されたが、この区間の東側を「3区」、西側を「4区」とした。そして11月15日～30日まで残りの区間173㎡(241番地5、241番地4)の「1区」が調査された。しかしながら家屋移転や庭木移転等の都合上、また冬季間になってしまったことも加わり調整が整わず、1区と2区の間40㎡分は調査未実施となってしまった。

出土遺物の整理作業は平成11年度冬季に開始し、年度中に遺物洗浄、接合、注記の作業を終了させた。また出土石器の実測は、先行して株式会社写真測図研究所へ委託の上実施した。平成12年度には、土器の実測を開始し、以後各図面のトレース・組版、遺物写真撮影、原稿執筆等の諸作業を経て、平成13年3月に報告書刊行となった。

3. 作業の経過

【平成10年度】

11月10日 2区調査開始。

11月13日 冷え込み厳しく遺構面に霜柱が立つ。縄文中期末から後期初頃の土器片がまつま土壌が2基検出される。

11月18日 初雪で寒い。これ以上季節が進むと調査実施が困難である。住居址は5軒あるが、幅4メートルの細長い調査区のため、全体を掘れるものはない。SB-05は床面まで70cm程度で、時期も縄文中期末と淀の内遺跡でこの期の発見は初めてである。

11月19日 市民タイムズ記者取材に訪れる。遺構掘削は9割方終了。

11月24日 業者に委託しての遺構平面図作成作業。

11月26日 この冬1番の冷え込み。全体写真撮影し残務の片付。

11月27日 機材を撤収。2区全作業終了。

【平成11年度】

5月6日 3・4区調査開始。遺構面直上まで重機によって表土除去する予定だったが、重機のバケットに引かかる遺物が余りに多いため、一部手掘りに切り替えた。

5月10日 遺構検出。遺物の出土量がとても多く、遺構の切り合いも激しい。斉藤村長と上総教育長が現場来訪。

5月17日 遺構の掘り下げ開始。

5月20日 SB-07は平安時代の住居址と判明。反軸陶器等が出土。

5月21日 現場の乾燥が激しく土埃が舞う。遺構図面の作図ができるものが調査担当者のみなので間に合わない。

5月28日 この週は雨の日が多く作業できない日が続いた。

6月4日 SK-049を半掘したところ、ひすい製垂飾が1つ出土。作業員一同驚きと喜びに沸いた1日であった。

6月8日 入梅。遺構が多く、遺物の出土も多いため作業が遅れ気味。これからは天気が気になる毎日である。

6月9日 ひすい製垂飾が出土したSK-049の土層断面図作成後、全掘したところもう一つひすい製垂飾が出土。同一土壌から複数個発見されるのは大変珍しい。またまたひすいの発見に大喜び。

6月15日 SK-034を掘削したところ、なんと3つ目のひすい製垂飾が出土。大きさもこれまでよりかなり大きく、大珠と呼ぶにふさわしい。8.8cm、100gでずしりと思ひ。またび現場従事者全員が驚きと喜びに沸く。それにしても見事なものである。

6月22日 現場もいよいよ終盤。樋口昇一氏現場来訪、ひすい製垂飾について御教示いただく。

6月23日 3・4区全作業終了。斉藤村長来訪。

6月28日 記者発表。翌日の新聞に記事が掲載される。

11月15日 1区調査開始。

11月17日 表土除去終了。1区は遺構の存在が確で住居址はない。

11月23日 毎日のように時雨の冷たい雨が降り作業はかどらず。冬真近。

11月30日 1区全作業終了。1区はあまり遺物の出土がなかった。

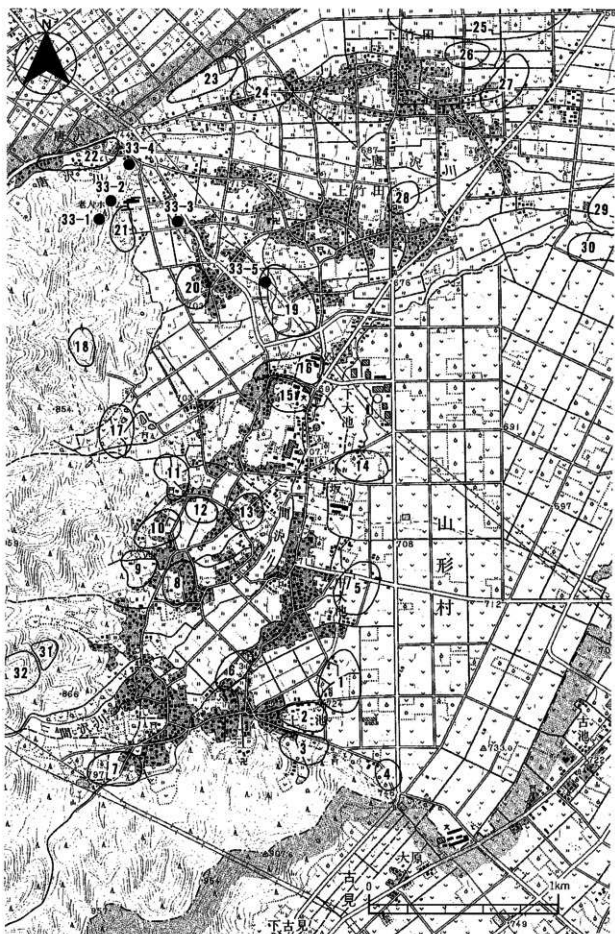
II 遺跡の立地と歴史的環境

淀の内遺跡の存在する山形村は、長野県の中央部、松本盆地の南西約12km、鉢盛山(標高2,446m)を背景に山麓沿いに立地し、なだらかに北東へ傾斜した広大な平地を持つ。鉢盛山から東北方面に延びる尾根は、界沢山(1,994m)、ハト峰(1,970m)を経て唐沢山(1,745m)に達し、そこから2つに分かれ、1つは荒倉山(1,495m)から白山(1,387m)へ、もう1つは山形村の平地部に面した鳴神、御岳山(859m)の尾根へと達する。山形村を潤す河川は、この2つの尾根間を流れる唐沢川と、平地部に面した尾根の前面に振り注いだ雨を集める三間沢川、鳴音川、大池川等の流れの乏しい河川のみである。昔から水の苦勞が絶えない地域であった。とはいえ縄文時代等の各集落は、こうした河川沿いや湧水が得られる場所を選び営まれた状況がうかがえる。

淀の内遺跡を水の便という観点から見ると、南南西へ500m程行った洞地籍に湧水がある。遺跡の西には南から北へ向かって延びる浅い谷状の地形が見られ、この湧水が今もここを流れている。当遺跡に居を構えた人々も、この湧水を目当てにしたと思われる。なおこの湧水が流れる小川沿いには、上流側に洞遺跡(第1図3)、下耕地遺跡(2)があり、下流側には野際遺跡(5)がある。いずれも縄文時代中期中葉～後葉の遺物が見られるが、各集落が同時並存したのか、又は移動したのかなど、各集落間をめぐる考察は今後の課題でもある。遺構面は、現地表面から浅い箇所20cm、深くても40cm程にて達し、ローム層中に各遺構が掘り込まれている。

山形村の遺跡分布状況は、耕作中に出土した土器や石器等の存在をもとに推測されてきた。それに加え村内各地で実施された発掘調査により、遺跡によってはその内容や範囲がかなり明確になってきている面もある。しかしながら発掘調査等により範囲が確かめられた遺跡はあまり多くなく、従ってここに示した遺跡分布図は必ずしも正確とは言えない。今後分布調査や確認調査などによって精度を高めていく必要がある。

山形村最古の人が暮らした痕跡は旧石器時代末までさかのぼる。三夜塚遺跡(4)でたった2点ではあるが局部磨製石斧が発見されている。続く縄文時代は、草創期と早期の遺物は発見例が明確でなく、当遺跡の第1次調査で、前期初頭中越式期の竪穴式住居址3基の検出が古いところである。他に前期の遺跡としては諸磯式期の竪穴式住居跡が4基検出された唐沢遺跡(2)や、前期末の竪穴式住居址や土壌が検出された中町立道西遺跡(5)がある。この他にも中島遺跡(3)や神明遺跡(4)等で前期の土器が採取されている。中期の遺跡は急増し村内各地に見られる。とはいうものの中期初頭は少なく、当遺跡の第2次調査で梨久保式期の土壌が検出され、おおよそ器形のわかる土器が数個体出土したものや、中町立道西遺跡で土壌内から前期末とも中期初頭とも解釈できる土器片が数点出土したにとどまる。以後の中期中葉以降については、発見されている遺物の量も増え、遺跡分布図に記載の遺跡はほとんどこの時期のものである。発掘調査された遺跡としては殿村遺跡(1)、洞遺跡(3)があり、実に多くの遺物が得られている。それ以外にも、十分な発掘調査はされていないがこの期の有名な遺跡として、宮村遺跡(1)、野際遺跡(5)、名電遺跡(1)、三夜塚遺跡(4)等が存在する。後期になると遺跡数が激減し、当遺跡や三夜塚遺跡(4)から数点の土器が発掘調査により発見されているのに加え、石原田遺跡(2)、宮村遺跡(1)で遺物が採取されている程度である。以後晩期の遺物は1点も見出されていない。



第1図 遺跡の位置と周辺遺跡

稲作が普及した弥生時代以降になると、水の便が良い箇所を選び集落を構える傾向にあるので、村内に遺跡は少ない。平成11年度に松本市との境で実施された境窪遺跡の調査があるが、この場所は鎮川の氾濫原にあたり、地形的には松本市の延長といった場所である。それ以外には中期後半の土器が出土した唐沢遺跡(2)、洞遺跡(3)、ヨシバタ遺跡(4)があり、後期の遺物はヨシバタ遺跡(4)、中町立道西遺跡(5)、洞遺跡(3)、そして当遺跡があるが、いずれも数点から10数点と数えるほどしかない。また殿村遺跡(19)からは方形周溝墓が1基検出されている。

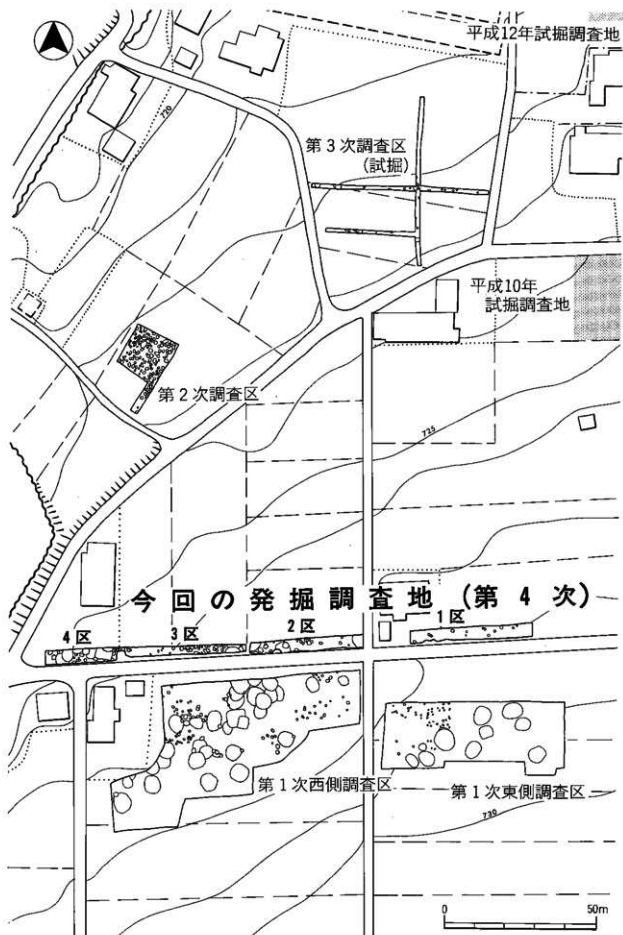
古墳時代、奈良時代の集落跡ははまだ発見されていないが、上竹田区四ツ谷地区には古墳時代後期の群集墳が存在する。現在は穴観音古墳(33-1)のみが現存するが、殿村古墳(33-5)からは「錦織部」とかかれた墨書土器が発見されており、県内最古のものとされている。また書かれていた「錦織部」という文字は、渡来系氏族との関連が目される資料で貴重なものである。

平安時代の遺構は縄文時代の集落跡発掘調査の折に竪穴式住居跡があわせて発見される例があり、殿村遺跡(4)で13基、中町立道西遺跡(5)で1基、洞遺跡(3)で4基などが発見されている。出土遺物を見ると大方が灰釉陶器を伴う10世紀以降のものが多い様に見受けられる。なお山形村では、松本市等平地部で見られる様な大規模な集落跡は発見されていない。

これ以降中世の遺構・遺物としては、中町立道西遺跡(5)で土壌10数基や区画溝等が検出されている程度である。なお山間部には中世の山城として秋葉城址(10)、池の入城址(9)、小坂城址(20)等が存在するが、詳細な調査は実施されることがない。

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	山石群	縄文	弥生	古墳・奈良	平安	中世	備考
1	虎の内		○	○		○		H4年度(1次) H9年度(2次) H10年度(3次試験)
2	下輪池		○			○		H8(1次) H9(2次試験)
3	洞			○		○		S45(1次) H7(2次試験)
4	横田ヶ岡		○					
5	野原					○		
6	塚		○					
7	豆沢		○					
8	唐水		○			○		
9	寺林		○					
10	重村		○					
11	宮村		○					
12	村原田		○					
13	中島		○					H8立命
14	中原		○					H7試験
15	中町立道西		○	○		○	○	H9(1次) H13試験
16	ヨシバタ		○	○		○		H4試験
17	名電		○					
18	秋葉城跡						○	
19	殿村		○	○		○		S62・63(1次)
20	四ツ谷		○					
21	穴観音		○					H7立命
22	唐沢		○	○				S44(1次)
23	北原沢		○					S57(1次)
24	神明		○	○				S56(1次)
25	三夜塚	○	○					S56(1次) H12試験
26	堀ノ内		○					S57(1次)
27	北原沢		○					H11(1次)
28	本郷		○			○		S63試験
29	三郎沢川右岸					○		
30	三郎沢川右岸		○			○		
31	池の入城址						○	
32	小坂城址						○	
33-1	穴観音古墳			○				S45調査 新編
33-2	大久保2号墳			○				新編
33-3	大久保1号墳			○				新編
33-4	八幡大門塚古墳			○				S65調査 新編
33-5	殿村古墳			○				S65調査 新編



第2図 発掘調査範囲

III 調査の結果

1. 調査の方法

淀の内遺跡の範囲については、第1次調査により南端が、第2次調査により北西端が、第3次調査により北端が、西端については地形的な特徴からおおよそ確定できていたが、東端については不確定的な要素が多かった。今回の村道拡幅工事は、遺跡を東西に横断する形であったため、東側のどこまで遺跡が及ぶのか確定させる必要があった。またこの場所は圃場整備の際、十分な埋蔵文化財保護策を行わずに工事を行ってしまったため、遺跡が削平され尽くしていることも懸念され、遺構の残存状況を確認する必要もあった。よって試掘確認調査を順次実施し、遺構があるかないかを確定させてから本調査を実施するという方法をとっている。なお今回の調査で遺跡の東端が確定できたので、遺跡の範囲は南北220m、東西170m程度と確認できた。調査対象域は村道拡幅分の4m幅であったが、現道と遺構面との高低差が2m近くに達する箇所もあり、現道の法面が崩れる虞があったことや、電柱や標識等が立っていたため、4m未満の幅になってしまった箇所もある。

調査はまず重機によって全体の表土を遺構が掘り込まれているローム層面直上まで除去したが、遺構が集中的に掘り込まれていた3区東半と4区については、手掘りによって表土除去を行った。以後の遺構検出及び遺構掘り下げに関しては、すべて人力にて行った。遺構の掘削は、竪穴式住居址は4分割し、その他に関しては半分掘削した後、土層観察を行い、分層できるものや特殊なものに関しては土層断面図の作成と土色・土質の記録を行い、その他は土色・土質の観察を行い完掘した。なおこの場所でもあったが、ナガイモ耕作による攪乱が1区、2区では見られ、約10cm幅の掘り抜きが1m間隔で並んでいた。加えてスプリンクラー敷設による攪乱もあわせてうけている。山形村の遺跡発掘調査で、ナガイモ耕作による攪乱が見られない場所は無い、と言っても過言ではない状況である。

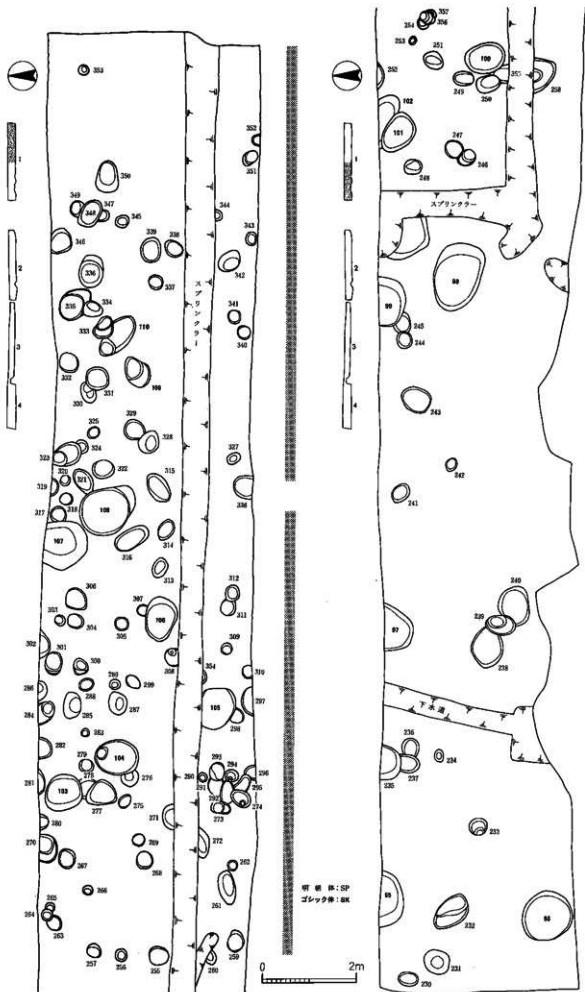
遺構番号は遺構の規模・状態等により、土壌：「SK」、ピット：「SP」、竪穴式住居址：「SB」、不明遺構：「SK」と冠したが、土壌とピットに関しては、その規模が大きいか小さいかで分けたため、その線引きが曖昧である。番号については、「001」からの通し番号をつけた。遺構等の測量記録は、すべて1/20で行った。2区の平面図作成に際しては、縮写真測図研究所に作業の一部を委託した。現場にて作図の際、測量するポイントの位置と標高をトータルステーションによって測量し、コンピュータ処理がなされた後、ポイントのみを出力した遺構図をもとに、現場にて結線作業を行い、レベル値は測量成果簿を参照するという方法をとった。それ以外の測量はすべて手作業によった。写真はモノクロネガとリバーサルフィルムを使用し、すべて35mmカメラで撮影した。

2. 検出遺構

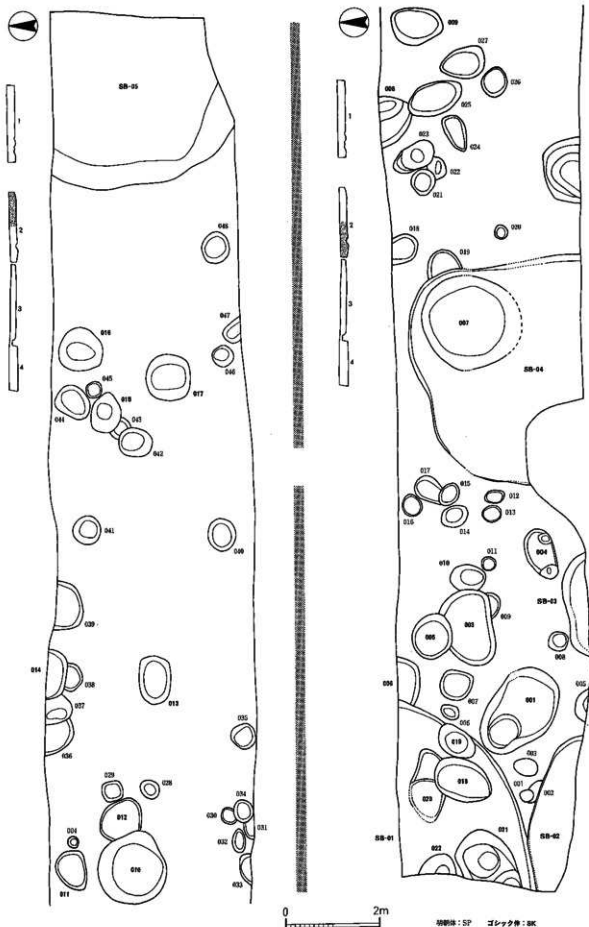
(1) 竪穴式住居址

① SB-01 (第7図)

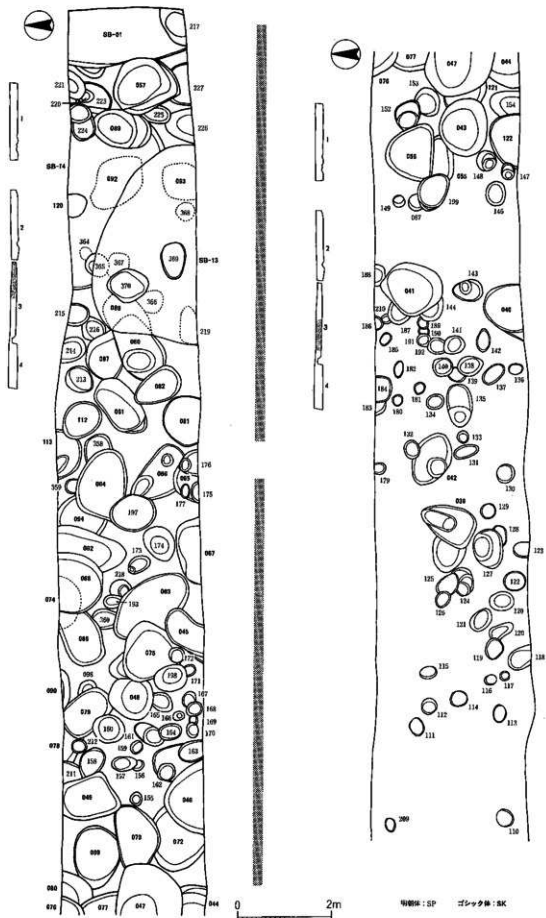
平成10年度に2区で住居址の1/4程を、平成11年度に西側の一部を検出したが、2度に分けての調査実



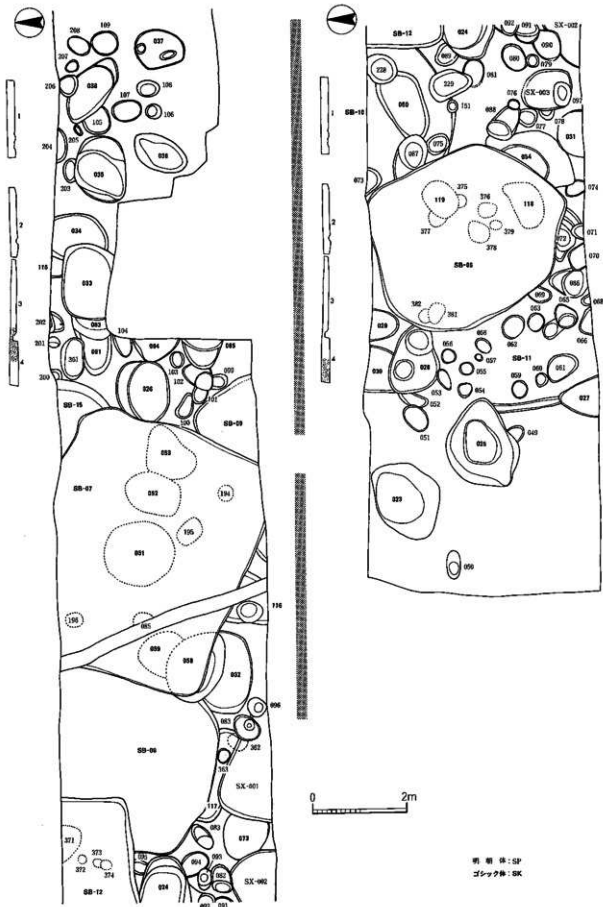
第3図 遺構配置図(1)



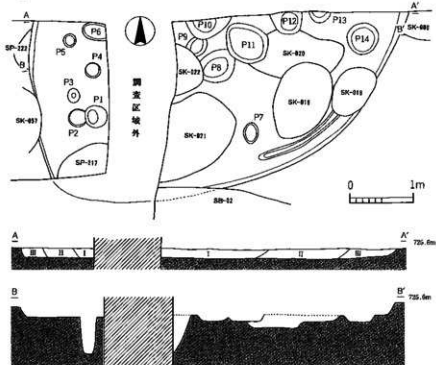
第4図 遺構配置図(2)



第5図 遺構配置図(3)



第6図 遺構配置図(4)



第7図 SB-01

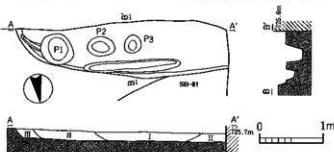
ロームブロックを多く含む暗褐色土 (10YR3/3)、II層は5mm程のロームブロックを含む黒褐色土 (10YR3/2)、III層は炭を含む黒褐色土 (10YR2/2) であった。覆土中からは土器の出土があったが、住居址の覆土と住居址を切る各土壌の覆土との見分けがつかない状況で掘り下げてしまったため、時期がかなり混在してしまった。その中でも明確にこの住居址に伴うと判断できた第24図8等をもって本址の時期を決めている。ピットは14基にピット番号を冠したが、前述のとおり切り合い関係が激しい箇所であったので、遺物の出土がなかったピットに関しては本址に伴うかどうか怪しいと言わざるを得ない。炉及び埋壺は調査できた範囲内では検出されなかった。本址の時期は出土遺物から中期3段階に位置付けられる。

② SB-02 (第8図)

2区の西端、SB-01の南側を切る状態で検出されたが、大部分が調査区域外へ延びているため、掘ることができたのはごく一部である。覆土は3層に分層された。I層は炭とロームブロックを含む暗褐色土 (10YR3/4)、II層は炭を僅かに含む黒褐色土 (10YR3/2)、III層はローム粒を多く含む暗褐色土 (10YR3/3) であった。床面までは15cm程あり、壁に沿って周溝が見られ、ピットも3基確認できた。炉や埋壺は、掘ることのできた範囲から検出されていない。覆土中からは、ビニール袋半分程度の遺物が出土したが、土器は破片ばかりであり、第31図6～8に図示したものは比較的大きな破片である。本址の時期は出土土器から中期11段階と思われる。

③ SB-03 (第9図)

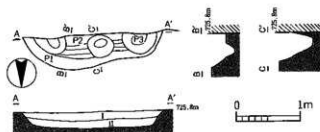
2区の中央からやや西へ寄った箇所から検出されたが、これも調査することができ



第8図 SB-02

施になってしまい、なおかつ平成10年度調査実施区間は、平成11年度調査実施時には既に道路になっており、碎石により3区側に法面がつけられていたため、住居址の真中に調査未実施の範囲が生じる事態に陥ってしまった。なおかつ住居址の北半分は調査区域外である。規模は東西6.0mで、床面まで20cm程であった。SB-02及びSK-018・019・021・022・057等の各土壌に切られている。覆土は3層に分層された。I層は5mm～1cmの

たのはごく一部で、大部分が調査区外の南側へ及ぶ。遺構検出をした時点では、やや大きな土塊と見ていたが、掘り下げていくと、25cm程で床面らしき箇所へあたり、壁に沿って周溝がめぐっている状況も確認できたので、住居址の一部であると確認するに至った。当然として炉と埋甕は検出できていない。ピット

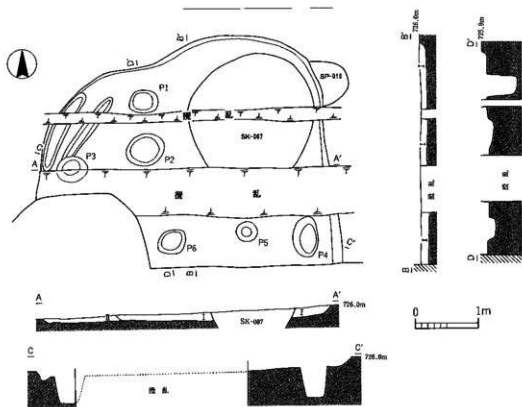


第9図 SB-03

トは3基検出したが、P1が25cm、P2が29cm、P3が43cmといずれも深さがある。覆土は2層に分層され、I層はローム粒と炭を僅か含む暗褐色土(10YR3/3)、II層は5mm程度のロームブロックを多く含む黒褐色土(10YR3/2)であった。遺物の出土は少なく、第24図7に図示した他に土器片10数点と黒曜石の剥片数点であったが、おおむね中期II段階に位置付けられると思われる。

④ SB-04 (第10図)

2区の真ん中で検出され、住居址全体の2/3程の輪郭を確認できたが、スプリンクラー配管による攪乱とナガイモ耕作による攪乱が東西に走り、住居址北東部分はSK-007に切られている。床面までは深いところでも10cm強と上面をかなり削平されていると推測されるが、覆土は2層に分層された。I層は炭とローム粒を含む黒褐色土(10YR2/2)、II層はロームブロックを多く含む暗褐色土(10YR3/3)であった。ピットは6基検出したが、壁寄りに掘られていたP1、P3、P4は深さがあり、住居の上屋構造を支える柱穴と考えられる。炉と埋甕は検出できなかったが、炉については住居址中央部が攪乱されていることから、破壊されてしまったと考えられる。覆土中からは第25図15や第31図10~16の土器等、コンテナ



第10図 SB-04

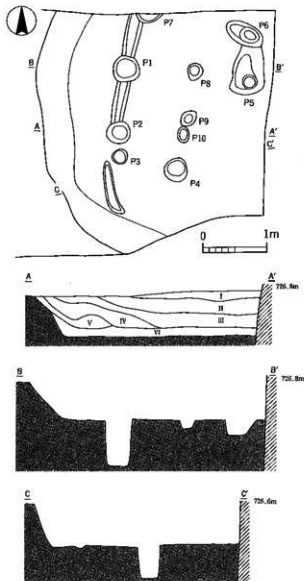
1/5箱程の遺物が出土したが、中期10段階～11段階に位置付けられる。

⑤ SB-05 (第11図)

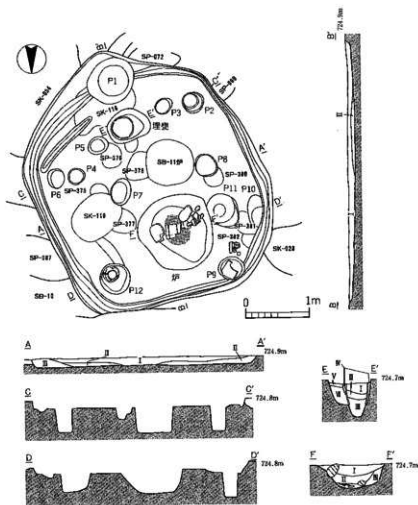
2区の東端で検出されたが、住居址西側の輪郭を追っただけで、北・南・東側は調査区域外まで及ぶ。床面までは70cm弱とかなり深く、当遺跡で今まで発見された住居址中でも一番深い掘り方を有する。覆土は6層に分層されたが、自然に埋没していった状況を呈していると考えられる。I層はローム粒を少し含む黒色土(7.5YR2/1)、II層はローム粒を多く含む黒色土(10YR1.7/1)、III層はローム粒を多く含む黒褐色土(10YR2/2)で、前期の土器はこの層から大半が出土、IV層は黒褐色土(10YR3/2)、V層は1cm程のロームブロックを多く含む暗褐色土(10YR3/3)、VI層は1cm程のロームブロックを多く含む、締まり方が他の層よりある暗褐色土(10YR3/4)であった。住居址の壁は斜め(45度～60度)に掘り込まれており、壁からやや離れた箇所に周溝がめぐっている。ピットは10基発見されたが、壁寄りにあるP1が73cm、P2は49cm、P3は40cm、P4は52cmと他のピットに比べて深めで、上屋構造を支える柱穴と判断される。炉は検出できなかった。覆土中からはIII層を主として、多段ループ文が施文されている前期関山式の土器片(第31図17～27)が出土しており、本址はこの期に位置付けられる。なお覆土最上層には、中期段階の土器片が混入していた。

⑥ SB-06 (第12図)

4区の西寄りに検出された。北端の一部が調査区域外に及ぶが、今回の発掘調査では唯一、ほぼ全域を調査することができた住居址である。形状は隅丸方形に近く、南側がやや外へ張り出す。南北4.2m、東西3.5mを測り、埋壘と炉を結ぶ住居址の主軸は、南北方向からやや東へ振れている。壁高は15cm弱を測り、周溝が壁に沿って全周する。覆土は3層に分層されたが、I層は5mm程のロームブロックと炭を含む黒褐色土(10YR3/2)、II層は5mm程のロームブロックと炭・焼土を含む黒褐色土(10YR3/2)、III層は炭・焼土を含む黒褐色土(10YR2/2)であった。床面は中央部で硬化した箇所が認められ、貼床が認められた。ピットはP12まで番号を冠したが、P2・P6・P10・P12が主柱穴と判断される。なお貼床下から検出されたピットは、この住居址には伴わないと判断し、「SP」等の遺構番号を冠した。その一部はこの住居址の西側に存在し、重なった状況で検出されたSB-11に伴うピットと考えられる。炉は住居址中央部からやや北に奥まった部分から検出された。径120cm程の平面が不整形形状で、深さ35cmと大き



第11図 SB-05



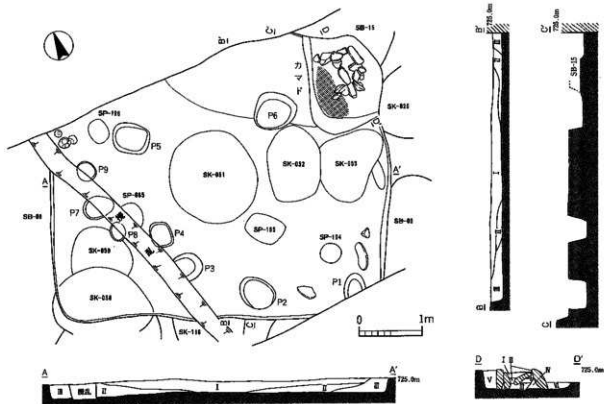
第12図 SB-06

YR2/2)、III層は黒褐色土 (10YR3/2)、IV層は1cm程のロームブロックを多く含む暗褐色土 (10YR3/3)、V層はローム土をそのまま埋め戻した様な褐色土 (10YR4/4)、VI層は炭を含む黒褐色土 (10YR2/2)であった。ただし埋壜を入れる掘り方の断面形状から見ると、V・VI層は他の遺構の覆土とも考えられるが、現場で確認できなかった。遺物は埋壜の他、第24図5が炉内から、その他図示の土器・石鈿は覆土中から出土している。本址の時期は中期11段階に位置付けられる。

⑦ SB-07 (第13図)

4区の東側に検出された。今調査で唯一平安時代の竪穴式住居址である。北と南の隅は調査区域外まで延びているが、隅丸長方形形状を呈し、5.4×4.5mを測る。住居址の西側に南部集荷所へと引き込まれている水道管敷設の際に掘られた攪乱が走っている。壁は直に近い形状で掘り込まれ、床面まで20cmを測るが、ほぼ全域に貼床が認められた。覆土は3層に分層でき、I層はローム粒と炭を含む黒褐色土(10YR3/2)、II層はローム粒と炭を含む黒褐色土(10YR2/2)、III層はローム粒と炭を多く含む黒褐色土(10YR2/2)であった。カマドは北東コーナーに設けられており、石組カマドである。天井部の石は失われていたが、袖の部分の石は元位置をとどめているものが多かった。覆土は6層に分けることができ、I層は5mm程のロームブロックを含む黒褐色土(10YR2/2)、II層は5mm程のロームブロックを含む黒褐色土(10YR3/1)、III層は焼土粒を含む黒褐色土(10YR3/2)、IV層はローム粒を少し含む黒褐色土(10YR3/2)、V層は5mm程のロームブロックを含む黒褐色土(10YR2/2)、VI層は焼土粒を多量かつ炭を含む黒

な掘り方を有し、底面は赤く焼き縮まっていた。炉の覆土中には大型の石が数個見られ、炉を構成していた石の一部と考えられるが、元位置とはとどめていないと思われる。炉の覆土は3層に分層でき、I層は1cm程のロームブロックを少し含む黒褐色土(10YR2/2)、II層は5mm程のロームブロックと炭を多く含む黒褐色土(10YR3/2)、III層は炭と焼土を多く含む黒褐色土(10YR3/2)であった。埋壜(第24図1)は中央部から北へ寄った箇所より見つかり、土器の口縁部と体部下半以下を欠いた状態で正位に埋められていた。覆土は6層に分層でき、I層はローム土をそのまま埋め戻した様な褐色土(10YR4/4)、II層はローム粒を多く含む黒褐色土(10

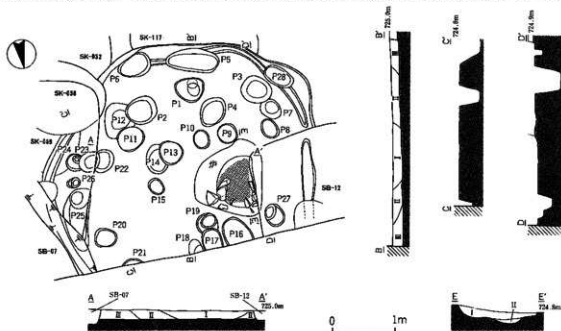


第13図 SB-07

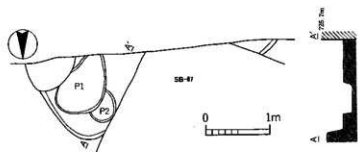
褐色土 (7.5YR3/2) であった。ピットは9基番号を冠したが、どれが上屋構造を支えたのか判断に苦しむ。遺物はI層を中心として破片が数多く出土した他、住居址北西隅の床面より5cm程浮いた箇所から第47図3・7・9がかたまって出土した。本址の時期は平安時代11世紀中頃に位置付けられる。なお貼床の下からは、縄文期の土壌やピット、SB-15の一部が見つかった。

④ SB-08 (第14図)

4区の真ん中にあり、東側をSB-07に、西側をSB-12に切られ、北側は調査区域外にまで及ぶ。その他SK-058に切られる。周溝が巡っているのをSB-07及びSB-12の床面に確認できたので、これをもとに



第14図 SB-08



第15図 SB-07

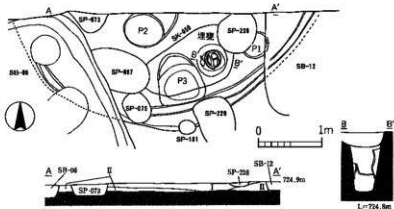
すれば東西で4.4mを測り、東側がやや張り出す隅丸方形形状に近い形状を呈すものと思われる。床面まで切り合いのなかった部分で15cm程を測り、床面に硬化した部分は認められなかった。覆土は3層に分層でき、I層は5mm程のロームブロックと炭を含む暗褐色土(10YR3/3)、II層は5mm程のロームブロックと炭を少し含む黒褐色土(10YR3/2)、III層は黒褐色土(10YR3/2)であった。炉は中央よりやや西で検出され、南北120cm、東西110cmの不整円形状を呈し、25cm程の掘り方を有する。炉の底面は赤く焼き締まっており、底に接して大型の石が数個見られた。石は良く炉に使われているような細長く表面に凹凸がない自然石ではなく、打ち欠かれて角が立っているものが多い。炉が廃絶後、炉を構成する石が抜き取られたような痕跡は認められたが、ここに残っていた石は炉を構成していた石ではない様に見うけられる。ピットは28基番号を冠したが、支柱穴を判断するのは難しい。埋壔は検出されなかった。出土土器は完形に近いものではなく破片資料ばかりであったゆえ、時期を確定しがたいが、中期9～10段階と思われる。

⑨ SB-09 (第15図)

4区の東端、SB-07に切られ、大部分が調査区域外まで延びている。当初住居址と判断してよいのか迷ったが、底まで30cm弱あり、貼床のような硬化面は認められぬが、平坦な面が続いているので住居址の一部と判断した。詳細については不明であるが、時期は出土土器から中期14段階としておきたい。

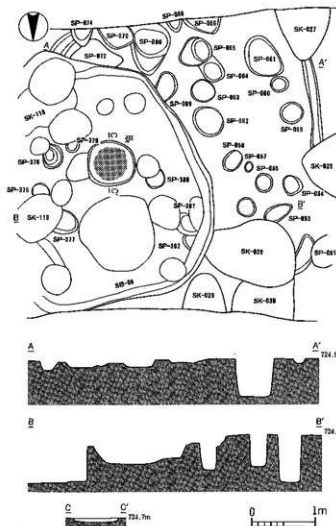
⑩ SB-10 (第16図)

4区の真ん中から西寄り、西側をSB-06に、東側をSB-12に切られ、住居址の北2/3程は調査区域外にまで及ぶ。その他にもSK-050、SP-073・075・228・229等に切られていた。床面までは10～15cm程で、床に硬化した箇所は認められなかった。覆土は2層に分けることができ、I層は炭を非常に多く含む黒褐色土(10YR2/2)、II層はローム粒を多く含む黒褐色土(10YR3/2)であった。SK-050を完掘したところ、その底から埋壔(第25図10)が見つかった。逆位に埋められていたが、体部下半から底部は、SK-050に打ち欠かれてしまった状態であった。埋壔の覆土は単層で、ローム粒を多く含む暗褐色土(10YR3/3)であった。周溝が巡っている状況も確認できたが、ピットは切り合いが激しい箇所であったため、一応3基が本址に伴うと判断した。埋壔以外の遺物として覆土中から出土した破片資料(第32図45～48)を図示したが、本址を切る遺構のすべてを最初から見極められていた訳ではないので、時期的に混ざった状況で取り上げてしまった。よって埋壔から判断し、本址の時期は中期10段階に位置付けられる。



第16図 SB-10

⑪ SB-11 (第17図)



第17図 SB-11

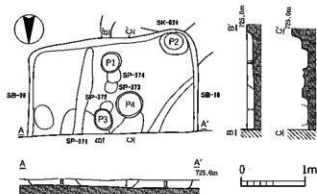
⑫ SB-12 (第18図)

4区の真ん中、西側にあるSB-10、東側にあるSB-08を共に切るが、北半分は調査区域外まで及ぶ。形状は隅丸方形形状を呈すと思われる、東西で2.7mを測る。床面までは15cm弱を測り、覆土は2層に分けることができた。I層は黒褐色土(10YR3/2)、II層は炭と5mm程のロームブロックを含む黒褐色土(10YR3/2)であった。覆土中からは縄文土器小片が10数点出土したが、時期に幅があった。

⑬ SB-13 (第19図)

3区の東寄り、北側でSB-14を切り、南側半分は調査区域外である。東西4.25mを測り、壁高は20cm程ある。本址は数多くの遺構が複雑に切りあっている場所から検出されたが、住居址の覆土とその他遺構の覆土にあまり違いがなく、遺構検出段階で見分けるのは難しかった。よって住居址の床面まで掘り下げ、床面から掘り込まれているピットとして掘削した後、出土遺物の時期的な違いから本址に伴

4区の西寄り、SB-06の西側に重なっている。覆土がすべて失われているので、当初住居址と判断していなかったが、周溝が途切れながらもではあるが巡っている状況が確認できたのにくわえ、SB-06の床面を精査していたところ、貼床下に底面が赤く焼き締まった浅い皿状のピットが見つかったので、これを炉と判断し、一つの住居址として番号を冠した。周溝の巡り方から判断して、径5m弱で円形の形状を呈していたと推測される。炉は前述のとおりSB-06に上面を破壊され、底付近だけが7cm程残っている状況で、覆土は炭と焼土を多く含む黒褐色土(10YR3/2)であった。本址に伴うピットについては、周溝の内側から検出した「SP」番号を冠したものが該当すると思われるが、どれが確実に伴うのか判断に苦しんだため取り上げてはいない。また周溝内出土の土器をもって本址の時期を決めたいところではあったが、細片が数点出土したのみであったので決め難い。



第18図 SB-12

わかないものと判断したものが数多くある。覆土は2層に分かれ、I層は炭を少し含む暗褐色土(10YR3/3)、II層は炭と5mm程のロームブロックを含む暗褐色土(10YR3/3)であった。埋壔は検出されなかったが、炉はかろうじてその一部を検出することができたが、南側の大半は調査区域外である。本址は中期13段階に位置付けられる。

④ SB-14 (第19図)

3区の東寄り、南側をSB-13に切れ、北側半分は調査区域外である。その他にもSK-089、SP-224・365等にも切られる。

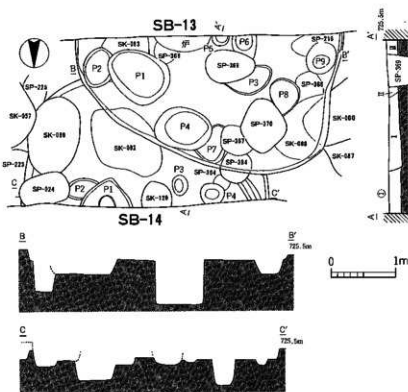
SB-13同様各遺構の切り合いが激しい。覆土は炭を多く含む暗褐色土(7.5YR3/3)を確認したにとどまる。炉と埋壔は検出されなかった。本址は中期10段階に位置付けられる。

⑤ SB-15 (第20図)

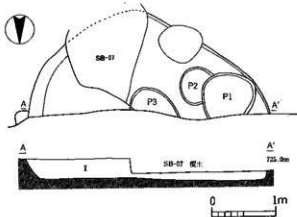
4区の東端、住居址の北半分は調査区域外で、調査範囲内でも西側2/3程はSB-07に切られている。それでもSB-07より掘り込みが深かったため、SB-07貼床下から10cm分程は本址の覆土を認めることができた。東西3.8mで、壁高は30cmを測る。覆土は単層で、ローム粒を多く含む黒色土(10YR1.7/1)であった。覆土中から顕著な遺物は出土しなかったが、本址の時期は中期12段階と思われる。

(2) 土壌・ピット (第21～23図 第2・3表)

土壌122基、ピット382基と、550㎡足らずの調査範囲としては実に多くの数で、集中的に検出された3区や4区では、地山のローム層である黄色の土より、黒い土の遺構部分が多いという位で、すべて掘り終わった後には足の置き場所にも困るという状態であった。土壌とピットの区別であるが、規模が大きい小さいかで分けただけであり、その基準が曖昧となってしまった。よってここでは分けて扱わず、一括りとして記述することにしたい。また数が多いにも多いため、そのひとつひとつについて遺構平面図及び断面図を掲載しておらず、記述もしていない。一覧表に規模や所属時期等を掲載したのでこちらを参照いただきたい。以下は其中でも特徴的であったものを取り上げ記述することにしたい。

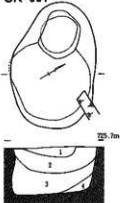


第19図 SB-13・14



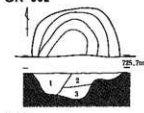
第20図 SB-15

SK-001



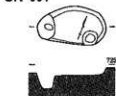
- SK-001
 1: 1BYR2/2 黒縄 跡残り・粘性あり
 灰を含む
 2: 1BYR2/3 粘縄 跡残り・粘性あり
 灰・遺物多く含む
 3: 1BYR2/2 黒縄 跡残り・粘性あり
 灰・土・遺物を含む
 4: 1BYR2/3 粘縄 跡残り・粘性なし
 ローム状・ロームブロック多く含む

SK-002

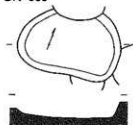


- SK-002
 1: 1BYR2/2 黒縄 跡残り・粘性あり
 ローム
 灰少し含む
 2: 1BYR2/3 粘縄 跡残り・粘性なし
 ローム
 灰少し含む
 3: 1BYR2/2 黒縄 跡残り・粘性なし
 ローム
 灰・ロームブロック・灰多く含む

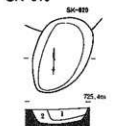
SK-004



SK-003



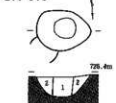
SK-010



SK-012

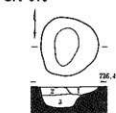
- SK-012
 1: 1BYR2/2 黒縄 跡残り・粘性あり
 ローム
 灰・1cm程度のロームブロック
 含む
 2: 1BYR2/3 粘縄 跡残り・粘性あり
 ローム
 灰・5mm程度のロームブロック含む

SK-015



- SK-015
 1: 1BYR2/1 黒縄 跡残りなし。
 粘性あり
 2: 1BYR2/2 粘縄 跡残り・粘性
 あり 1~2cmのロームブロック
 多く含む

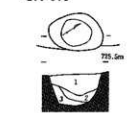
SK-016



SK-018

- SK-018
 1: 1BYR2/2 黒縄 跡残り・粘性
 なし
 ロームブロック多く含む
 2: 1BYR2/3 粘縄 跡残り・粘性
 なし
 ローム
 灰少し含む

SK-019



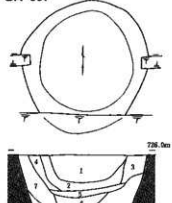
SK-025



SK-026

- SK-026
 1: 1BYR2/2 黒縄 跡残り・粘性あり
 ローム
 灰少し含む
 2: 1BYR2/3 粘縄 跡残り・粘性なし
 ローム
 灰・灰・土を含む
 3: 1BYR2/2 黒縄 跡残りなし
 粘性中
 あり
 4: 1BYR2/3 粘縄 跡残り・粘性なし
 5: 1BYR2/4 粘縄 跡残り・粘性なし

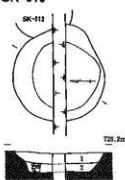
SK-007



SK-007

- SK-007
 1: 1BYR2/2 黒縄 跡残り・粘性なし
 灰多く含む
 2: 1BYR2/3 粘縄 跡残りやあり
 粘性あり
 灰多く含む
 ローム
 灰を含む
 3: 1BYR2/2 黒縄 跡残り・粘性なし
 5mm程度のローム
 ブロック少し含む
 4: 1BYR2/2 黒縄 跡残り・粘性なし
 ローム
 灰・2~3cm
 のロームブロック含む
 5: 1BYR2/2 粘縄 跡残りなし
 粘性あり
 ローム
 灰・1~3cmのロームブロック
 多く含む
 6: 1BYR2/3 粘縄 跡残りなし
 粘性あり
 ローム
 灰・1~3cmのロームブロック
 多く含む
 7: 1BYR2/3 粘縄 跡残りやあり
 粘性あり
 ローム
 灰を含む
 8: 1BYR2/3 粘縄 跡残り・粘性あり
 1~5cmのローム
 ブロック多く含む
 9: 1BYR2/1 黒縄 跡残り・粘性あり
 ローム
 灰を含む

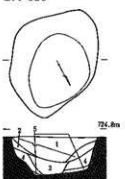
SK-010



SK-011

- SK-011
 1: 1BYR2/2 粘縄 跡残りやあり
 粘性あり
 5mm~1cmのローム
 ブロック
 多く含む
 2: 1BYR2/2 粘縄 跡残り・粘性あり
 1cm程度のローム
 ブロック・灰を含む

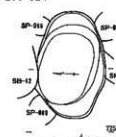
SK-023



SK-023

- SK-023
 1: 1BYR2/2 粘縄 跡残りやあり
 粘性
 なし
 1cm程度のローム
 ブロック
 少量含む
 2: 1BYR2/2 粘縄 跡残り・粘性中
 あり
 灰少し含む
 3: 1BYR2/2 粘縄 跡残りやあり
 粘性あり
 4: 1BYR2/3 粘縄 跡残り・粘性なし
 5: 1BYR2/2 粘縄 跡残り・粘性あり

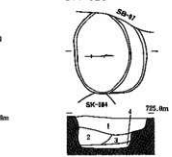
SK-024



SK-024

- SK-024
 1: 1BYR2/2 粘縄 跡残りあり
 粘性
 なし
 ローム
 灰少し含む
 2: 1BYR2/2 粘縄 跡残りやあり
 粘性
 あり
 1cm程度のローム
 ブロック・灰
 少量含む
 3: 1BYR2/2 粘縄 跡残り・粘性あり
 5mm~2cmのローム
 ブロック
 多量含む
 4: 1BYR2/3 粘縄 跡残りなし
 粘性あり
 5: 1BYR2/3 粘縄 跡残り・粘性あり
 9: 5mm~3cmのローム
 ブロック・灰を含む

SK-026



SK-026

- SK-026
 1: 1BYR2/2 粘縄 跡残り・粘性中
 あり
 1~1cmのローム
 ブロック
 含む
 2: 1BYR2/3 粘縄 跡残りやあり
 粘性中
 あり
 1~5cmのローム
 ブロック
 多く含む
 3: 1BYR2/4 粘縄 跡残り・粘性なし
 ローム
 灰・土の層状
 土
 4: 1BYR2/3 粘縄 跡残り・粘性なし
 ローム
 灰を含む

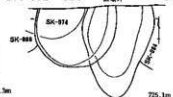
第21図 土壌(1)

SK-061



- SK-061
1: 10YR2/2 黒褐色 膠まり・粘
性やあり 5mm程度のローム
ブロック・減少し含む
2: 10YR2/2 黒褐色 膠まり・粘
性あり 減少し含む

SK-062・063



- SK-062
1: 10YR2/2 黒褐色 膠まり・粘性やあり
5mm程度のロームブロックを含む
2: 10YR2/2 黒褐色 膠まり・粘性やあり 減少
し含む
SK-063
①: 10YR2/2 黒褐色 膠まり・粘性なし 5mm程度の
ロームブロックを含む

SK-064



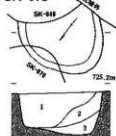
- SK-064
1: 10YR2/2 黒褐色 膠まりやあり
。粘性あり 5mm程度のローム
ブロック・減少し含む
2: 10YR2/2 黒褐色 膠まりやあり
。粘性あり 5mm-20mmのローム
ブロック・多く含む
3: 10YR2/2 暗褐色 膠まりなしし
。粘性やあり 5mmロームブ
ロックを含む

SK-069



- SK-069
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まり・粘
性なし 5mm-10mmのローム
ブロックを含む
2: 10YR2/2 暗褐色 膠まり・粘性
なし 30cm程度の厚さのローム
ブロックを含む

SK-072



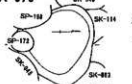
- SK-072
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まりあり、粘
性やあり 1-3cmのロームブ
ロックを含む
2: 10YR2/2 暗褐色 膠まり・粘性あり
3: 10YR2/2 暗褐色 膠まりなしし、粘
性あり 5mm程度のロームブロック
・あり 減少し含む

SK-073



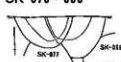
- SK-073
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まり・粘性
あり 5mm-10cmのロームブ
ロック・多く含む

SK-075



- SK-075
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まりあり、粘
性やあり 5mm-10cmのロームブ
ロック・多く含む
2: 10YR2/2 暗褐色 膠まり
なしし、粘性やあり 5mm-10cm
のロームブロック・多く含む
3: 10YR2/2 暗褐色 膠まり・粘性
やあり 5mm程度のロームブ
ロック・含む

SK-076・080



SK-089



- SK-089
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まりなしし
粘性あり 減少し含む

SK-081



- SK-081
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まり・粘性
あり 5mm-10cmのローム
ブロック・多く含む

SK-083



- SK-083
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まり・粘性
なし 10cm程度のロームブロッ
ク・減少し含む
2: 10YR2/2 暗褐色 膠まり・粘性
やあり 10cm程度のロームブ
ロック・減少し含む
3: 10YR2/2 暗褐色 膠まり・粘性
あり 1-3cmのロームブロッ
ク・含む

SK-086



- SK-086
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まりなしし
粘性やあり 5mm程度のローム
ブロック・減少し含む

SK-087



- SK-087
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まりなしし
粘性やあり 5mm程度のローム
ブロック・減少し含む
2: 10YR2/2 暗褐色 膠まり・粘性
やあり 減少し含む

SK-088



- SK-088
1: 7.5YR2/2 黒褐色 膠まりや
あり、粘性あり 5mm-10cmのロ
ームブロック・多く含む 灰色
あり 5mm-10cmのロームブ
ロック・多く含む 灰白色

SK-120



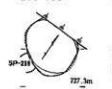
- SK-120
1: 10YR2/2 黒褐色 膠まりなしし
粘性あり 減少し含む
2: 10YR2/2 暗褐色 膠まりなしし
粘性あり 10cm程度のロームブ
ロックを含む

SK-123



- SK-123
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まりあり
。粘性やあり 5mm程度のローム
ブロック・含む
2: 10YR2/2 暗褐色 膠まりなしし
粘性やあり 5mm-10cmのロ
ームブロック・含む
3: 10YR2/2 暗褐色 膠まりやあり
。粘性あり 5mm程度のロームブ
ロック・多く含む
4: 10YR2/2 暗褐色 膠まりやあり
。粘性あり 5mm-10cmのロ
ームブロック・含む

SK-105



- SK-105
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まり
やあり、粘性あり 5mm
程度のロームブロック・減少
し含む
2: 10YR2/2 暗褐色 膠まり
あり、粘性あり 5mm-10cm
のロームブロック・含む

SK-108



- SK-108
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まりなしし、粘
性やあり 5mm程度のロームブ
ロック・減少し含む
2: 10YR2/2 暗褐色 膠まり・粘性
やあり 5mm程度のロームブ
ロック・多く含む

SK-109



- SK-109
1: 2.5YR2/2 黒褐色 膠まり
なしし、粘性やあり 5mm程度
のロームブロック・含む 透
SP-211
2: 10YR2/2 暗褐色 膠まり
物はこの層から
3: 10YR2/2 暗褐色 膠まり
なしし、粘性やあり 5mm程度
のロームブロック・減少し含む

SK-121



- SK-121
1: 10YR2/2 暗褐色 膠まりやあり
。粘性あり 5mm程度のローム
ブロック・減少し含む
2: 10YR2/2 暗褐色 膠まりやあり
。粘性あり 5mm-10cmのロ
ームブロック・多く含む
3: 10YR2/2 暗褐色 膠まりやあり
。粘性あり 5mm程度のロームブ
ロック・多く含む
4: 10YR2/2 暗褐色 膠まりやあり
。粘性あり 5mm-10cmのロ
ームブロック・多く含む
5: 10YR2/2 暗褐色 膠まりやあり
。粘性あり 減少し含む

第23図 土壌(3)

SK-001 2区の西端、SB-01とSB-02に挟まれる位置から検出された。201×132×81cmを測り、平面形は楕円形状で、2段に掘り込まれていた。覆土中(2・3層が主)から、縄文中期末～後期初頭に位置付けられる土器がコンテナ(590×386×154mm:本報告書記述中コンテナの量はすべてこの大きさ)で1箱分強出土した。土器はすべて破片資料で、完形に復元できるものはなく、土壌中に投げ込まれた廃棄物的な性格を有すと思われる。土器の帰属時期も中期の範疇におさまる資料から、確実に後期の様相を示す資料まで時間の幅を認めることができる。なお覆土中(3層)に焼土塊も見られた。

SK-007 2区のSB-04を切る状態で検出された。211×200×111cmと本調査で見つかった土壌としてはかなり大型で、平面形は円形状、断面形は桶状を呈する。覆土上層(1層)から、中期末～後期初頭の土器片が密集した状況で見つかり、コンテナで2箱弱の量があった。土器は完形に復元できるものがなく、SK-001同様すべて破片資料であった。土壌中に投げ込まれた廃棄物的な性格を有すと思われる。なお覆土の中層～下層にはほぼ遺物が含まれず、大きなロームブロックが多量に含まれている堆積状況であった。出土土器は中期後半～後期初頭の範囲内と時間の幅を有すが、SK-001に比べ中期末に位置付けられる土器がまとまっている。

SK-010 2区の真ん中で検出され、SK-012を切る。144×141×35cmを測り、平面形は円形状、断面形はタライ状を呈する。土壌北寄の底面に接する状態で、中期3段階の完形土器(第27図38)が正位に置かれた状態で出土した。これ以外に遺物の出土は認められず、本調査でこのような状態を示す土壌は唯一であった。

SK-024 4区の真ん中付近にあり、SB-12に切られ、SP-089・092・094・095を切る。2段の掘り込みを有し平面楕円形状で、169cm×114cm×53cmを測る。覆土中からは中期13段階に位置付けられる土器片がややまとまって出土したが、土偶の脚部(第30図 土1・2)が出土している。今調査で土偶の出土はこの2例のみであった。

SK-034 3区の西端にあり、西側をSK-033に切られ、SK-115を切っている。土壌の北側は調査区域外になるが、推定で南北140cm、東西105cmになり、深さ80cmを測る。平面形は楕円形状で、断面形は方形状を呈する。土壌の底面から4cm浮いた状態でひすい製垂飾が1点(第44図78)出土した。SK-034の集落内における位置関係であるが、過去の調査成果から、環状集落の住居址が円形状に巡る区域と、中央の広場に挟まれた位置に存在するといえる。この位置は一般的に墓域であると言われていることから、SK-034は墓穴であって、葬られた人物と共に埋められたひすい製垂飾が出土した状況と違って間違いないだろう。覆土中からは第37図157・158の土器片が出土しており、中期11段階に位置付けられる。

SK-045 3区の中央からやや東寄りにあり、深さ23cmで細長い不整形を呈するが、南側は調査区域外にまで及ぶ。覆土中から、深鉢(第28図46)が縦に割られ伏せられた状況で出土した。深鉢は体部を1/3程と底部を失っていたが、後期堀之内I式に見られるもので、当遺跡において当期の遺物が見つかったのは初めてである。

SK-049 3区のほぼ真ん中にあり、SK-070とSP-158・211を切る。土壌の北端は調査区域外であるが、推定南北115cmで、東西90cm、深さ75cmを測る。平面形は隅がやや角張る不整形形状で、断面形は方形状を呈する。ひすい製垂飾2点が5cm離れた状況で見つかり、第44図79が底面から1cm、80が1.5cm浮いた状況で出土した。SK-034同様、環状集落内の墓域と考えられる位置にあり、SK-049も墓穴と考えて間違いないだろう。図化するまでの土器は出土しなかったが、中期12～13段階と思われる細片が数点出土

している。なお図化していないが、覆土中から半損以上の打製石斧1点が出土している。

SK-055 3区の中央からやや西側より検出され、SK-043・056、SP-199に切られる。長軸130cm、短軸75cm程と推測され、深さ45cmを測り、平面は楕円形状、断面は台形状を呈する。覆土中から深鉢を縦に半載した土器(第28図49)が、口縁部が上で、土器の内面下向きで斜めの状態で出土した。SK-055の集落内における位置は、ひすい製垂飾が出土した土壌同様に基域と考えられる場所であり、この土器は遺体の顔面を覆うようにして埋葬された甕被葬墓と考えられる。本遺跡では第2次調査につき2例目の発見となる。

SK-060 3区SB-13の西にあり、SB-13とSK-082に切られ、SK-087・088を切る。覆土内から蛇紋岩製の垂飾(第44図81)が出土した。ただしひすい製垂飾が出土した前述の土壌とは違い、覆土のかなり上層から見ついているゆえ、この土壌が墓穴で、ここに葬られた人物と共に埋められたかどうかは疑わしい。

SK-063 3区の真ん中にあり、SK-045・075に切られ、SP-193・218・360を切る。平面形は楕円形状で、長軸185cmを測り、短軸110cmと推測され、深さは22cmと浅く、断面形はクライ状を呈する。底に接する状態で横に倒れた深鉢(第28図47)だけが出土し、他に遺物はない。出土土器は中期9段階に位置付けられるものである。

SK-073 4区の真ん中にあり、東をSX-001、西をSX-002に切られる。103cm×96cm×67cmを測り、平面形状は円形、断面形状は袋状を呈する。土壌のほぼ底面に接する状態で径10cm程の礫が2つ出土した。いわゆる貯蔵穴様な土壌と判断される。出土遺物より中期14段階に位置付けられる。

SK-120 3区SB-14内から発見された。当初SB-14に伴う遺構と考えていたが、覆土中出土の土器と時期が合わなかったため土壌番号を冠した。体部より上を欠損した深鉢(第29図53)が正位で埋められており、埋甕の様相を呈する。SB-14の埋甕とすると位置が住居址中央部にきてしまう上、覆土中出土の遺物と時期が整合しない。調査区域外の北側に他の住居址が存在し、これに伴う埋甕である可能性もあるが確かめることはできなかった。時期は中期12段階と思われる。

SK-123 4区SB-06南側に検出され、SX-002内にあるが、切り合い関係は不明である。口縁部付近のみを欠く土器(第29図56)が正位に埋められており、掘り方は土器を入れるのに必要最低限しか掘られていない。土壌とはしたものの、明らかに埋甕の様相を呈している。この周辺は、遺構の上面がかなり削平されている状態だったので、住居址に伴っていたものなのか、単独で存在したものなのかを確認するだけの証拠が得られなかった。ちなみにこの土器から南西方向へ2.3m程離れた箇所からは、石囲い炉の様相を示すが、これまた住居址に伴うものなのか、単独で存在したのかを判断できなかったSX-003がある。SK-123とSX-003がセットになる住居址だったかもしれないし、そう考える方が自然であろうか。埋められていた土器の時期は中期10段階である。

SP-228 4区SB-10内にあり、これとSK-057を切る。遺構は径60cm程とそれほど大型ではないが、半完形の土器(第29図54、第30図57・58)が重なり合う状態で出土した。出土土器の時期は中期14段階と思われる。

SP-229 4区SB-10の南端を切る状態で検出され、深鉢(第30図59)が正位の状態で出土した。時期は中期12段階だろうか。

第2表 土壌一覧表

番号	林分区分	中心点	形状	面積	林齢	立木	林種	時期	分析項目	備考
SK-001	2区	楕円形	G	201	132	81	杉木等式	なし		中期末～後期初期土層多く出土
SK-002	2区	楕円形	G	139		31	中期14級階	なし		
SK-003	2区	楕円形	A	164		25	中期14級階	>SK-005 <SP-009-010		
SK-004	2区	楕円形	H	109	62	25	中期11級階	なし		
SK-005	2区	円形		86	65	14	中期10級階	<SK-004		
SK-006	2区					8	不明	>SB-01		遺物小片のみ
SK-007	2区	円形	C	211	200	111	中期14級階	<SB-04		中期末～後期初期土層多く出土
SK-008	2区		G		104	16	不明	>SP-025		遺物出土なし
SK-009	2区	楕円形	A	110	79	8	不明	なし		遺物小片のみ
SK-010	2区	円形	D	144	141	35	中期3級階	<SK-012		
SK-011	2区	楕円形	A	86	64	9	不明	>SK-019		遺物出土なし
SK-012	3区	円形	A	97		6	不明	なし		遺物出土なし
SK-013	3区	楕円形	A	102	67	16	不明	なし		遺物出土なし
SK-014	2区		A		106	4	不明	<SP-007-038		遺物出土なし
SK-015	2区	楕円形	C	85	63	34	不明	<SP-043		遺物出土なし
SK-016	3区	円形	G	92	92	26	不明	なし		遺物出土なし
SK-017	2区	楕円形	B	97	94	20	不明	なし		遺物出土なし
SK-018	2区	楕円形	H	128	87	23	中期14級階	<SB-01-SK-030		
SK-019	2区	楕円形	C	88	28	48	中期14級階	<SB-01		
SK-020	2区	不整形	G			10	不明	<>SB-01		
SK-021	2区	不整形	H		114	87	中期5～6級階	<SB-01		西半調査区域外
SK-022	2区		C			87	中期14級階	<SB-01		西半調査区域外
SK-023	4区	不整形	H	176	134	63	中期8級階	なし		
SK-024	4区	楕円形	G	169	114	53	中期13級階	>SB-12 <SP-069+092-094+095		
SK-025	4区	不整形	G	183	156	45	杉木等式	<SB-13>SP-049		
SK-026	4区	円形	G	112	53	53	中期13級階	>SB-07 <SK-084		
SK-027	4区	不整形	A		98	4	不明	<SB-13		南半調査区域外
SK-028	4区	不整形	II	162	30	30	中期12級階	>SB-06・SP-053 <SK-030		
SK-029	4区	楕円形	H		68	15	不明	なし		遺物出土なし
SK-030	4区		A		97	9	中期12級階	>SK-028		北半調査区域外
SK-031	4区		H		80	59	中期13級階	<SK-064		南半調査区域外
SK-032	4区	楕円形	B	172	30	30	中期7級階	>SB-07-08-SK-058		
SK-033	3区	楕円形	D	158		35	中期12級階	<SK-034+093-113		
SK-034	3区	楕円形	C		185	80	中期11級階	>SK-033 <SK-115		ひがし調査区北 北端調査区域外
SK-035	3区	楕円形	G	144	110	51	杉木等式	<SP-203		
SK-036	3区	楕円形	D	122	71	42	不明	なし		遺物出土なし
SK-037	3区	楕円形	F	113	85	21	不明	なし		遺物出土なし
SK-038	3区	楕円形	G	157	78	69	不明	<SP-105 >SP-206		遺物小片のみ
SK-039	3区	不整形	F	117	60	60	中期14級階	<SP-190		
SK-040	3区		G			32	不明	なし		遺物小片のみ 西半調査区域外
SK-041	3区	不整形	D	120	110	30	不明	<SP-144+187+188		遺物出土なし
SK-042	3区	楕円形	F	116	80	30	中期5級階	>SP-132		
SK-043	3区	楕円形	D	120	100	61	中期14級階	<SK-055-121		
SK-044	3区	楕円形	D	138		73	中期11級階	>SK-047		南半調査区域外
SK-045	3区	不整形	H		82	23	配之内1式	<SK-063-075		南半調査区域外
SK-046	3区		D		160	89	中期12級階	<SK-071-072		南半調査区域外
SK-047	3区	楕円形	H	202	148	115	中期14級階	<SK-044-070-077-111		
SK-048	3区	円形	D	95	87	43	不明	>SK-075 <SK-079-114>SP-165		ひがし調査区北 北端調査区域外
SK-049	3区	楕円形	C		90	75	中期12～13級階	<SK-070-SP-158-211		
SK-050	4区	長楕円形	B		89	10	中期11級階	<SH-19 >SP-067-226		
SK-051	4区	円形	B	148	136	22	中期11級階	>SB-07		
SK-052	4区	楕円形	A	120	85	9	不明	>SH-07 <SK-053		遺物出土なし
SK-053	4区	不整形	B		105	22	中期13級階	>SB-07-SK-062		
SK-054	4区	長楕円形	C	202		72	中期7級階	>SH-06-SK-031-SP-068 <SK-074		
SK-055	3区	楕円形	D			45	中期14級階	>SK-043-056・SP-199		破壊層
SK-056	3区	不整形	B	118	103	21	不明	>SP-199 <SK-050-SP-152		
SK-057	3区	不整形	G	129	114	44	中期11級階	<SB-01-SK-089-SP-230-237		
SK-058	4区	楕円形	D	159	116	72	杉木等式	>SB-07 <SB-08-SK-030-059		
SK-059	4区	楕円形	B		98	9	中期8級階	>SB-07-SK-058		
SK-060	3区	楕円形	F		88	57	中期13級階	>SB-13-SK-062 <SK-087-088		蛇紋岩製器出土
SK-061	3区	長楕円形	G	137	72	13	中期8級階	<SK-067 >SK-062		
SK-062	3区	楕円形	H		41	41	中期11級階	>SK-068 <SK-054		北半調査区域外
SK-063	3区	長楕円形	B	185		22	中期8級階	>SK-045-075 <SP-218-219-360		
SK-064	3区	不整形	D	144	104	43	中期13級階	>SP-197 <SK-094-SP-308-359		
SK-065	3区	円形	B		107	13	不明	<>SP-176-177 <SK-066		遺物出土なし

番号	床の形状	平面形	柱高形	柱径	与軸	深さ	基礎	切りあい関係	備考
SK-066	3区	楕円形	F		81	38	不明	>SK-065・SP-107	遺物小片のみ
SK-067	3区	円形	D			30	中期2～11段階	なし	南平調査区域外
SK-068	3区	円形	A		124	29	中期12段階	<SK-062-074-086	北平調査区域外
SK-069	3区	楕円形	D	122	56	30	中期7段階	>SK-070-080	
SK-070	3区	楕円形	H		92	21	中期12段階	<SK-069-072 >SK-047-049	
SK-071	3区	円形	B			29	不明	>SK-045-SP-163 <>SP-162	
SK-072	3区	楕円形	D		126	74	中期12段階	>SK-044-070	南平調査区域外
SK-073	4区	円形	E	103	96	67	中期4段階	<>SK-061-022	
SK-074	3区	円形	C				中期5段階	>SK-068-086	北平調査区域外 数値計測ミス
SK-075	3区	不整形	D	125	57	30	中期12段階	>SK-045-SP-172 <SK-048-049-114-SP-188	
SK-076	3区	円形	C			77	著名寺式	<SK-077-089	北平調査区域外
SK-077	3区	楕円形	C		72	38	不明	<SK-080 >SK-047-076	遺物出土なし
SK-078	3区	円形	C			38	不明	>SK-079-SP-211-212	北平調査区域外
SK-079	3区	楕丸長方形	B	114	77	24	不明	>SK-048-090-SP-160 <SK-078-SP-088	
SK-080	3区	円形	C			77	中期7段階	>SK-076-077 <SK-069	北平調査区域外
SK-081	3区	円形	E	105	58	30	不明	なし	遺物小片のみ
SK-082	3区	楕円形	B	106	86	25	中期14段階	<SK-060-061	
SK-083	4区	楕円形	C	114	39	30	中期12段階	>SK-033 <SK-091	南平調査区域外
SK-084	4区					64	不明	>SK-025	遺物小片のみ 南平調査区域外
SK-085	4区					35	不明	<SK-079-SP-211-212	遺物小片のみ 南平調査区域外
SK-086	3区	楕円形	B		85	29	中期13段階	<SK-074-SP-360 >SK-668	
SK-087	3区	不整形	B		86	17	中期5段階	>SK-060-089-SB-13 <SP-216	
SK-088	3区	楕丸長方形	D	122	80	47	中期12段階	>SB-13-SK-060-SP-279 <SK-087-SP-366	
SK-089	3区	楕円形	C	125	81	69	中期11段階	<SH-14-SP-225 >SK-657-SP-224	
SK-090	3区					41	不明	<SK-079	遺物小片のみ
SK-091	4区	楕円形	D			30	不明	>SK-083・SP-361	遺物出土なし
SK-092	3区	不整形	D	137	94	43	不明	<>SB-13-14	遺物出土なし
SK-093	3区	円形	B			79	中期5～6段階	>SB-13	
SK-094	3区	円形	D		103	45	不明	>SK-062-064	遺物出土なし
SK-095	1区	円形	H	118	13	30	不明	なし	遺物小片のみ 北平調査区域外
SK-096	1区	円形	D	108	99	36	不明	なし	遺物出土なし
SK-097	1区	楕円形	B	169	15	30	不明	なし	遺物小片のみ 北平調査区域外
SK-098	1区	楕円形	B	147	97	35	中期2段階	なし	
SK-099	1区		D	164	38	30	不明	<SP-245	北平調査区域外
SK-100	1区	楕円形	A	88	85	11	不明	<SP-355	遺物破片
SK-101	1区	楕円形	D	88	62	33	不明	<SK-102	遺物小片のみ
SK-102	1区					32	不明	>SK-101	遺物出土なし
SK-103	1区	円形	B	84	75	25	中期7～8段階	<SP-278	
SK-104	1区	楕円形	F	93	75	33	不明	<SP-275	遺物小片のみ
SK-105	1区	楕円形	E	89	89	24	中期5～6段階	<SP-288	北平調査区
SK-106	1区	楕円形	A	93	67	14	不明	<SP-207	遺物出土なし
SK-107	1区	楕円形	A		106	16	不明	<SP-317	遺物小片のみ
SK-108	1区	楕円形	G	127	102	34	中期3段階	<SK-221	
SK-109	1区	不整形	C	88	51	25	中期4段階	なし	
SK-110	1区	長楕円形	F	102	54	19	不明	>SP-333	遺物出土なし
SK-111	1区					17	前期	なし	遺物小片のみ
SK-112	3区	楕円形	B	99	73	20	不明	<SK-113	遺物出土なし
SK-113	3区	円形	F		104	38	不明	>SK-112	遺物出土なし
SK-114	3区					29	不明	>SK-075-048	遺物出土なし
SK-115	3区					5	不明	>SK-033-034	遺物出土なし
SK-116	4区	不整形	F		111	63	不明	>SB-47	遺物出土なし
SK-117	4区	長楕円形	H	201		13	不明	<SP-262 >SH-08-SK-001-SP-383	遺物出土なし
SK-118	4区	不整形	D	163		42	不明	>SB-06	遺物小片のみ
SK-119	4区	楕円形	C		64	60	不明	>SB-06-SP-275-377	
SK-120	3区	円形	C		68	37	中期12段階	<SB-14	埋蔵
SK-121	3区					53	不明	>SK-043-047	遺物出土なし
SK-122	3区	楕円形	B		113	17	不明	>SP-147 <SP-154	遺物出土なし 南平調査区域外

- 土質の規模数値の単位は「cm」である。
- 切りあい関係は、「>」: 切られる、「<」: 切るである。
- 断面形は、「A」: 皿状、「B」: クライ状、「C」: 桶状、「D」: 台形状、「E」: 袋状、「F」: 小ピットが伴うもの、「G」: 2段以上に掘り込まれているもの、「H」: 不整形である。
- 数値の欄空白の箇所は、切りあい関係や遺構が区域外まで及ぶため計測不可を意味する。

第3表 ビット一覧表

通称番号	稼働箇所	月数	足積	長さ	内容	割り当て内容	備考
SP-001	2区	29	25	11	不明	<SP-002	遺物出土なし
SP-002	2区			16	不明	>SB-02-SP-001	遺物出土なし
SP-003	2区	53	37	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-004	2区	23	23	10	不明	なし	遺物小片のみ
SP-005	2区	69			後期初層	なし	
SP-006	2区	41	29	23	不明	なし	遺物出土なし
SP-007	2区	67	63	5	中期5段階	なし	
SP-008	2区	41	41	50	中期12段階	なし	
SP-009	2区	53	57	中期5段階		>SK-001	
SP-010	2区	75		19	不明	>SK-003	遺物出土なし
SP-011	2区	31	29	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-012	2区	42	29	6	不明	なし	遺物出土なし
SP-013	2区	42	36	6	不明	なし	遺物出土なし
SP-014	2区	58	36	21	不明	なし	遺物出土なし
SP-015	2区	59	39	4	不明	<SP-017	遺物出土なし
SP-016	2区	45	41	3	不明	なし	遺物出土なし
SP-017	2区		21	9	不明	>SP-018	遺物出土なし
SP-018	2区		58	11	不明	なし	遺物出土なし
SP-019	2区		72	12	不明	>SB-04	遺物出土なし
SP-020	2区	30	30	14	不明	なし	遺物出土なし
SP-021	2区	53	52	8	不明	<SP-022	遺物出土なし
SP-022	2区		37	10	不明	>SP-021+023	遺物出土なし
SP-023	2区	96	66	44	不明	<SP-022	遺物小片のみ
SP-024	2区	82	43	5	不明	なし	遺物出土なし
SP-025	2区	120	70	7	不明	<SK-008	遺物出土なし
SP-026	2区	54	53	4	不明	なし	遺物出土なし
SP-027	2区	93	67	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-028	2区	43	37	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-029	2区	43	43	4	不明	なし	遺物出土なし
SP-030	2区	37		4	不明	>SP-034	遺物出土なし
SP-031	2区			8	不明	>SP-034	遺物出土なし
SP-032	2区	48	27	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-033	2区	67		5	不明	なし	遺物出土なし
SP-034	2区	47	41	16	不明	<SP-030+031	遺物出土なし
SP-035	2区	51	51	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-036	2区			6	不明	>SP-037	遺物出土なし
SP-037	2区			15	不明	>SK-014 <SP-036	遺物出土なし
SP-038	2区	58		6	不明	>SK-014	遺物出土なし
SP-039	2区	102		6	不明	なし	遺物出土なし
SP-040	3区	69	59	15	不明	なし	遺物出土なし
SP-041	2区	62	60	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-042	2区	69	61	11	不明	<SP-043	遺物出土なし
SP-043	2区	45		13	不明	>SP-042-SK-016	遺物出土なし
SP-044	2区	76	63	18	不明	なし	遺物出土なし
SP-045	2区	36	33	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-046	2区	43	43	12	不明	なし	遺物出土なし
SP-047	2区	41	41	12	不明	なし	遺物出土なし
SP-048	2区	67	59	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-049	4区		33		不明	なし	遺物出土なし
SP-050	4区	57	30	14	不明	なし	遺物小片のみ
SP-051	4区	57	45	48	中期後半?	<SP-052	
SP-052	4区				不明	>SK-018-SP-061	遺物出土なし
SP-053	4区	47	35	71	不明	<SK-028	遺物小片のみ
SP-054	4区	31	29	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-055	4区	28	28	28	不明	なし	遺物小片のみ
SP-056	4区	30	28	21	中期11~12段階	なし	遺物小片のみ
SP-057	4区	15	13	5	不明	なし	遺物出土なし
SP-058	4区	35	27	39	不明	なし	遺物小片のみ
SP-059	4区	37	33	4	不明	なし	遺物出土なし
SP-060	4区	38	25	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-061	4区	70	52	60	中期5段階	なし	
SP-062	4区	62	43	51	中期5段階	なし	
SP-063	4区	38	34	5	中期5段階	なし	
SP-064	4区		32	6	不明	>SP-065	遺物小片のみ
SP-065	4区	51	43	29	不明	<SP-064	遺物小片のみ
SP-066	4区			58	中期後半?	なし	
SP-067	3区		36	28	不明	>SP-190	遺物出土なし
SP-068	4区		22	9	不明	なし	遺物出土なし
SP-069	4区		32	37	中期5段階?	>SB-68	遺物出土なし
SP-070	4区		43	12	不明	<SP-068	
SP-071	4区		33	13	中期後半?	<SP-072	
SP-072	4区			9	不明	>SB-06-SP-071	遺物出土なし
SP-073	4区			7	不明	<>SB-18	遺物小片のみ
SP-074	4区		33	8	不明	>SK-664	遺物出土なし
SP-075	4区	49	39	11	不明	<SB-10	遺物小片のみ
SP-076	4区	24	21	8	不明	<SP-068	遺物出土なし
SP-077	4区		38	19	不明	>SP-088	遺物出土なし

調査番号	採出箇所	直径	地材	長さ	時期	取りまき箇所	備考	
SP-678	4区		36		不明	>SK-003	遺物出土なし	
SP-679	4区	27	26	13	中層10~11段層	<SP-686	遺物小片のみ	
SP-680	4区	61	47	19	不明	>SP-679	遺物出土なし	
SP-681	4区		44	9	不明	>SP-679	遺物出土なし	
SP-682	4区	61	63	22	中層11段層	<SP-686-SK-682	遺物出土なし	
SP-683	4区	63	47	11	不明	<SK-001-SP-362-SK-117	遺物小片のみ	
SP-684	4区	64	34	22	不明	なし	遺物小片のみ	
SP-685	4区			40	後層1層	>SB-07		
SP-686	4区			68	中層10段層	>SP-679		
SP-687	4区		62	61	中層11段層	>SB-06 <SK-050		
SP-688	4区		55	49	不明	>SP-676 <SK-054-SP-677	遺物小片のみ	
SP-689	4区		44	11	不明	>SK-024	遺物出土なし	
SP-690	4区		57	22	不明	>SP-091 <SK-002	遺物小片のみ	
SP-691	4区		48	27	不明	>SP-092 <SP-690	遺物出土なし	
SP-692	4区		60	13	不明	>SK-024 <SP-691	遺物出土なし	
SP-693	4区	43		16	不明	>SP-092 <SP-694	遺物出土なし	
SP-694	4区		43	13	中層6段層	>SK-024-SP-693	遺物小片のみ	
SP-695	4区		21	14	不明	>SK-12-SK-024	遺物出土なし	
SP-696	4区	42	39	32	不明	<SK-001	遺物出土なし	
SP-697	4区	50	28	32	中層9段層	<SK-003	遺物小片のみ	
SP-698	3区			20	不明	>SK-079		
SP-699	4区		33	20	不明	>SP-162	遺物出土なし	
SP-100	4区		31	35	不明	>SP-161	遺物出土なし	
SP-101	4区		33	25	不明	>SP-102 <SP-100	遺物小片のみ	
SP-102	4区	66	30	30	不明	<SP-099+101 >SK-085	遺物出土なし	
SP-103	4区	35	30	33	中層14段層	なし		
SP-104	4区		36	7	不明	なし	遺物出土なし	
SP-105	3区		38	12	不明	>SK-038	遺物出土なし	
SP-106	3区	34	22	27	不明	なし	遺物出土なし	
SP-107	3区	61	43	6	不明	なし	遺物出土なし	
SP-108	3区	47	29	21	不明	なし	遺物出土なし	
SP-109	3区	57	31	66	不明	なし	遺物出土なし	
SP-110	3区	26	34	8	不明	なし	遺物出土なし	
SP-111	3区		36	29	不明	なし	遺物出土なし	
SP-112	3区	32	32	27	不明	なし	遺物出土なし	
SP-113	3区	49	27	13	不明	なし	遺物出土なし	
SP-114	3区	35	33	22	不明	なし	遺物出土なし	
SP-115	3区	35	26	17	不明	なし	遺物出土なし	
SP-116	3区	25	21	23	不明	なし	遺物出土なし	
SP-117	3区	22	20	16	不明	なし	遺物出土なし	
SP-118	3区		43	23	不明	なし	遺物出土なし	
SP-119	3区		42	38	11	不明	<SP-120	遺物出土なし
SP-120	3区	34		12	不明	>SP-119	遺物出土なし	
SP-121	3区	53	36	14	不明	なし	遺物出土なし	
SP-122	3区	53	39	31	不明	なし	遺物出土なし	
SP-123	3区	45	42	42	不明	なし	遺物出土なし	
SP-124	3区	59		44	中層13段層	>SP-125		
SP-125	3区		40	37	不明	>SP-126 <SP-124	遺物出土なし	
SP-126	3区	36	29	22	不明	<SP-125	遺物出土なし	
SP-127	3区	84	62	37	中層14段層	<SP-128	遺物出土なし	
SP-128	3区			8	不明	>SP-127	遺物出土なし	
SP-129	3区	32	32	21	不明	なし	遺物出土なし	
SP-130	3区	39	37	47	中層11~12段層	なし		
SP-131	3区	32	26	15	不明	なし	遺物出土なし	
SP-132	3区	38	33	16	不明	<SK-042	遺物出土なし	
SP-133	3区	26	25	16	不明	なし	遺物出土なし	
SP-134	3区	39	31	19	不明	なし	遺物出土なし	
SP-135	3区	59	54	26	中層未?	なし		
SP-136	3区	31	23	20	不明	なし	遺物出土なし	
SP-137	3区	51	33	31	不明	なし	遺物出土なし	
SP-138	3区	54	41	28	中層8段層	<SP-130	遺物出土なし	
SP-139	3区		30	26	不明	>SP-138-146	遺物小片のみ	
SP-140	3区	43	29	23	不明	<SP-130	遺物出土なし	
SP-141	3区	45	39	29	不明	<SP-192	遺物出土なし	
SP-142	3区	49	28	9	不明	なし	遺物出土なし	
SP-143	3区	63	47	38	中層7段層	なし		
SP-144	3区			26	不明	>SK-041 <SP-189	遺物出土なし	
SP-145	3区		33	33	不明	なし	遺物出土なし	
SP-146	3区	51	41	40	不明	なし	遺物出土なし	
SP-147	3区	37	28	15	不明	<SK-122	遺物出土なし	
SP-148	3区	40	42	24	不明	なし	遺物出土なし	
SP-149	3区	26	24	19	不明	なし	遺物出土なし	
SP-150	3区	70		54	不明	>SK-079	遺物出土なし	
SP-151	4区	26	22	15	不明	>SB-10	遺物出土なし	
SP-152	3区		53	44	不明	>SK-056 <SP-143	遺物出土なし	
SP-153	3区	59		19	不明	>SP-152	遺物出土なし	
SP-154	3区			30	不明	>SK-122	遺物出土なし	
SP-155	3区	26	26	11	不明	なし	遺物出土なし	
SP-156	3区		21	19	不明	>SP-157	遺物出土なし	

品名番号	使用品名	数量	仕数	欠数	内訳	取引先/品名	備考
SP-157	3区	52	31	21	不明	<SP-156	遺物出土なし
SP-158	3区	49	13	36	不明	>SK-049 <SP-211	遺物出土なし
SP-159	3区	28	24	4	不明	なし	遺物出土なし
SP-160	3区	67	59	8	不明	>SK-079	遺物出土なし
SP-161	3区	63	76	13	不明	>SK-079	遺物出土なし
SP-162	3区	29	36	7	不明	<>SK-071	遺物出土なし
SP-163	3区	43	44	1	不明	<>SK-071	遺物出土なし
SP-164	3区	45	34	11	不明	<SP-161	遺物出土なし
SP-165	3区	40	14	26	不明	>SK-048	遺物出土なし
SP-166	3区	25	20	5	不明	なし	遺物出土なし
SP-167	3区	26	14	12	不明	>SP-168	遺物出土なし
SP-168	3区	34	26	8	不明	<SP-167-169	遺物出土なし
SP-169	3区	17	9	8	不明	>SP-168-170	遺物出土なし
SP-170	3区	30	24	6	不明	<SP-169	遺物出土なし
SP-171	3区	24	9	15	不明	>SP-168	遺物出土なし
SP-172	3区	35	33	2	不明	<SK-075	遺物出土なし
SP-173	3区	32	34	2	不明	なし	遺物出土なし
SP-174	3区	76	69	7	不明	<>SK-065	遺物出土なし
SP-175	3区	26	21	5	不明	<>SK-065	遺物出土なし
SP-176	3区	28	19	9	不明	<>SK-066	遺物出土なし
SP-177	3区	28	19	9	不明	<>SK-066	遺物出土なし
SP-178	3区	25	10	15	不明	なし	遺物出土なし
SP-179	3区	23	21	2	不明	なし	遺物出土なし
SP-180	3区	34	23	11	不明	なし	遺物出土なし
SP-181	3区	34	20	14	不明	なし	遺物出土なし
SP-182	3区	34	20	14	不明	なし	遺物出土なし
SP-183	3区	7	7	0	不明	>SP-184	遺物出土なし
SP-184	3区	56	22	34	不明	<SP-183	遺物出土なし
SP-185	3区	28	20	8	不明	なし	遺物出土なし
SP-186	3区	20	22	2	不明	<SP-010	遺物出土なし
SP-187	3区	60	9	51	不明	<SP-210 >SK-041	遺物出土なし
SP-188	3区	45	9	36	不明	>SK-041	遺物出土なし
SP-189	3区	25	27	2	不明	>SP-144 <SP-190	遺物出土なし
SP-190	3区	23	29	6	不明	>SP-189-191	遺物出土なし
SP-191	3区	27	29	2	不明	>SP-192 <SP-190	遺物出土なし
SP-192	3区	34	26	8	不明	>SP-141 <SP-191	遺物出土なし
SP-193	3区	30	11	19	不明	>SK-063 <SP-218	遺物出土なし
SP-194	4区	32	32	0	不明	>SB-07	遺物小片のみ
SP-195	4区	58	42	16	不明	>SB-07	遺物出土なし
SP-196	4区	37	30	7	不明	<SK-064-066	遺物出土なし
SP-197	4区	34	80	46	不明	<SK-075-SP-171	遺物出土なし
SP-198	3区	69	55	14	不明	<SK-055-066-SP-067	遺物出土なし
SP-199	3区	81	60	21	不明	>SB-15	遺物出土なし
SP-200	4区	25	23	2	不明	なし	遺物出土なし
SP-201	4区	25	23	2	不明	なし	遺物出土なし
SP-202	4区	44	41	3	不明	なし	遺物出土なし
SP-203	3区	59	15	44	不明	>SK-035	遺物出土なし
SP-204	3区	27	27	0	不明	なし	遺物出土なし
SP-205	3区	24	14	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-206	3区	47	22	25	不明	<SK-038	遺物出土なし
SP-207	3区	28	23	5	不明	なし	遺物出土なし
SP-208	3区	60	33	27	不明	なし	遺物出土なし
SP-209	3区	29	23	6	不明	なし	遺物出土なし
SP-210	3区	6	6	0	不明	>SP-186-187	遺物出土なし
SP-211	3区	48	48	0	不明	>SK-049-SP-168 <SK-078	遺物出土なし
SP-212	3区	32	27	5	不明	<SK-078	遺物小片のみ
SP-213	3区	61	54	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-214	3区	49	23	26	不明	なし	遺物出土なし
SP-215	3区	48	29	19	不明	<SP-216	遺物出土なし
SP-216	3区	50	27	23	不明	>SP-215-SK-067	遺物小片のみ
SP-217	3区	90	37	53	不明	<SB-01	遺物出土なし
SP-218	3区	30	30	0	不明	>SK-063-SP-193	遺物出土なし
SP-219	3区	76	20	56	不明	>SB-13	遺物出土なし
SP-220	3区	29	14	15	不明	<>SP-221-223	遺物出土なし
SP-221	3区	62	20	42	不明	>SB-14-SP-224 <SP-223 <>SP-220	遺物出土なし
SP-222	3区	17	17	0	不明	>SB-01	遺物出土なし
SP-223	3区	75	14	61	不明	>SB-14-SP-221-224 <>SP-220	遺物出土なし
SP-224	3区	80	47	33	不明	<SB-14-SP-221-223	遺物出土なし
SP-225	3区	38	22	16	不明	>SK-057-069 <SP-226	遺物小片のみ
SP-226	3区	75	48	27	不明	>SP-225	遺物出土なし
SP-227	3区	88	24	64	不明	>SK-057	遺物出土なし
SP-228	4区	62	72	10	不明	<SB-10-SK-057	遺物出土なし
SP-229	4区	90	43	47	不明	<SB-10-SK-061	遺物出土なし
SP-230	1区	42	35	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-231	1区	51	49	2	不明	なし	遺物出土なし
SP-232	1区	83	54	29	不明	なし	遺物出土なし
SP-233	1区	39	35	4	不明	なし	遺物出土なし
SP-234	1区	25	19	6	不明	なし	遺物出土なし
SP-235	1区	73	20	53	不明	<SP-237	遺物出土なし

品名番号	埋込箇所	尺数	別称	長さ	種類	切りあい単位	備考
SP-236	1区		36	10	不明	>SP-237	遺物小片のみ
SP-237	1区		39	7	不明	<SP-236 >SP-235	遺物小片のみ
SP-238	1区		67	12	中期後葉	>SP-239	
SP-239	1区	63	43	22	不明	<SP-238-240	遺物出土なし
SP-240	1区	65	65	11	中期後葉後半	>SP-239	
SP-241	1区	43	33	20	不明	なし	遺物出土なし
SP-242	1区	26	23	14	不明	なし	遺物出土なし
SP-243	1区	63	52	20	不明	なし	遺物出土なし
SP-244	1区	56	34	12	不明	<SP-245	遺物出土なし
SP-245	1区		39	65	前期山式	>SP-244-SK-099	
SP-246	1区	38	33	30	不明	<SP-247	遺物小片のみ
SP-247	1区		37	11	不明	>SP-246	遺物小片のみ
SP-248	1区	37	30	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-249	1区	43	32	20	不明	なし	遺物出土なし
SP-250	1区	54	33	27	不明	<SP-255	遺物出土なし
SP-251	1区	42	35	15	不明	なし	遺物出土なし
SP-252	1区		18	16	不明	なし	遺物出土なし
SP-253	1区	18	15	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-254	1区		25	6	不明	>SP-256	遺物出土なし
SP-255	1区	42	40	40	不明	なし	遺物小片のみ
SP-256	1区	26	34	18	不明	なし	遺物出土なし
SP-257	1区	30	28	5	不明	なし	遺物出土なし
SP-258	1区		74	23	不明	なし	遺物出土なし
SP-259	1区	44	34	18	不明	なし	遺物出土なし
SP-260	1区		25	9	不明	なし	遺物出土なし
SP-261	1区	70	36	17	不明	なし	遺物出土なし
SP-262	1区	22	22	11	不明	なし	遺物出土なし
SP-263	1区		30	10	不明	>SP-264	遺物出土なし
SP-264	1区	25	24	15	不明	<SP-263-265	遺物出土なし
SP-265	1区		26	18	不明	>SP-264	遺物出土なし
SP-266	1区	20	20	14	不明	なし	遺物出土なし
SP-267	1区	41	30	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-268	1区	37	34	33	不明	なし	遺物出土なし
SP-269	1区	27	26	30	不明	なし	遺物小片のみ
SP-270	1区	57	27	27	不明	なし	遺物出土なし
SP-271	1区	62		12	不明	なし	遺物出土なし
SP-272	1区			16	不明	なし	遺物出土なし
SP-273	1区	41	35	33	不明	<SP-272	遺物出土なし
SP-274	1区	45	30	20	不明	<SP-272-275	遺物出土なし
SP-275	1区	33	23	9	不明	なし	遺物出土なし
SP-276	1区	37	20	20	不明	>SK-104	遺物出土なし
SP-277	1区	65	53	20	中期5段階	<SP-278	遺物出土なし
SP-278	1区	46		13	不明	>SP-277-SK-103	遺物小片のみ
SP-279	1区	36	27	18	不明	なし	遺物出土なし
SP-280	1区	22	10	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-281	1区		32	12	不明	なし	遺物小片のみ
SP-282	1区		39	13	不明	なし	遺物小片のみ
SP-283	1区	18	17	9	不明	なし	遺物出土なし
SP-284	1区		44	26	不明	なし	遺物小片のみ
SP-285	1区	56	37	28	不明	なし	遺物出土なし
SP-286	1区	41		24	不明	なし	遺物出土なし
SP-287	1区	46	38	27	不明	なし	遺物小片のみ
SP-288	1区	32	26	8	不明	なし	遺物出土なし
SP-289	1区	24	22	6	不明	なし	遺物出土なし
SP-290	1区	20	18	11	不明	なし	遺物小片のみ
SP-291	1区		34	4	不明	>SP-295-293	遺物出土なし
SP-292	1区			6	不明	<SP-291 >SP-273-274-294	遺物出土なし
SP-293	1区	38	36	13	不明	<SP-292	遺物出土なし
SP-294	1区	36	27	28	不明	<SP-292	遺物出土なし
SP-295	1区		27	14	不明	>SP-274-292	遺物出土なし
SP-296	1区		32	12	不明	>SP-295	遺物出土なし
SP-297	1区			22	不明	なし	遺物出土なし
SP-298	1区		31	20	不明	>SK-105	遺物出土なし
SP-299	1区	34	34	8	不明	なし	遺物出土なし
SP-300	1区	35	34	25	不明	なし	遺物出土なし
SP-301	1区	48	36	15	不明	なし	遺物出土なし
SP-302	1区			15	不明	なし	遺物出土なし
SP-303	1区	23	23	11	不明	なし	遺物出土なし
SP-304	1区	35	21	16	不明	なし	遺物出土なし
SP-305	1区	30	28	22	不明	なし	遺物出土なし
SP-306	1区	45	43	19	不明	なし	遺物出土なし
SP-307	1区		22	16	不明	>SK-106	遺物出土なし
SP-308	1区	38		30	不明	なし	遺物出土なし
SP-309	1区	23	23	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-310	1区	28		18	不明	なし	遺物出土なし
SP-311	1区		32	11	不明	>SP-312	遺物出土なし
SP-312	1区	34	29	22	不明	<SP-311	遺物出土なし
SP-313	1区	42	33	11	不明	なし	遺物出土なし
SP-314	1区	47	32	13	不明	なし	遺物出土なし

品名番号	吐出箇所	長径	短径	深さ	時期	切り方・関係	備考
SP-315	1区	66	42	16	不明	なし	遺物出土なし
SP-316	1区	74	40	20	不明	なし	遺物小片のみ
SP-317	1区	35		10	不明	>SK-107	遺物出土なし
SP-318	1区	28	24	5	不明	なし	遺物出土なし
SP-319	1区			9	不明	なし	遺物出土なし
SP-320	1区	22	21	8	不明	なし	遺物出土なし
SP-321	1区		35	21	不明	<SP-320	遺物出土なし
SP-322	1区	45	29	20	不明	>SP-320	遺物小片のみ
SP-323	1区		47	22	不明	>SP-331	遺物出土なし
SP-324	1区	30			不明	<SP-330	遺物出土なし
SP-325	1区	28	23	8	不明	なし	遺物出土なし
SP-326	1区		47	18	不明	<SK-110	遺物出土なし
SP-327	1区	30	23	23	不明	<SP-335	遺物小片のみ
SP-328	1区	43	40	10	不明	>SP-324	遺物出土なし
SP-329	1区		42	10	不明	なし	遺物小片のみ
SP-330	1区	46		22	半掘4段階	なし	
SP-331	1区	47	46	28	不明	なし	遺物出土なし
SP-332	1区	43	38	15	不明	なし	遺物出土なし
SP-333	1区	47	43	22	不明	なし	遺物小片のみ
SP-334	1区	34	42	22	不明	なし	遺物出土なし
SP-335	1区	80	57	34	不明	なし	遺物出土なし
SP-336	1区	67	52	42	不明	なし	遺物小片のみ
SP-337	1区	31	30	19	不明	なし	遺物出土なし
SP-338	1区	40	34	8	不明	なし	遺物小片のみ
SP-339	1区	53	42	15	不明	なし	遺物出土なし
SP-340	1区	28	25	19	不明	なし	遺物出土なし
SP-341	1区	27	27	19	不明	なし	遺物出土なし
SP-342	1区	51	39	21	不明	なし	遺物出土なし
SP-343	1区	26	23	12	不明	なし	遺物出土なし
SP-344	1区		23	12	不明	なし	遺物出土なし
SP-345	1区	30	26	13	不明	なし	遺物出土なし
SP-346	1区		49	16	不明	なし	遺物小片のみ
SP-347	1区		27	14	不明	>SP-348	遺物出土なし
SP-348	1区	60	40	21	不明	<SP-347-349	遺物小片のみ
SP-349	1区	34		25	不明	>SP-348	遺物小片のみ
SP-350	1区	67	48	19	不明	なし	遺物出土なし
SP-351	1区	37	25	12	不明	なし	遺物出土なし
SP-352	1区		23	14	不明	なし	遺物出土なし
SP-353	1区	22	22	7	不明	なし	遺物小片のみ
SP-354	1区			9	不明	なし	遺物出土なし
SP-355	1区		38	18	不明	>SK-100-SP-250	遺物出土なし
SP-356	1区	34	25	12	不明	<SP-254-257	遺物出土なし
SP-357	1区			11	不明	>SP-250	遺物出土なし
SP-358	3区		60	18	不明	>SK-064	遺物出土なし
SP-359	3区		32	10	不明	>SK-064	遺物出土なし
SP-360	3区		42	21	不明	>SK-065-086	遺物出土なし
SP-361	4区	88	50	25	不明	<SK-091	遺物出土なし
SP-362	4区			40	不明	>SK-117-SK-091-SP-083	遺物出土なし
SP-363	4区	32	27	6	不明	<SK-117	遺物出土なし
SP-364	3区		25	8	不明	>SB-14	遺物出土なし
SP-365	3区	52	47	40	不明	>SB-13 <SB-14	遺物出土なし
SP-366	3区	47		64	不明	>SB-13-SK-088	遺物小片のみ
SP-367	3区		46	47	不明	>RB-13-SP-365-370	遺物小片のみ
SP-368	3区			15	不明	>SB-13	遺物出土なし
SP-369	3区	77	53	63	不明	<SB-13	遺物出土なし
SP-370	3区	75	69	47	不明	<SB-13-SP-367-SK-088	遺物小片のみ
SP-371	4区			10	不明	>SB-13	遺物出土なし
SP-372	4区			19	不明	>SB-12	遺物出土なし
SP-373	4区	18	4		不明	>SB-12-SP-374	遺物出土なし
SP-374	4区			6	不明	>SB-12 <SP-370	遺物出土なし
SP-375	4区	28		28	不明	>SB-06-SK-119	遺物出土なし
SP-376	4区		31	17	不明	>SB-06	遺物小片のみ
SP-377	4区		58	57	半掘7～8段階	>SB-06-SK-119	遺物小片のみ
SP-378	4区	43		28	不明	>SB-06	遺物出土なし
SP-379	4区			28	不明	>SB-06	遺物出土なし
SP-380	4区	30		17	半掘7～8段階	>SB-06	
SP-381	4区		33		不明	>SB-06 <SP-382	遺物出土なし
SP-382	4区			40	不明	>SB-06-SP-381	遺物出土なし

- ・ピットの規模数値の単位は「cm」である。
- ・切りあい関係は、「>」：切られる、「<」：切るである。
- ・数値の横空白の箇所は、切りあい関係や道構が区域外まで及ぶため計測不可を意味する。

3. 出土遺物

(1) 縄文時代の遺物

① 土器 (第24～40図、第4表)

今回の調査では縄文前期中葉、中期全般、後期初頭～前葉の土器がコンテナ35箱程出土した。その中でも多いのは中期後葉の土器であり大半を占める。調査地はナガイモ耕作及びスプリンクラー埋設による攪乱と、昭和40年代初頭に実施された圃場整備事業の際削平を受けており、完形に復元できる土器は住居址の埋塞など一部に限られた。それでも比較的残存が良い資料や、特徴的な資料であった59個体の実測図、243片の拓影図を掲載した。以下時期ごとに概観していく。

A 前期の土器

この時期の遺構はSB-05、SK-111、SP-245だけで、SB-05でも10数片、その他は1、2片が出土したにとどまり、実測図を作成する程残存の良い資料には恵まれなかった。第31図24・26には多段ループ文が見られ、17～23・25・27のSB-05出土の他資料には羽状縄文が施されている。これらの土器は比較的厚めで、いずれの土器も胎土に繊維を含まない。また図化しなかったが、尖底になる底部の破片資料1点、薄手の破片1点も出土している。SB-05出土の土器は関山II式に位置付けられる。SK-111出土の第39図198にも羽状縄文が見られるが、小片であり前期以上の時期は確定できない。なお前期に該当する他時期の資料は出土しなかった。

B 中期の土器

中期の中でも前半と後半では出土量に大差があり、中期後葉に位置付けられるものが大半を占める。この時期の遺物は他時期に比べ遺物の量が多かったため、報告書を記述する上で便宜的に時期区分を行った。時期区分にあたっては先学諸氏による土器編年の成果に基づいており、当遺跡出土の土器を検討し設けたものではない。初頭については三上徹也氏の梨久保式、中葉は井戸尻編年を基に松本市坪ノ内遺跡出土遺物を検討された寺内隆夫氏、野村一寿氏が設け、その後同市南中島遺跡、小池遺跡II・一ツ家遺跡の報告時にも使われた時期区分に、後葉は唐木孝雄氏による唐草文土器編年に依拠した。また今回の調査により出土した土器には、中期末とも後期初頭とも線引きが難しい時期の資料が比較的多くあるので、唐草文土器編年の中期末とされるV段階の中でも新しい様相をもつ土器を区別し、中期最終末とも言うべき段階を設けた。但しこの区別は感覚的によるところが大きい。

中期1段階＝梨久保1式 中期2段階＝梨久保II式 中期3段階＝谿沢式 中期4段階＝新道式 中期5段階＝藤内I式 中期6段階＝藤内II式 中期7段階＝井戸尻I式 中期8段階＝井戸尻III式 中期9段階＝唐草文系I段階 中期10段階＝唐草文系II段階 中期11段階＝唐草文系III段階 中期12段階＝唐草文系IV段階 中期13段階＝唐草文系V段階(古) 中期14段階＝唐草文系V段階(新)・中期最終末

以下時期を追って記述していきたいが、本調査で出土遺物のなかった段階は項目を設けないことにする。また調査担当者の不勉強さ、気の付くまま感覚的に記述してしまったきらいがあるので、段階設定や解釈を多く誤っているであろう点断っておきたい。

α 中期2段階

SK-098のみがこの段階で、第29図52を図示した。頸部には、半截竹管で半円肉状に「∩」状区画され

た内部に、半藪竹管状工具による細線文が格子状に充填されており、この期の特徴を示す。なお胴部には指頭圧痕も明瞭に見られる。

β 中期3段階

SB-01、SK-010・108等が該当する。第27図38は小型の鉢で、隆帯により楕円形区画を2段配し、上段は角押文を縦に施文充填し、下段は隆帯に沿って角押文を施している。それ以下には「？」マークを逆にした文様を隆帯にて施している。第24図9は斜行沈線文系統の土器で、隆帯による楕円形区画の脇に耳状の貼付文がある。

γ 中期4段階

SK-109、SP-330のみが該当し、遺構外からも多少出土があった。SK-109出土第38図193、第39図195は重三角形区画になるとと思われる隆帯脇に三角押引文が伴う。遺構外出土の第39図207は隆帯脇にキャタピラ文が伴う。第40図219は、三角形と円環状隆帯脇にキャタピラ文や三角押文が伴い、間に縄文を充填している。

δ 中期5段階

SK-021・042・074・087、SP-009・061等がこの段階に該当し、遺構外からも多少出土があった。第29図50は、楕円形隆帯区画を横帯させ、区画内には隆帯脇に連続爪形文、その内側に縄文を充填した後波状沈線文を中央に施文している。第38図189にも隆帯脇に爪形文が見られ、区画内充填には集合沈線が施文されている。第36図123、第40図220は縦割区画の文様構成で、半隆起伏平行沈線によるパネル文内を斜位の沈線文にて充填している。SP-061出土の第33図68は小片ではあるが、平出第三類A土器で、縦位の集合沈線が施されている。この期若しくは前段階に位置付けられると思われる。

ε 中期6段階

SP-087・094・277等が該当するが、いずれも小片であり図化提示するまでの遺物は見られなかった。

ζ 中期7段階

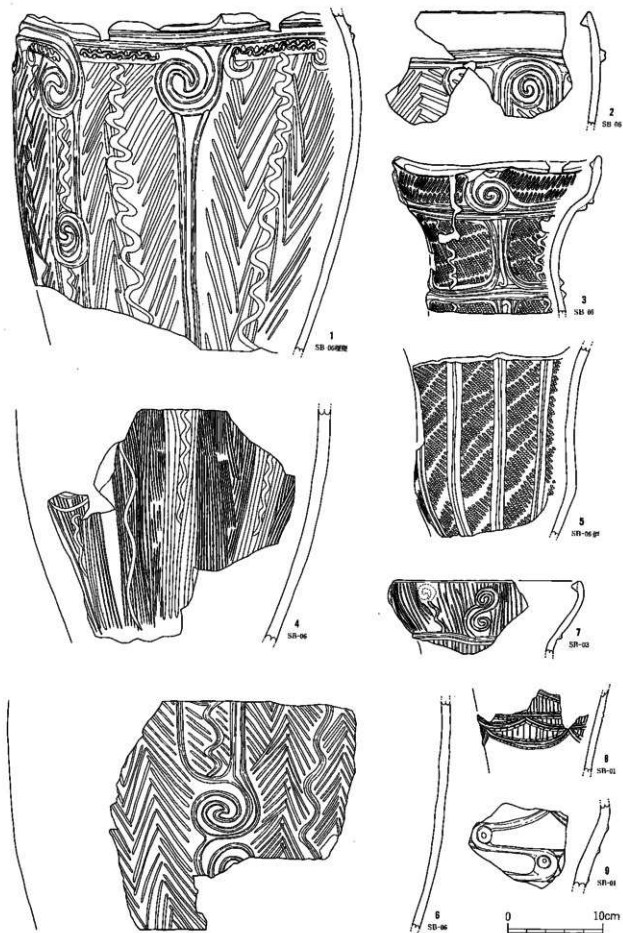
SK-032・054等がこの段階に該当するが、いずれも小片であり図化提示していない。焼町土器の第30図64・65が遺構外から出土しているが、口縁部の円形突起が上方に大きく表出されており、沈線も施文が深くなっているため、この期に併行すると思われる。

η 中期8段階

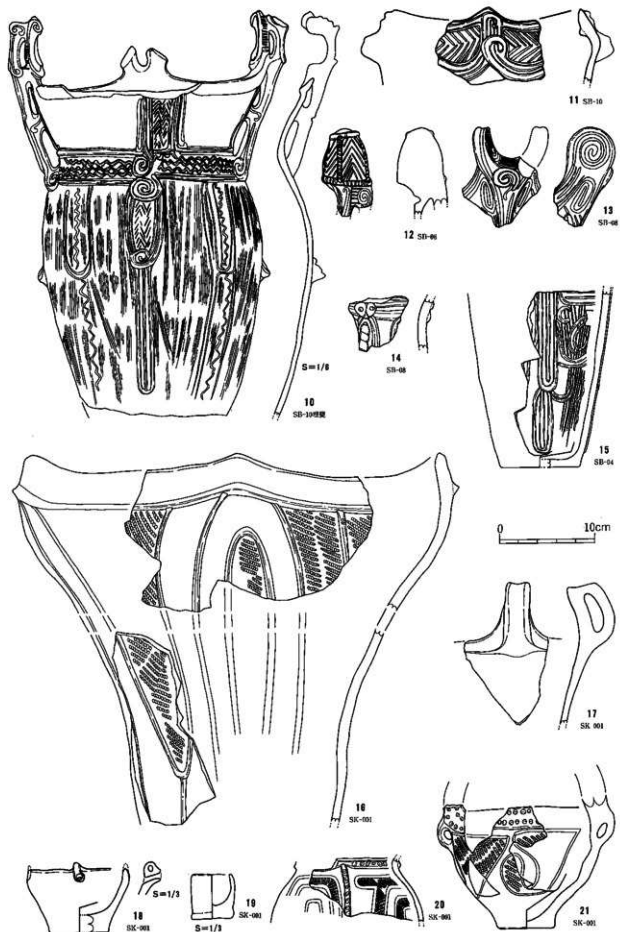
SK-023・059・061等が該当する。SK-023出土の第36図128の楕円形文が見られる破片資料のみの提示で、その他に顕著な遺物はなかった。

θ 中期9段階

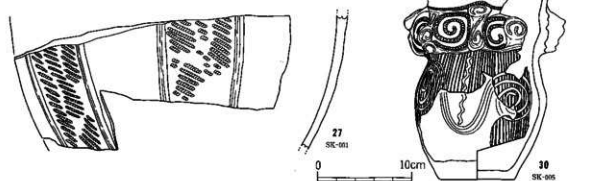
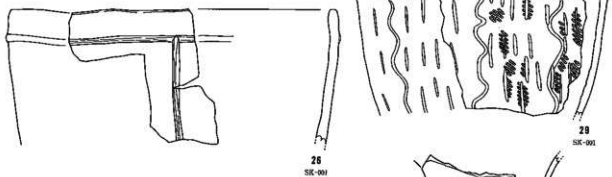
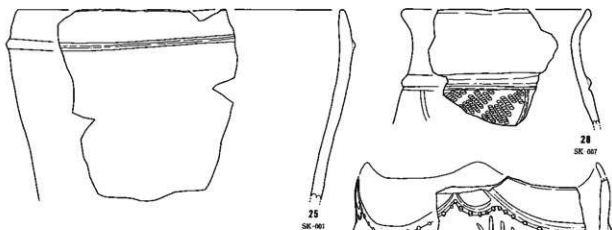
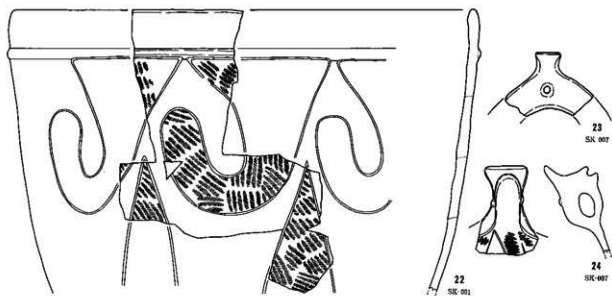
SK-063やSB-08等に加え遺構外からも出土があり、前段階までに比べ資料の量が若干増える。SK-063出土の第28図47は円筒形の器形で、口縁部は脇に角状の押し引き文を伴う隆帯により4区画され、区画内は無文である。区画同士の間は隆帯を折り返して縦帯に貼付したものを正面にして、その他の3箇所は2本1単位の隆帯が縦帯に垂下している。胴部には集合沈線が垂下し、粘土紐をひねったものとメガネ状の貼付文が正面に貼り付けられ、それ以外の3箇所には2本1組の隆帯を「└」状に貼り付けている。第32図35や第40図222の口縁部に摺曲文が見られる資料、同226の半円弧状に区画される内部に縦位の沈線が充填される楕円形土器の破片、縦位の集合沈線が見られる同221・223等も、この期の様相を示す土器と思われる。



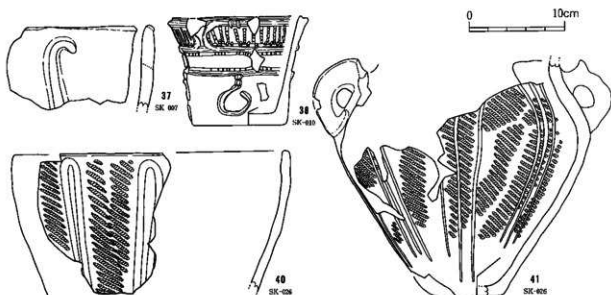
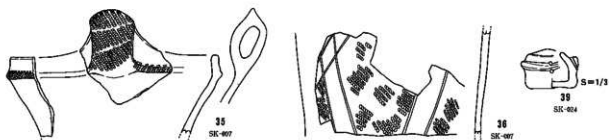
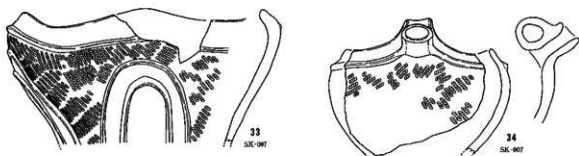
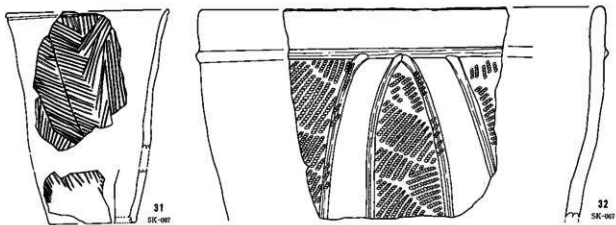
第24图 绳文土器夹图(1)



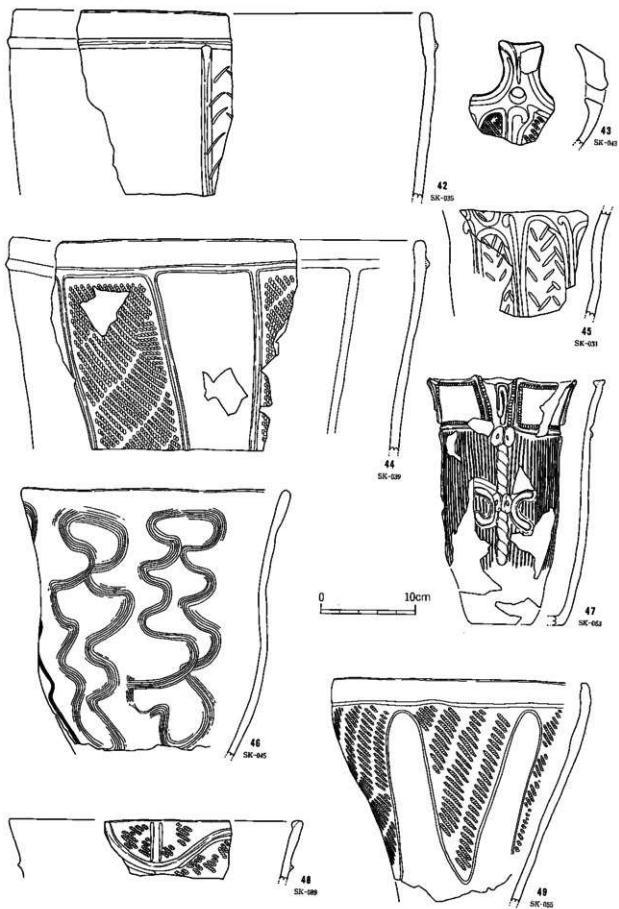
第25图 铜文士器实测图(2)



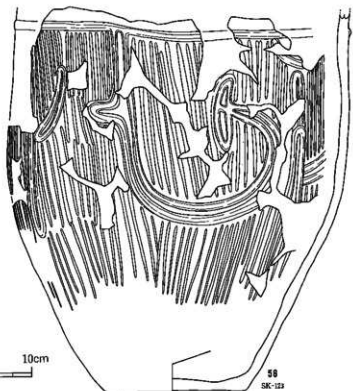
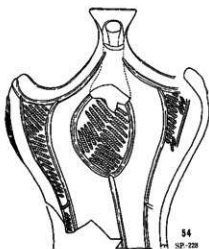
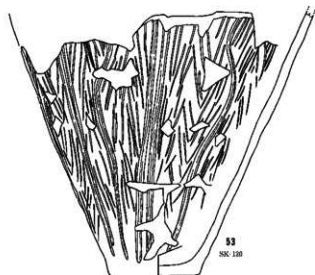
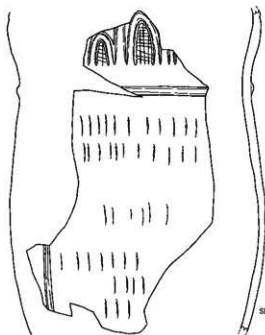
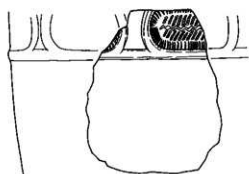
第26图 縄文土器実測図(3)



第27图 縄文土器実測图(4)

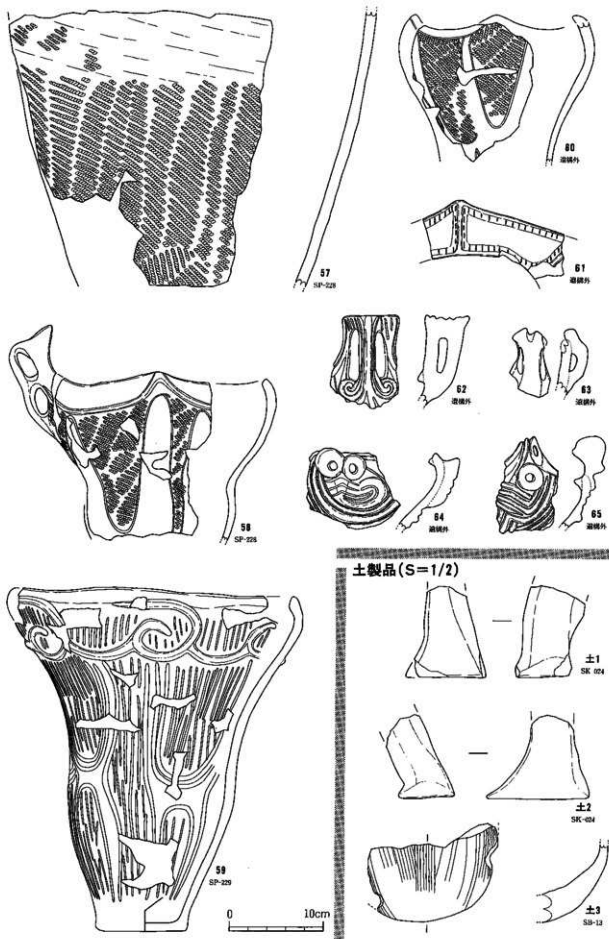


第28圖 縄文土器実測図(5)

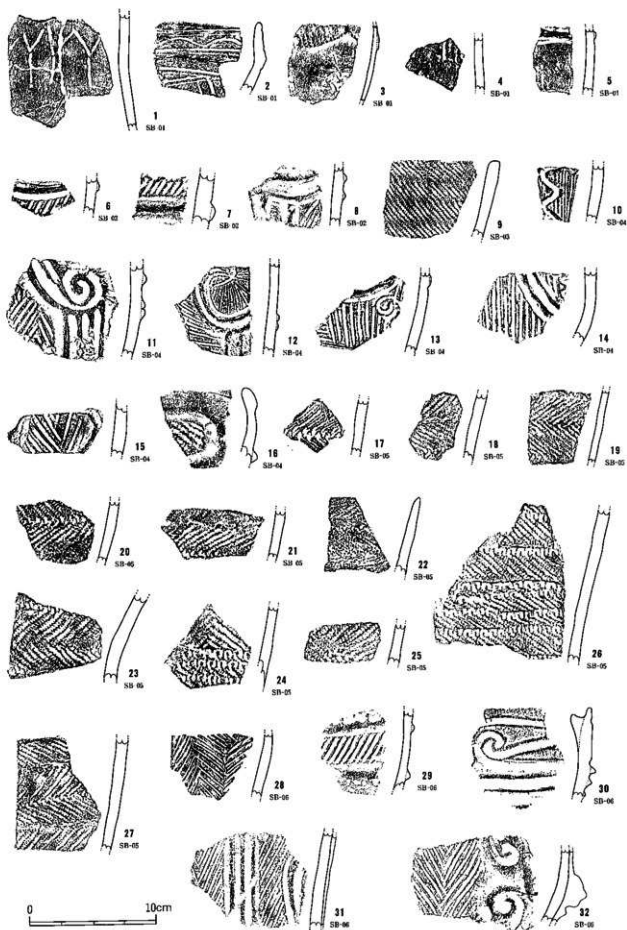


0 10cm

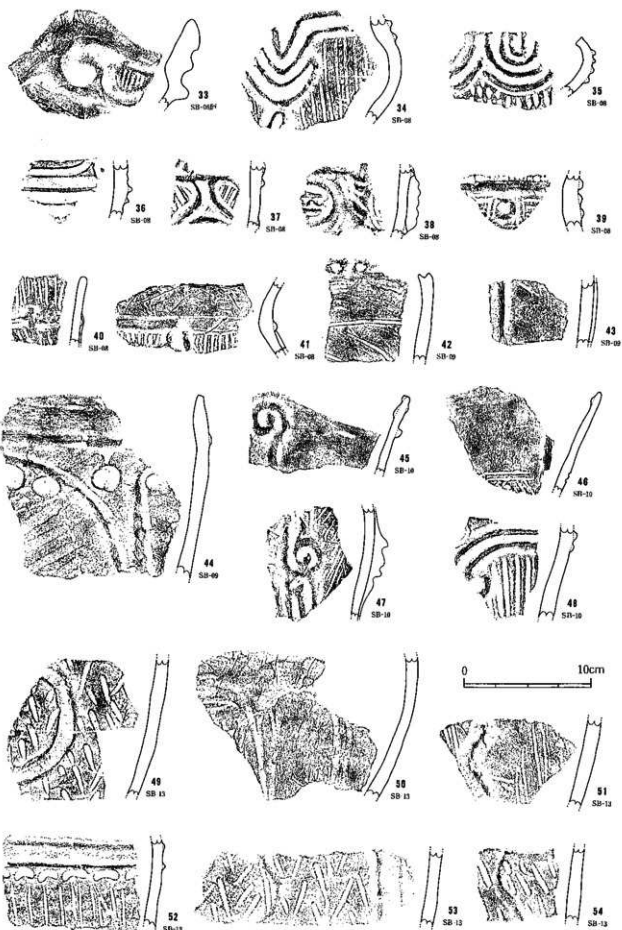
第29圖 縄文土器実測図(6)



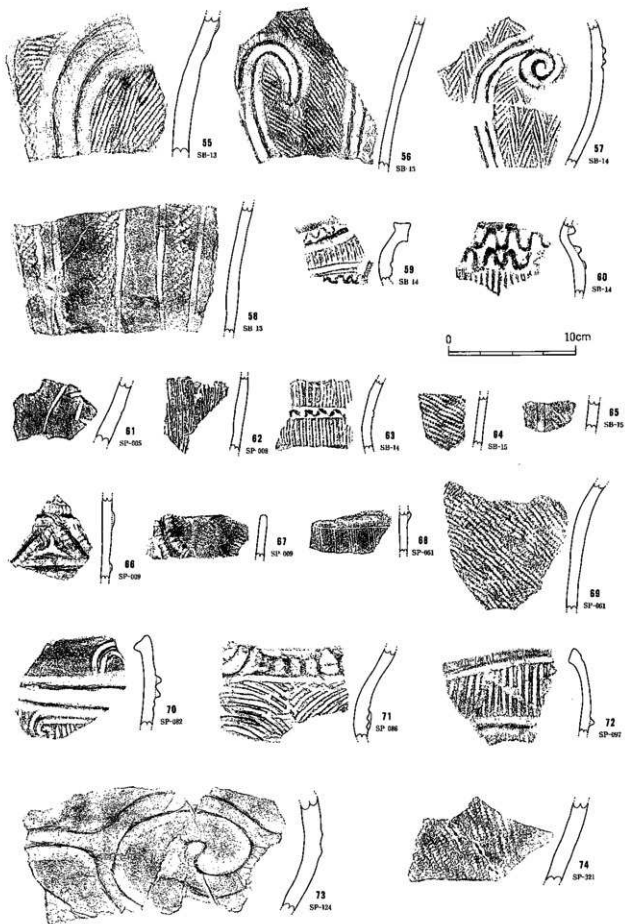
第30图 縄文土器実測图(7)・土製品



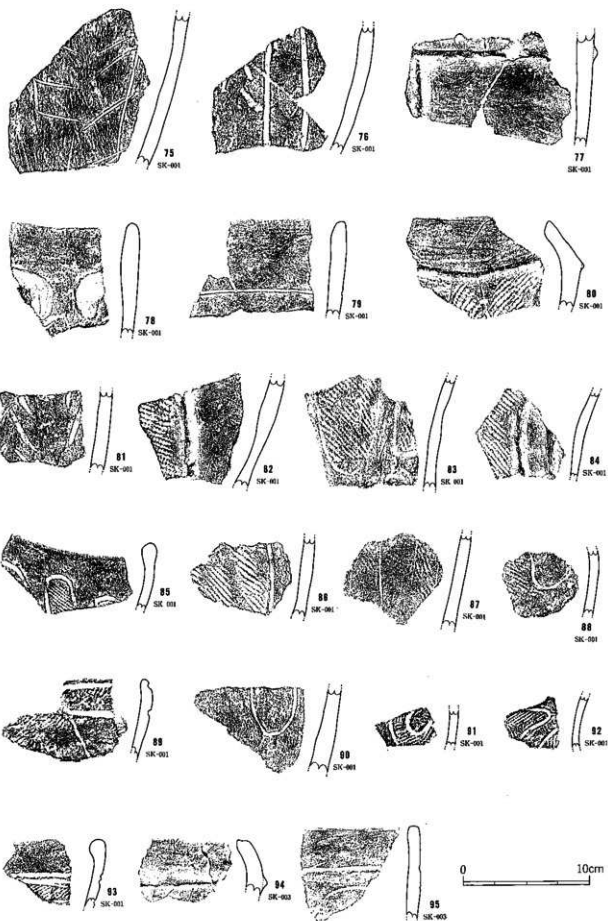
第31圖 縄文土器拓影(1)



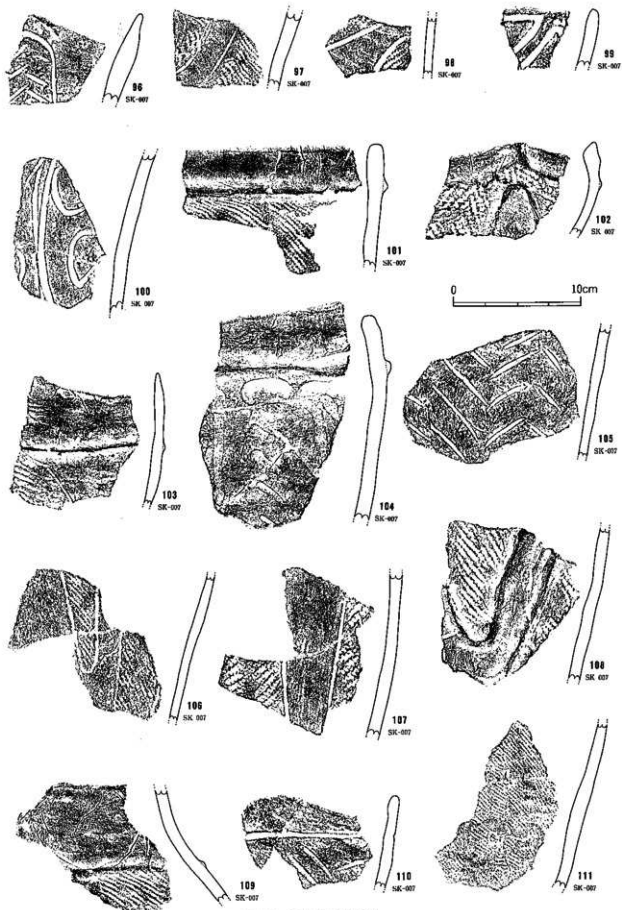
第32圖 縄文土器拓影(2)



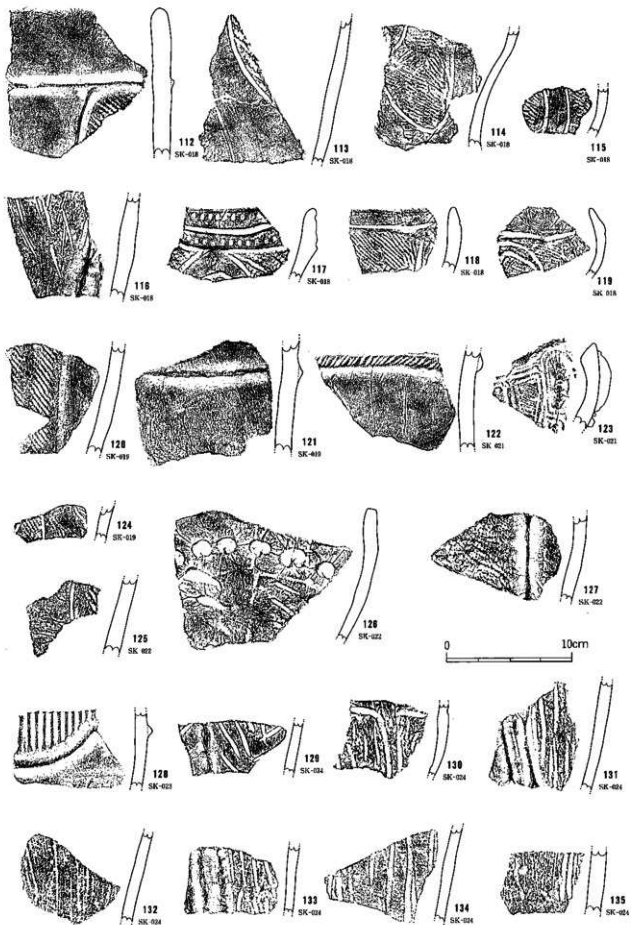
第33图 绳文土器拓影(3)



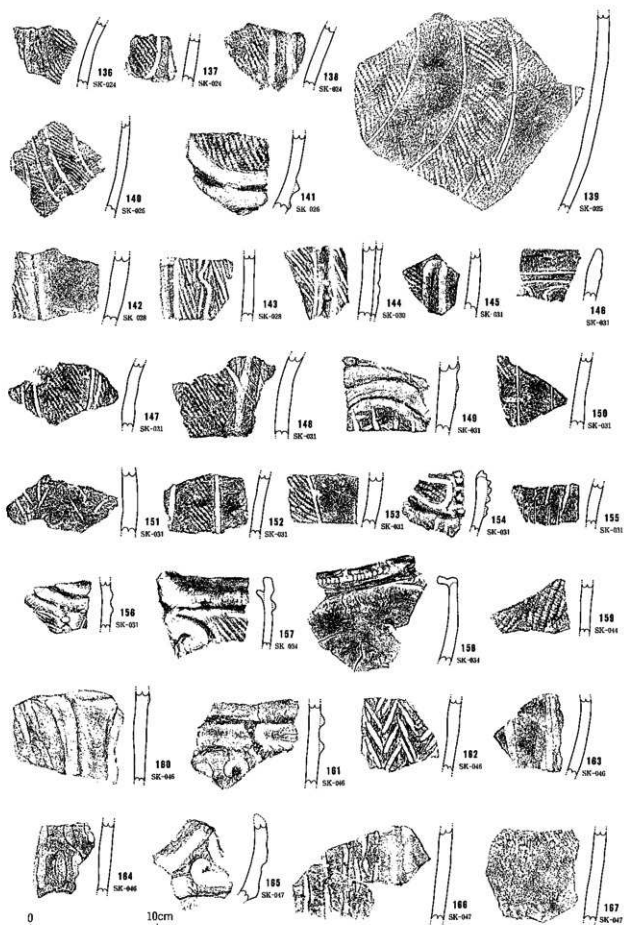
第34圖 縄文土器拓影(4)



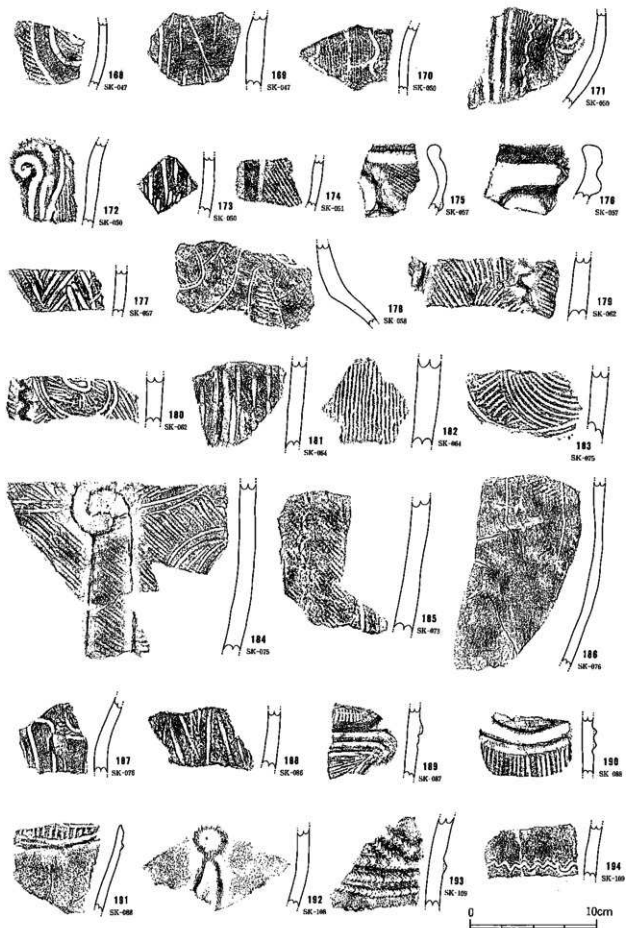
第35图 绳文土器拓影(5)



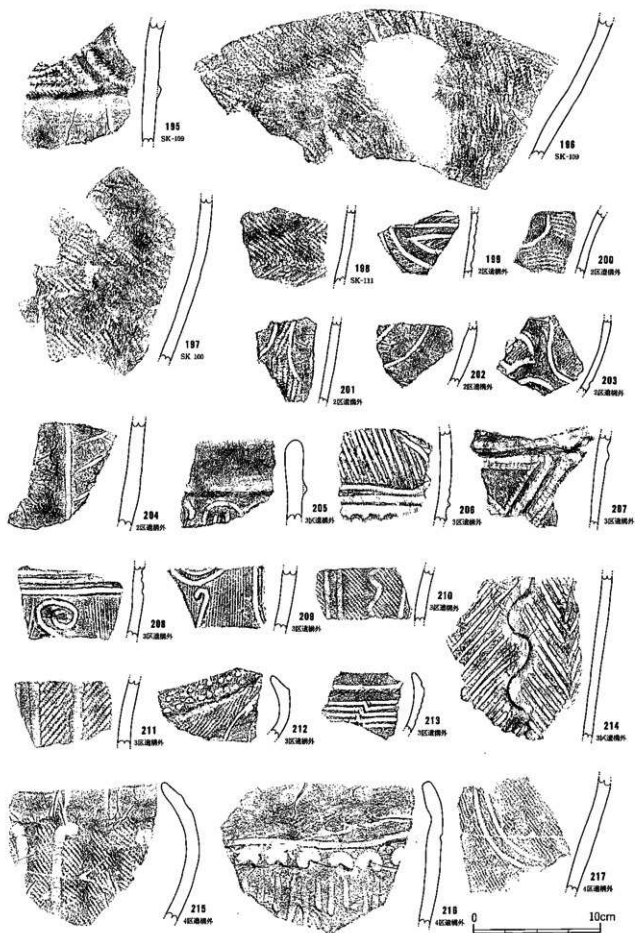
第36图 縄文土器拓影(6)



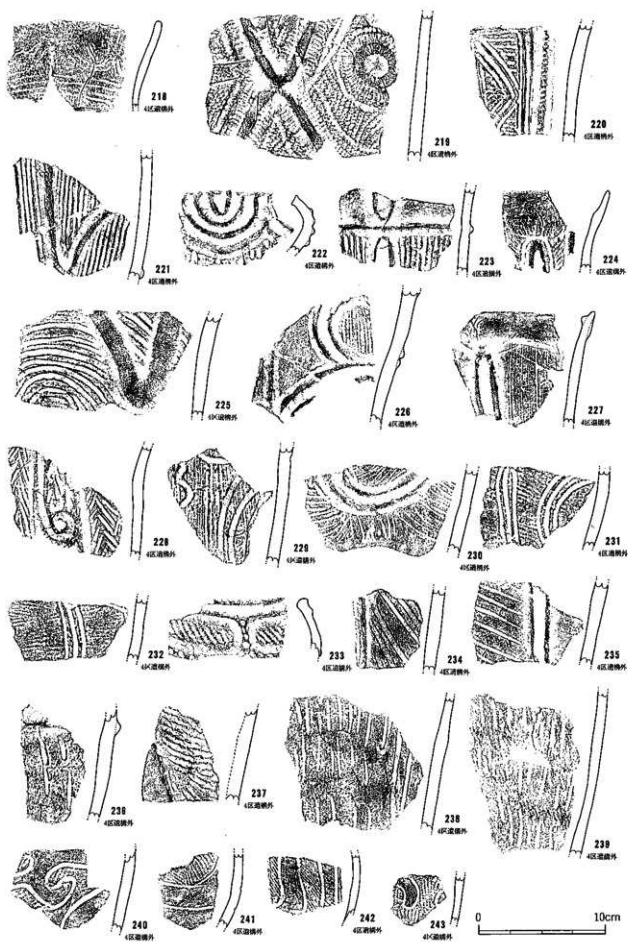
第37回 縄文土器拓影(7)



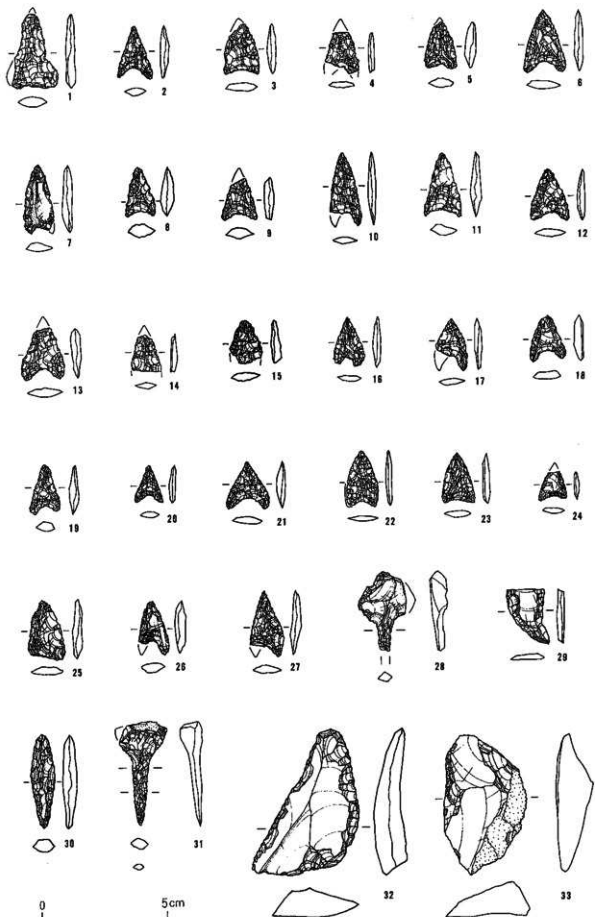
第38図 縄文土器拓影(6)



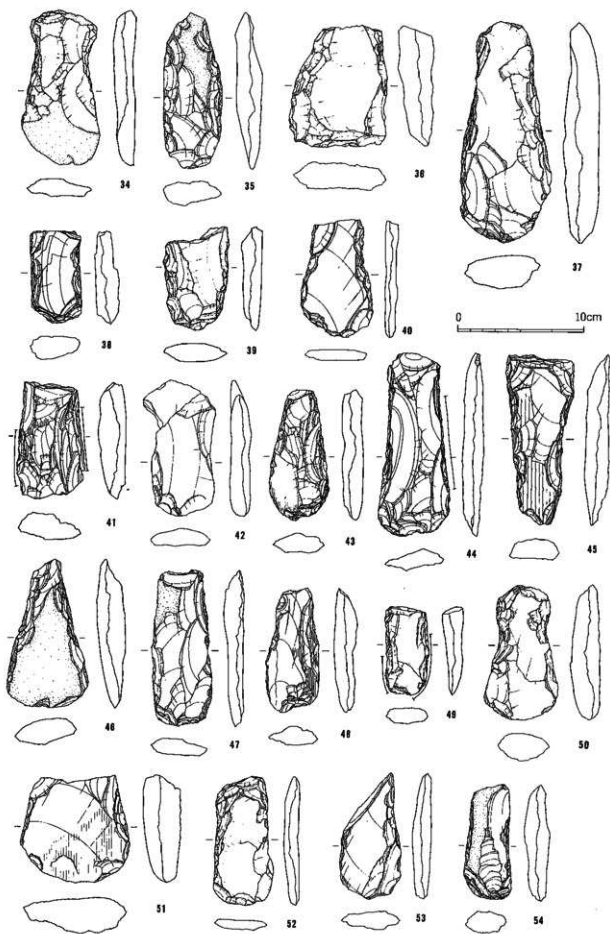
第39图 绳文土器拓影(9)



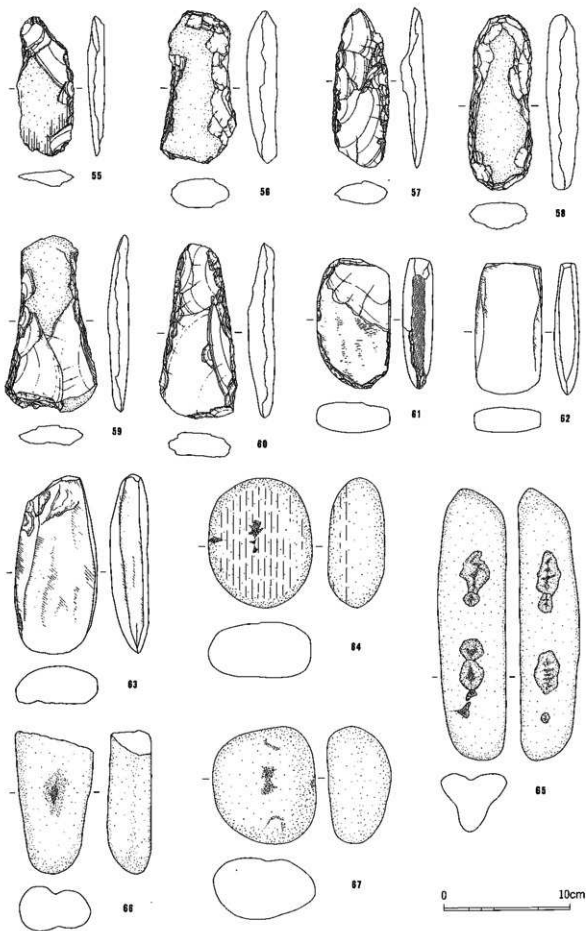
第40図 縄文土器拓影(10)



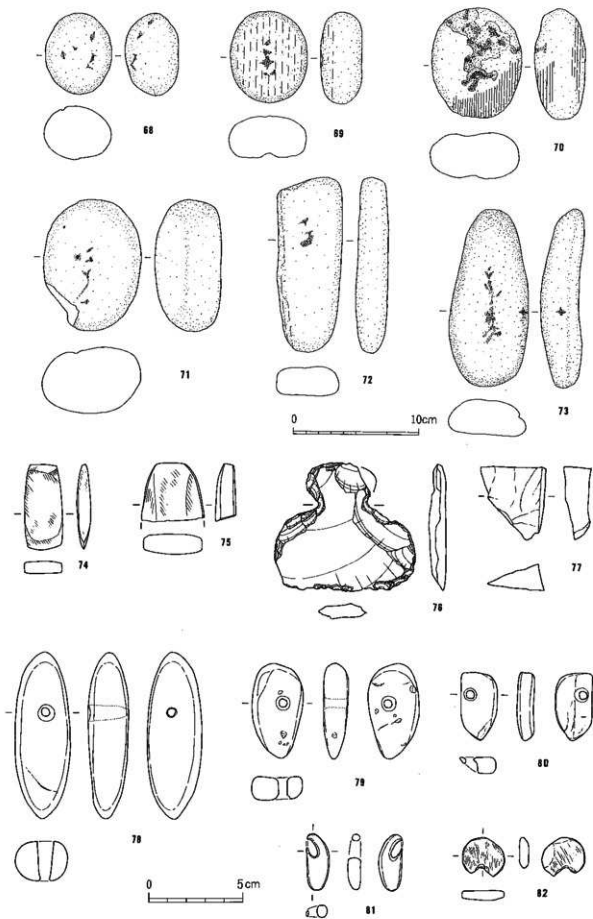
第41圖 石器(1)



第42圖 石器(2)



第43圖 石器(3)



第44图 石器(4)·石製品

第4表 実測土器類表

番号	正土器名	器種	形状	出土	現存	残存率	口径	高さ	直径	備考
1	4区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	体部のみ残存	—	—	—	(26.1)
2	4区 SB-04	漆鉢	5YR4/1 褐色	密	良好	口縁部～体部上端1/10残存	—	—	—	(12.0)
3	4区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部残存	21.6	—	—	(16.0)
4	4区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	体部1/6残存	—	—	—	(24.7)
5	4区 SB-04	漆鉢	5YR5/4 灰褐色	密	稍良好	体部1/3残存	—	—	—	(20.1)
6	4区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	体部1/6残存	—	—	—	(24.1)
7	2区 SB-03	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～胴部1/3残存	(18.0)	—	—	(7.8)
8	2区 SB-03	漆鉢	5YR5/4 灰褐色	密	稍良好	体部1/3残存	—	—	—	(9.4)
9	2区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	稍良好	胴部1/3残存	—	—	—	(8.9)
10	4区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	肩部～体部1/4、口縁部一部を欠損	25.3	—	—	(83.9)
11	4区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	稍良好	口縁部1/3残存	(19.5)	—	—	(8.1)
12	4区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	把手のみ残存	—	—	—	(9.2)
13	4区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	稍良好	把手のみ残存	—	—	—	(10.0)
14	4区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	稍良好	体部一部のみ残存	—	—	—	(6.1)
15	2区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部1/6残存	(40.0)	—	—	(18.0)
16	2区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部1/6残存	—	—	—	(18.0)
17	2区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部1/6残存	—	—	—	(18.0)
18	2区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部1/6残存	—	—	—	(18.0)
19	2区 SB-01	ミニチュア	5YR5/4 灰褐色	密	稍良好	1/3残存	(7.4)	(4.4)	5.5	—
20	2区 SB-01	ミニチュア	5YR5/4 灰褐色	密	稍良好	1/3残存	3.0	3.1	3.5	—
21	2区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	稍良好	胴部～体部1/3残存	—	—	—	(6.6)
22	2区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	胴部～体部1/3残存	—	—	—	(6.6)
23	2区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部1/3残存	(46.1)	—	—	(30.0)
24	2区 SB-07	漆鉢	5YR5/4 灰褐色	密	良好	胴部の胴上端のみ残存	—	—	—	(6.7)
25	2区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	把手のみ残存	—	—	—	(9.3)
26	2区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	稍良好	口縁部～体部1/3残存	(34.4)	—	—	(29.2)
27	2区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	稍良好	口縁部～体部上1/10残存	(34.2)	—	—	(11.0)
28	2区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	体部下部1/4残存	—	—	—	(18.0)
29	2区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部上1/10残存	(24.2)	—	—	(12.3)
30	2区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部1/4残存	(19.4)	—	—	(12.6)
31	2区 SB-07	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	稍良好	胴部～体部1/3残存	—	—	—	7.8 (22.4)
32	2区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	稍良好	胴部～体部1/3残存	(16.8)	(8.8)	<22.4>	—
33	2区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部上1/4残存	(40.0)	—	—	(22.3)
34	2区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部1/3残存	25.1	—	—	(14.1)
35	2区 SB-07	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部上1/4残存	(16.3)	—	—	(14.6)
36	2区 SB-07	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部上1/3残存	(21.9)	—	—	(13.3)
37	2区 SB-07	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	稍良好	口縁部～体部上1/10残存	—	—	—	(10.7)
38	2区 SB-04	漆鉢	2.5YR4/3 灰褐色	密	稍良好	ほぼ完整	13.5	5.4	11.4	—
39	4区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	ほぼ完整	2.5	3.4	3.1	有孔状付土器
40	4区 SB-05	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	稍良好	口縁部～体部1/3残存	(29.3)	—	—	(14.6)
41	4区 SB-05	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部1/3残存	—	—	—	(7.4)
42	4区 SB-05	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部上1/10残存	(40.6)	—	—	(15.7)
43	4区 SB-05	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部上1/10残存	—	—	—	(10.9)
44	3区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部1/3残存	(43.0)	—	—	(22.3)
45	4区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	稍良好	体部1/3残存	—	—	—	(11.2)
46	3区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部～体部下3/4残存	27.7	—	—	(28.2)
47	3区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	体部の一部欠損	15.3	6.3	26.2	—
48	3区 SB-04	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	口縁部1/3残存	(20.8)	—	—	(6.2)
49	3区 SB-05	漆鉢	7.5YR4/1 灰褐色	密	稍良好	口縁部～体部1/2残存	26.4	—	—	(22.5)
50	3区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	稍良好	体部1/3残存	—	—	—	(17.8)
51	3区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	稍良好	体部1/3残存	—	—	—	(13.9)
52	1区 SB-04	漆鉢	5YR4/1 褐色	密	稍良好	胴部1/3残存	—	—	—	(34.1)
53	3区 SB-10	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	体部以下ほぼ残存	—	—	—	9.2 (27.9)
54	3区 SB-04	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	良好	体部～把手一部、口縁部～体部1/4欠損	17.4	—	—	(24.0)
55	4区 SB-07	漆鉢	2.5YR5/4 灰褐色	密	良好	口縁部～体部1/3欠損	—	—	—	14.6 (41.6)
56	4区 SB-07	漆鉢	5YR4/1 褐色	密	稍良好	口縁部～体部1/3欠損	—	—	—	14.6 (41.6)
57	4区 SB-07	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	稍良好	口縁部～体部1/3欠損	—	—	—	14.6 (41.6)
58	4区 SB-07	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	稍良好	口縁部～体部1/3欠損	—	—	—	14.6 (41.6)
59	4区 SB-07	漆鉢	10YR2/7 灰褐色	密	稍良好	口縁部～体部上1/2欠損	(26.6)	9.4	36.5	—
60	4区 遺物	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	稍良好	口縁部～体部1/3残存	—	—	—	(14.7)
61	3区 遺物	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	胴部上端のみ残存	—	—	—	—
62	4区 遺物	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	把手のみ残存	—	—	—	—
63	4区 遺物	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	把手のみ残存	—	—	—	—
64	4区 遺物	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	稍良好	口縁部の一部のみ残存	—	—	—	—
65	4区 遺物	漆鉢	7.5YR2/7 灰褐色	密	稍良好	口縁部のみ残存	—	—	—	—
平1	4区 SB-07	柄	2.5YR5/4 灰褐色	密	良好	胴部1/4残存	(16.4)	(9.6)	6.3	灰物
平2	4区 SB-07	柄	2.5YR7/1 灰褐色	密	良好	胴部1/4残存	(15.1)	(7.2)	5.9	灰物
平3	4区 SB-07	柄	10YR0/1 灰白色	密	良好	胴部1/4残存	(14.3)	7.0	6.5	灰物
平4	4区 SB-07	柄	7.5YR4/1 褐色	密	良好	胴部1/4残存	(11.0)	(7.1)	2.5	灰物
平5	4区 SB-07	柄	10YR0/1 灰白色	密	良好	胴部1/4残存	(11.4)	—	—	灰物
平6	4区 SB-07	柄	7.5YR4/1 褐色	密	良好	胴部1/4残存	(13.0)	—	—	灰物
平7	4区 SB-07	柄	2.5YR7/1 灰褐色	密	良好	胴部1/4残存	(17.4)	5.8	4.4	土師器
平8	4区 SB-07	柄	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	胴部1/4残存	(13.9)	6.0	4.1	土師器
平9	4区 SB-07	柄	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	胴部1/4残存	(10.6)	5.2	3.1	土師器
平10	4区 SB-07	柄	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	胴部1/4、口縁部～体部1/3残存	(9.5)	4.0	2.3	土師器
平11	4区 SB-07	柄	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	体部下部～胴部1/2残存	—	(7.2)	(3.2)	黒色土
平12	4区 SB-07	柄	7.5YR2/7 灰褐色	密	良好	体部下部～胴部1/2残存	—	5.4	(1.9)	黒色土
平13	4区 SB-07	弘口瓶	2.5GY1/1 黄褐色	密	良好	胴部1/4、体部1/4残存	—	<22.0>	<19.0>	灰物

() : 直径 (<) : 推定値 単位: cm

第5表 石製遺物観察表

番号	出土品種	石種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	年代	出所
1	SB-06	石鏃	(2.9)	(1.7)	0.4	1.6	黒曜石		一部欠損
2	SB-06	石鏃	2.1	1.3	0.3	0.5	黒曜石		完形
3	SB-07	石鏃	(2.0)	1.4	0.3	0.8	黒曜石		一部欠損
4	SB-08	石鏃	(1.6)	(1.3)	0.3	0.5	黒曜石		半端以上
5	SB-13	石鏃	(1.8)	1.3	0.6	0.9	チャート		一部欠損
6	SB-13	石鏃	2.5	1.6	0.3	1.6	チャート		完形
7	SB-15	石鏃	2.7	(1.2)	0.4	0.9	黒曜石		一部欠損
8	SK-008	石鏃	2.9	1.2	0.5	0.9	チャート		完形
9	SK-009	石鏃	(1.6)	1.4	0.4	0.7	チャート		一部欠損
10	SK-024	石鏃	2.9	(1.2)	0.3	0.7	黒曜石		一部欠損
11	SK-032	石鏃	2.5	1.5	0.4	1.2	チャート		完形
12	SK-049	石鏃	2.9	1.5	0.3	0.6	黒曜石		完形
13	SK-050	石鏃	(2.0)	1.7	0.4	1.1	黒曜石		一部欠損
14	SK-088	石鏃	(1.5)	1.2	0.3	0.4	黒曜石		半端以上
15	SK-096	石鏃	(1.7)	(1.3)	0.4	0.7	黒曜石		半端
16	SP-061	石鏃	1.9	1.2	0.3	0.6	黒曜石		完形
17	3区遺構外	石鏃	2.0	(1.3)	0.3	0.5	黒曜石		一部欠損
18	3区遺構外	石鏃	1.8	1.4	0.4	0.8	黒曜石		略欠形
19	3区遺構外	石鏃	1.9	1.2	0.4	0.5	黒曜石		一部欠損
20	4区遺構外	石鏃	1.5	1.1	0.3	0.3	黒曜石		完形
21	4区遺構外	石鏃	1.8	1.7	0.3	0.6	黒曜石		完形
22	4区遺構外	石鏃	2.2	(1.3)	0.3	0.6	黒曜石		略欠形
23	4区遺構外	石鏃	2.0	1.3	0.3	0.7	チャート		完形
24	4区遺構外	石鏃	(1.1)	1.1	0.2	0.3	チャート		一部欠損
25	4区遺構外	石鏃	(2.3)	1.4	0.3	1.2	黒曜石		一部欠損
26	4区遺構外	石鏃	2.1	(1.3)	0.4	0.7	黒曜石		一部欠損
27	4区遺構外	石鏃	2.3	1.4	0.4	0.8	黒曜石		完形
28	4区遺構外	石鏃	4.1	1.9	0.9	3.4	チャート		略欠形
29	4区遺構外	石鏃	(2.1)	1.5	0.3	1.1	石英		半端
30	SB-01	石鏃	3.8	1.0	0.6	1.8	チャート		完形
31	SK-004	石鏃	(3.1)	(1.6)	0.7	3.0	チャート		半端
32	SB-05	磨石	5.8	4.3	1.3	21.6	チャート		完形
33	SK-059	磨石	3.3	5.5	1.3	20.5	チャート		完形
34	SB-02	打製石片	12.3	6.2	1.7	152.3	凝灰岩		完形
35	SB-07	打製石片	12.4	4.6	2.1	124.8	砂岩		略欠形
36	SB-07	打製石片	(9.6)	7.7	2.8	246	砂岩		半端
37	SK-001	打製石片	17.6	7.3	2.8	406	砂岩粘板岩		完形
38	SB-09	打製石片	(7.3)	3.9	1.9	83.1	千枚岩		半端
39	3区遺構外	打製石片	(8.2)	5.2	1.7	77.6	砂岩粘板岩		略欠形
40	SB-1	打製石片	(9.4)	5.7	1.6	67.4	砂岩粘板岩		半端
41	SK-001	打製石片	(9.3)	5.4	2.2	121.4	凝灰岩		半端以上
42	SB-10	打製石片	(10.8)	5.0	1.8	97.7	凝灰粘板岩		一部欠損
43	SK-007	打製石片	9.9	4.7	1.7	89.7	千枚岩		完形
44	SP-330	打製石片	14.6	5.6	1.6	130.7	凝灰岩		完形
45	SK-031	打製石片	13.6	5.4	1.8	135.5	砂岩粘板岩		一部欠損
46	SK-007	打製石片	11.9	6.4	2.2	162.4	砂岩粘板岩		略欠形
47	SP-088	打製石片	12.4	4.8	1.6	105.5	凝灰岩		略欠形
48	SP-096	打製石片	9.9	4.3	1.8	80.2	凝灰岩		略欠形
49	2区遺構外	打製石片	(7.0)	3.5	1.7	49.6	凝灰岩		半端
50	3区遺構外	打製石片	10.7	5.8	2.3	161.1	砂岩		完形
51	3区遺構外	打製石片	(8.5)	8.6	2.9	276	仏塚灰成岩		半端以上
52	4区遺構外	打製石片	10.3	4.8	1.2	69.9	広塚灰成岩		略欠形
53	4区遺構外	打製石片	(10.0)	4.9	1.5	71.2	千枚岩		半端
54	4区遺構外	打製石片	9.1	3.8	2.0	79.1	凝灰岩		略欠形
55	4区遺構外	打製石片	11.0	4.5	1.3	66.7	凝灰岩		一部欠損
56	4区遺構外	打製石片	(12.2)	6.0	2.4	216	千枚岩		略欠形
57	4区遺構外	打製石片	12.6	4.5	2.0	109.7	凝灰岩		一部欠損
58	4区遺構外	打製石片	14.0	5.1	2.5	246	凝灰岩		完形
59	4区遺構外	打製石片	14.1	7.3	1.7	109.0	凝灰岩		完形
60	4区遺構外	打製石片	14.0	6.1	2.0	192.0	凝灰岩		完形
61	4区遺構外	磨製石片	(10.4)	5.7	2.4	208	ヒスイ質		一部欠損
62	4区遺構外	磨製石片	10.5	5.2	2.0	204	藤玉質		完形
63	SB-05	磨製石片	(14.2)	6.6	3.0	444	藤玉質		略欠形
64	SB-08	磨石	10.4	8.2	4.5	585	安山岩		完形
65	SB-08	磨石	21.6	5.4	4.6	695	砂岩		完形
66	SK-007	磨石	(11.3)	6.3	3.5	339	砂岩		完形
67	SB-15	磨石	9.3	8.3	5.1	468	砂岩		完形
68	SK-007	磨石	6.5	5.3	4.3	189.8	安山岩		完形
69	SP-215	磨石	7.3	6.0	3.3	202	安山岩		完形
70	4区遺構外	磨石	8.7	7.1	3.9	305	讃岐岩		完形
71	3区遺構外	磨石	10.5	7.7	5.3	500	安山岩		一部欠損
72	SK-024	磨石	14.0	5.2	2.6	256	砂岩		完形
73	3区遺構外	磨石	14.1	6.2	2.9	399	砂岩		完形
74	SK-031	小形磨製石片	4.6	2.1	0.7	13.3	緑色凝灰岩		完形
75	4区遺構外	小形磨製石片	(3.1)	(3.2)	1.1	19.9	砂岩緑色凝灰岩		半端
76	SP-067	磨石	6.7	7.4	0.9	42.4	凝灰質頁岩(黄化)		完形
77	4区遺構外	銅片	2.8	3.4	1.5	22.6	ヒスイ		高野原の製片か
78	SK-024	石製鉄物品	8.8	3.0	2.0	99.8	ヒスイ		完形
79	SK-049	石製鉄物品	5.2	3.8	1.2	28.2	ヒスイ		完形
80	SK-049	石製鉄物品	3.5	1.9	0.9	10.3	ヒスイ		完形
81	SK-050	石製鉄物品	3.0	1.2	0.7	3.5	凝灰岩		一部欠損
82	SK-050	石製鉄物品	3.1	2.2	0.5	3.2	砂岩		破損不明

()付数値は推定値

イ 中期10段階

SB-08・10・14、SK-060・082、SP-086等がこの段階に該当する。SB-10埋甕である第25図10は、頸部までつながる1対の大型把手とその間に1対の小型把手を有し、口縁部の小型把手につながる箇所には、垂下隆帯によって区画された中に綾杉文が見られるが、それ以外の箇所は無文である。頸部には細い隆帯による波状文が3段施される頸部文様帯を有し、胴部は地文に細い条線を施し、口縁部の把手からつながる垂下腕骨文と太めの沈線による縦区画文と垂下波状文を施す。SK-123出土の第29図56は、地文が条線文で、人体を抽象化した様な文様を隆帯で施文している。頸部の破片は接合復元できなかったが、細い粘土紐による格子目文が見られた。第33図71は頸部に格子状の隆帯が貼付され、口縁部側には大柄な重弧文が施されている。同60の頸部には2段の波状隆帯がめぐり、胴部側には集合沈線が施されており、この期若しくは前段階に位置付けられると思われる。この期からはいわゆる唐草文系土器が見られる段階で、鋸歯文が見られる第32図38、縦に垂下する腕骨文が見られる同47や第31図11、地文に綾杉文が施される第33図57等はこの期に属すると思われる。

ロ 中期11段階

SB-02・03・06、SK-034・044・050・089等がこの期に該当するが、SB-06出土品がまとまっている。第24図1・2・6は樽形を呈する深鉢で、口縁部は無文、頸部に文様帯を有さず、胴部には綾杉文を地文として腕骨状の縦隆帯や垂下隆帯、太めな垂下沈線文を施文する。同4は胴部の地文に条線を施し、太めの沈線によって大柄渦巻文、垂下沈線文、垂下蛇行沈線文を施文している。同3・5は地文に縄文を施文する加曾利E式系の土器である。3は胴部が上下に分帯されていて、地文である縄文が口縁部と胴部で方向が違う。5は胴部に磨消懸垂文を施して、同様な土器として第29図51がある。口縁部の隆帯による横位文様帯が見られる第37図141、第38図175・176等もあり、加曾利EⅡ式に併行すると見て良いのだろうか。また遺構外出土ではあるが、第40図233も同じ口縁部文様帯の資料であるが、隆帯に圧痕がみられ様相を異にする。

ハ 中期12段階

SB-15、SK-028・030・075・120、SP-229等が該当する。SK-120出土の第29図53は、胴部に2本1組の垂下する隆帯とその間を蛇行垂下する隆帯間に、乱れ気味の綾杉文を施文している。SK-030出土の第37図144も垂下隆帯と乱れ気味の細い短線文を施しているが、この隆帯には圧痕が認められる。SP-229出土の第30図59は、口縁部に横に流れた隆帯による横位文様帯を有し、胴部には横に垂下沈線を伴うU字状・逆U字状の区画が上下に向き合い、地文に荒めの垂下短線文を施している。口縁部に横位文様帯があるのでこの期に位置付けた。

ニ 中期13段階

SB-13、SK-024・031・064・086等がこの段階に該当するが、器形の全容を伺える資料は出土しなかった。唐草文系土器の地文である綾杉状短線文は乱れ荒くなる様で、間隔をあけて（第32図53等）いる。また第32図51・54や第36図116、第37図166等の様に、もはや綾杉状ではなく単なる短線文になったり、兩垂状短線文（第32図49・54、第40図238・239）と呼ばれるものになってくる。頸部文様帯は完全に消失し、口縁部無文帯下に隆帯を1条ないしは2条巡らせ、その直下に勾玉文を横に並べ、胴部に短線文を施すもの（第32図52、第37図161）や、逆U字状（隆帯も沈線もある）に区画した内部に勾玉文や短線文を施すもの（第28図45、第32図44、第37図160）がある。加えてにおい沈線による逆U字状区画だけの資料（第

32図50)もあるが、後出的なもの位置付けられるのかもしれない。地文に縄文が施される加曾利E式系の土器も多々あり、細身の逆U字状文が間隔空けて施される第27図40、垂下する沈線が見られる第33図58、先端磨手状の垂下沈線文の第39図215等はこの期に属すると思われる。なお地文が無く器面が丁寧に磨かれており、隆帯による大柄な渦巻文が描かれたSP-124出土の第33図73、SK-026から出土した1対の把手を有す壺である第27図41もこの期に位置付けた。

ⅴ 中期14段階

この期に該当する遺構は多くあるが、特にSK-001・007からまともな中期最終末とも後期初頭とも判断つけ難い土器が多く出土した。唐草文系土器は前段階の傾向が更に進み、沈線が弱々しく粗雑なもの(第34図75、第35図105等)になる。器形は樽形状で、口縁部無文帯下を巡る1条の隆帯から、隆帯を垂下させ縦に分割する土器として、第26図27、第28図44が出土した。この様相の土器は縦に垂下する隆帯の間隔が狭く、垂下隆帯間に施文される縄文部の広いものが古相で、隆帯の間隔が開き縄文部より無文部が広くなるにしたがい新相になるとされる。この傾向から言うと器形が同じ樽形状で縄文を施文していない第26図26(破片資料なので施文しているかもしれないが縄文部は狭いと推測される)、垂下する隆帯がなく縄文も施文していない同25(上述の可能性あり)の順に新しい様相を示すことになる。拓影での提示であるが、第34図77・82、第35図101、第36図121等も同じ様相を示す土器である。また器形は同じ樽形状で、垂下する隆帯が逆U字状である第27図32、第36図112や、垂下隆帯区画内に短線文が充填されている第28図42、横に巡る隆帯下に指頭によるであろう勾玉文と先端磨手状の垂下沈線文区画内に短線文が見られる第35図104等もある。これらはいずれも中期最終末の様相を示すが、新相と考えられるもの一部は、後期にまで残存した中期の様相を示す土器とも言えるのだろうか。また器形は樽形であるが、隆帯ではなく沈線によるもの(第34図79・95、第39図216等)も存在する。これら以外に加曾利EIV式に併行すると思われる土器がある。体部全体に細い沈線によりW字状・U字状、逆V字状を組み合わせた区画の磨消縄文となる第30図58・60、第34図83、第35図106等、隆帯により文様構成した第27図33、第29図54等、注口土器である第27図34、把手のみであるが第25図17、第26図24等、以上が該当すると思われる。上記以外にも縄文のみが器面に広がる第30図57、多系統の様相が混ざり合ったと考えられる第26図29が存在する。様々な様相の土器が存在していると言えよう。

C 後期の土器

中期末と後期初頭の境界を判断するのは難しいと既述したが、J字状の構図をとっている第25図21の釣手小型鉢形土器、無節の縄文を充填している第26図22を称名寺式と位置付けた。拓影図での提示ではあるが第35図97、第37図139・140、第40図240~243も称名寺式になるとされる。また第34図89は、小片であるが称名寺式でも古い様相を示す窓枠状区画であるかもしれない。その他第25図20は堀之内I式、櫛歯状工具による蛇行櫛歯文が垂下している第28図46も堀之内I式に位置付けられると思われる。

② 石器 (第41~44図、第5表)

今回の発掘調査で出土した石器群のうち、定型的な石器である76点を図化提示した。その個々については石器観察表を参照いただきたい。その中で千枚岩で製作された打製石斧(第42図38・43・53、第43図56)は、新潟県姫川流域に産するものに材質が酷似するとのことで、後述のひすい製品等と共に持ち込まれた可能性がある。

③ 土製品 (第30図 土1~3)

3点のみの出土である。土1・2は共にSK-024出土で土偶脚と思われるが、文様等なく土器の把手部とも考えられなくはない。土3はSB-13出土の不明土製品で、土鈴もしくはミニチュア土器と考えられる。

④ 石製品 (第44図78～82 第5表)

ひすい製垂飾がSK-034から1点(78)、SK-049から2点(79・80)出土した。いずれも1孔が穿たれているが、孔に段差が認められる。片側から反対側へ向かって穿たれはじめ、ある程度まで達した段階で反対側から迎えて貫通させたと思われる。ひすいという岩石が鱗片状に剥がれる性質を有するため、1方向からの穿孔では、穿孔具による押圧で貫通直前に反対側が大きく剥がれ取れる虞がある。これを考慮した結果と判断される。なおSK-034出土の78は、8.8cmと大珠と呼ぶにふさわしい大きさで、出土状況が明確な出土例としては県内で3番目(第6表参照)に大きい。またSK-049からは2点出土したが、同一遺構から複数点出土したのは、塩尻市上木戸遺跡29号土壌の5点、茅野市立石遺跡穴688の3点、駒ヶ根市の場門前遺跡土壌153の3点等、あまり例がない。この他SK-060からは、一部欠損している蛇紋岩製の垂飾1点、SK-050からは表面が磨かれ抉りが入っている用途不明な石製品(何らかの末製品か)が1点出土している。

⑤ ひすい原石・剥片 (第44図77 写真図版11 第7表)

垂飾以外にひすいの剥片が今回の調査において出土している。調査中に緑がかった石を見つけひすいではと思われたが、岩石のことは素人であり判断することはできなかったので、鑑定を依頼したく思い色々調べていたところ、長野県埋蔵文化財センター発行の『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 4 一長野市内 その2 松原遺跡』報告書中に、科学的分析を実施した内容の記述があった。さっそく記述のあった新潟県糸魚川市フォッサマグナミュージアムに問い合わせたところ、快く分析を引き受けていただいた。同館宮島宏氏に分析及び御教示いただいた。

分析は、同館所蔵の日本電子製走査型電子顕微鏡にオックスフォード社製エネルギー分散型X線スペクトロメーターを取り付けたX線マイクロアナライザーにより、岩石構成元素の定性分析(略称:EPMA)を行った。この方法により遺物表面の鉱物が何なのか分かり、なんと呼ぶ岩石なのか判断できる。科学的に詳細な部分に関しては、筆者自身ともに理解できていないので記述せず、結果のみを記述することにしたい。

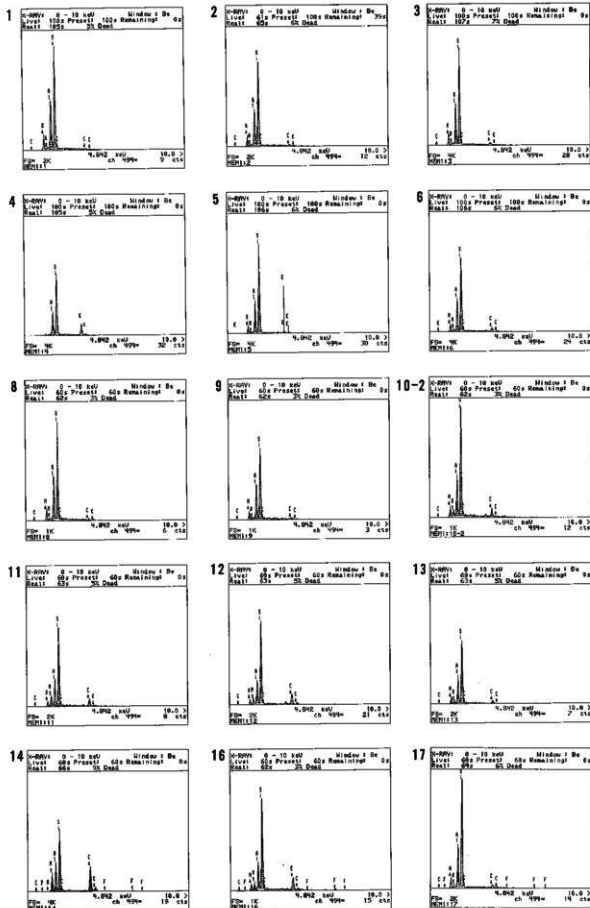
分析対象は、本調査で出土した垂飾及び剥片に加え、第1次調査報告書の出土石器一覧表中石材の欄に、「ヒスイ」と記述のある遺物も対象にした。第1次調査報告書作成の折には、諸般の事情から取り上げて記述及び考察ができなかったので、ここで今一度取り上げることにした。

分析により得られたEPMA分析チャートを第45・46図、得られた結果から確定された岩石名および遺物の属性等を第7表に記載した。結果、第1次調査報文中で「ヒスイ」と記述ある原石・剥片20点中16点が、本調査でひすいと思われた剥片1点がひすいと確認された。

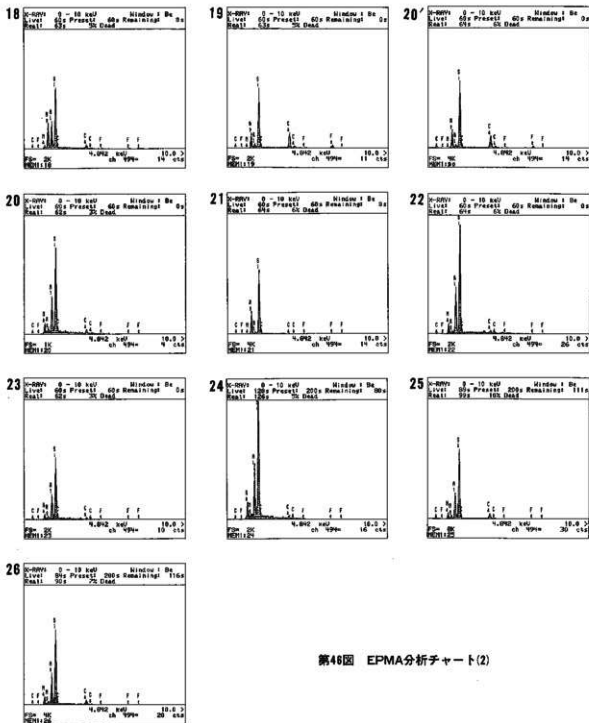
ひすいの原石・剥片が多く出土した長野県内の遺跡は菅見のところ、ひすい攻玉遺跡とされた大町市一津遺跡、攻玉遺跡の可能性ありと報告書に記述されている中条村宮遺跡、戸倉町円光房遺跡等がある。いずれも後・晩期の遺跡で、後・晩期になるとひすい攻玉遺跡が散見される。また原石が1点ないし数点出土した遺跡は、中期段階でも散見されるが、中期段階でこれだけ多くのひすいが出土した遺跡は当遺跡が初めてと思われる。ひすいの攻玉は、原石を近場で入手可能な新潟県西部・富山県東部で中期初頭ないしは前期末に始まったとされ、この地域に攻玉遺跡は集中する。中期段階ではこの地域に限られ

第6表 県内ひすい出土土壌一覧表

所在地	遺構名	遺構規模	平面形	断面形	ひすいの規模	時期	文献
師代町 滝沢	D-58土壌	不明	不明	不明	3.5×2.3×1.2	堀之内I式	町教委 1997 『滝沢遺跡』
	SK-130	89×95×42	不整形	不整形状	3.3×3.2×1.8	原石 後期	
	SK-183	159×171×55	不整形	不整形状	2.5×1.4×1.1	原石 後期	市教委 1990 『石神』
小瀬市 石神	SK-421	74×86×34	不整形 隅丸長方形	不整形状	6.0×2.7×0.4 2.5×3.0×2.0	礎石 不明	
	29号土壌	140×90×60	隅丸長方形	桶状	3.0×1.9×1.2 3.7×2.2×1.1 4.6×2.5×1.1 5.1×1.6×1.3 5.2×2.7×1.3	中期後半 (III~IV)	県庁文センター 1988 『中央自動車 道長野線埋蔵文化財 発掘調査報告書2 塩尻市内その1』
	S3	95×90×40	円形		5.5×2.5×2.0	中期後半	市教委 1984 『鹽塚古墳・新沢東 遺跡・大原遺跡・中島 遺跡』
徳高町 摩山	第1号 配石遺構 P37	80×65×110	楕円形	円筒状	4.65×2.26×1.00	中期後半III	町教委 1972 『摩山遺跡』
	SH824	125×70×15	隅丸長方形	皿状	2.1×1.6×0.7	堀之内II	県庁文センター 1993 『中央道長野 線埋蔵文化財報告書11 明 科町内北村遺跡』
明科町 北村	SK-034	(140)×105×80	楕円形	桶状	8.8×3.0×2.0	中期後半III	町教委 2001 『宛の内遺跡IV』
	SK-049	(115)×90×75	隅丸長方形	桶状	5.2×2.8×1.2 3.5×1.9×0.8	中期後半 IV~V	
山形村 淀の	257号小墓穴	137×100×66	長楕円形	テライ状	5.1×2.1×1.5	中期中~後半	市教委 1986 『久久保遺跡』
	331号小墓穴	162×90×83	長楕円形	桶状	5.6×2.2×1.1	中期中~後半	
岡谷市 久保	461号小墓穴	80×80×73	楕円形	円筒状	5.4×2.8×2.1	原石 中期中~後半	
	481号小墓穴 (墓穴中より)	140×110×78	小形		5.4×2.8×2.1 (体積5.6立方メートル)	後期	未報告
武野町 樋口内城	土壌17	100×100×	円形	掘鉢上	5.0×2.3×0.7	磨斧	縄文中期 『長野県中央道埋蔵文 財報告書 一 武野町そ の2』
茅野市 諏訪中原	2号土壌		楕円形		5.3×2.1×0.9	管轄II式	
茅野市 棚畑	第5号土壌	230×200×92	円形	テライ状	4.0×2.2×1.0	中期後半	市教委 1990
	第500号土壌	(他遺跡に大平切られる)		不明	5.8×2.7×1.2	不明	『棚畑』
茅野市 立石	第585号土壌	94×60×50	楕円形	桶状	5.0×2.4×0.9	不明	
	穴688	115×71×43	楕円形	テライ状	8.4×2.9×1.8 6.1×2.1×1.6 5.5×2.6×1.5 3.1×2.3×0.6 4.4×2.6×1.2	不明 不明 不明 不明	市教委 1994 『立石遺跡』
茅野市 聖石	穴782	90×60×10	楕円形	皿状	3.1×2.3×0.6	不明	
	穴836	120×80×28	楕円形	テライ状	4.4×2.6×1.2	不明	
茅野市 聖石	SK-685				5.2×2.4×1.2	中期後半	
	SK-404				5.3×3.3×1.6	中期後半	未報告
	SK-587				6.7×3.0×1.5 4.5×3.3×2.1	中期後半 中期後半	
茅野市 中ヶ原	第614号土坑	130×110×37			9.86×2.68×1.69 1.47×1.12×		未報告
	第207号土坑				1.45×1.15×		
茅野市 奥峯	SK-2618	100×70×25	楕円形	テライ状	9.9×3.6×1.7	中期後半	
	SK-2370				5.9×2.7×1.7	中期後半	未報告
	SK-2025				5.8×3.4×2.0 3.0×2.0×0.9	中期後半 中期後半	
茅野市 勝山	SK-1481						
	239土	計測不可	不整形	皿状	3.0×1.6×0.8	不明	市教委 1994 『勝山遺跡』
茅野市 上の平	第253号土坑				(1点出土)		
茅野市 大坂					(3基の土壌から3点出土)		未報告
富士見町 島平					(4基の墓穴から5点 最大のものが長さ6.2m)		未報告
駒ヶ根市 高見原	62号土壌	170×85×48	長楕円形	鉢状	7.0×3.2×2.2	中期後半 管轄I式	市教委 1987 『高見原遺跡』
駒ヶ根市 駒の場南	土壌153	180×130×63	楕円形	桶状	5.3×3.9×1.2 3.7×1.7×1.1 3.0×1.8×1.8	命名寺式以前	市教委 1995 『駒の場南遺跡』
松川町 見尾V	5号土壌	150×150×106	不整形	円筒状	6.8×4.5×3.3	原石	県教委 1973 『長野県中央道埋蔵文 財報告書 一 伊那郡松 川町地内一』



第45図 EPMA分析チャート(1)



第46図 EPMA分析チャート(2)

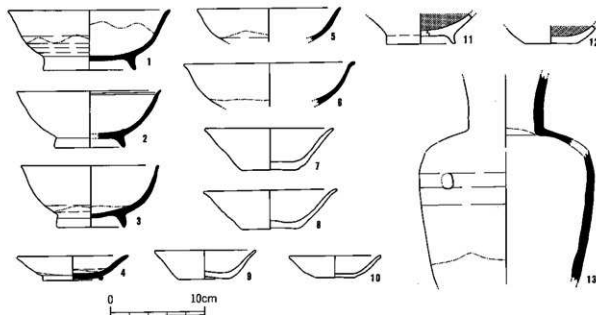
るが、後期になるとこの地域から離れた場所でも攻玉遺跡が見つかった。となると当遺跡発見のひすい原石・剥片はどう解釈したらよいのか。攻玉遺跡であれば加工道具である敲石、筋砥石、そして工作過程で生じる屑や未製品が数多く存在するはずであるが、当遺跡からは今まで出土例がない。また加工された垂飾でなくとも、ひすいという岩石が持つその緑色に魅せられ所有する意義を有し、原石・剥片を持ち込んだ可能性も考えられる。垂飾同様に土壌内からひすい原石が出土した例は、松川町里見V遺跡5号土壌、岡谷市梨久保遺跡481号小竪穴等にあり、この様な思考の現れと思われる。その他にも解釈の仕方はあると思うが、現段階での判断は難しい。ここでは可能性の提示にとどめた。

第7表 分析遺物一覧表

発掘 番号	出土内容 (大目分類)	出土 層位	所属 時期	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重さ (g)	分析 内容	分析の結果 (種類)
1	279	西8住	中期11段階	43	29.5	13	22.3	ウチノ麻石粉	製片
2	69	東6住	中期8段階	59	37	9	20.6	ウチノ麻石粉	製片
3	70	東6住	中期8段階	42	41.5	17.5	53.0	ウチノ麻石粉	実物(破片)
4	71	東6住	中期8段階	43	29	12.5	20.0	曹長石	
5	66	東6住	中期8段階	29.5	21	20	18.6	ウチノ麻石粉	実物(破片)
6	118	西6住	中期10段階	61	30	12	46.1	ウチノ麻石粉	製片
8	149	西8住	中期6段階	26	14	6	2.8	ウチノ麻石粉	製片
9	129	西8住	中期6段階	33	22	19	8.2	ウチノ麻石粉	製片
10-9	128	西8住	中期6段階	38	20	6	7.9	ウチノ麻石粉	製片
11	64	東6住	中期8段階	33	23	5	10.2	ウチノ麻石粉	製片
12	73	東6住	中期8段階	51	47.5	30.5	114.4	ウチノ麻石粉	原石
13	136	西6住	中期10段階	45	35	18	45.5	ウチノ麻石粉	実物(破片)
14	74	東6住	中期8段階	47	37	26	66.8	ロジン	分析番号ハンコ
16	(430)	遺跡外	不詳	38	34	15	22.6	ウチノ麻石粉	製片
17	141	西8住P10	中期6段階	53	33	13	33.5	ウチノ麻石粉	製片
18	137	西8住	中期8段階	38	19	13	14.2	ウチノ麻石粉	製片
19	67	東6住	中期8段階	69	34	20	51.1	ロジン	
20	224	西8住	中期6段階	73	37	18	56.5	ロジン	分析番号ハンコ
20	(430)	SK-049	中期12-13段階	35	19	8	10.3	ウチノ麻石粉	破片
21	(430)	SK-060	中期10段階	30	12	7	3.5	焼粘土	破片
22	77	東6住	中期8段階	64.5	48	19.5	73.3	ウチノ麻石粉	
23	(430)	SK-049	中期12-13段階	52	28	12	29.2	ウチノ麻石粉	破片
24	(430)	SK-024	中期11段階	88	30	20	99.8	ウチノ麻石粉	破片
25	68	東6住	中期8段階	33	30	25	36.8	ウチノ麻石粉	実物(破片)
26	65	東6住	中期8段階	80	50	38	249.6	ウチノ麻石粉	原石を2分割調整した状態

(2) 平安時代の遺物 (第46図)

SB-07から出土の土器13点を図化提示した。灰釉陶器碗(第47図1~3、5・6)は、体部の腰の部分が張る深碗の形状をなし、演掛け施軸で底部には回転糸切り痕が認められる。灰釉の段皿(4)は、体部から口縁部へ直線的で、口縁部はあまり外反していない。土師器杯(7~10)は、ロクロ調整で底部に回転糸切り痕が認められる。黒色土器A(11・12)は底部付近のみの破片で、灰釉陶器瓶(13)も復元図化した破片資料である。土器の様相から、中央道長野線発掘調査報告書の時期区分で13期に位置付けられる。



第47図 平安時代の土器

IV まとめ

平成4年の第1次調査で環状集落跡を発見して以来、この度の調査は第4次調査となった。今調査最大の成果はなんと言ってもひすい製垂飾3点の発見で、新聞の1面に掲載された事もあり一躍注目を浴びた。幅4m弱の細長い調査区であって、範囲が南へ1m寄っていればこの発見はなかった事になり、幸運であったとしか言い様がない。それ以外にも縄文前期中葉～後期前葉、平安時代の遺構・遺物を発見することができた。今迄の発掘調査成果を加え淀の内遺跡の様子について記しまとめとした。

この地に人間が暮らし始めたのは縄文時代前期初頭までさかのぼり、第1次調査で発見された中越式期の竪穴式住居址3軒が注目される。今回の調査ではそれに次ぐ前期中葉関山式期の竪穴式住居址を1軒検出した。住居址の範囲すべてを調査できなかったが、この期の資料を得ることができたのは成果の一つである。前期末については、第2次調査で数点の土器片を得ている。中期初頭では、第2次調査で土壌30基程を検出しており、あまり多くはないが梨久保式の土器も発見された。なお本調査でもSK-098の1基がこの時期の遺構として発見されている。中期中葉になると遺構・遺物共に発見例が増え、第1次調査東側調査区を中心として住居址が検出されている。その中でも落沢式～藤内式の、中葉前半に該当する住居址は多いが、中葉後半の井戸尻式期は住居址が少な目で、集落規模が縮小傾向であったと考えられる。しかし中期後半になるとまた住居址の検出例が増え、集落はピーク期を迎える。この期の集落はいわゆる環状集落の形態を呈し、今回は東西に細長い調査区であったため、これを横断する形となった。4区でその西部分を、そして3区西半が広場が該当する区域、3区東側から2区が環状集落の東部分である。この時期の環状集落は住居址が巡っていた部分の長さで東西80～90mと言え、遺跡範囲の中で南西に寄って存在する事になる。中期末になると集落は衰退へと向かうが、今調査ではこの期から後期初頭の遺物を比較的多く発見することができた。後期初頭称名寺式の土器は松本平でもあまり見られず、資料が蓄積できたのは成果であった。これに続く後期前葉瀬之内式期の土器も本調査で発見されたが、集落全体から見るとその量はごく僅かで、後期になると細々とといった状況になる。またこれ以降生活の痕跡は、弥生後期箱清水式期の査副部下半破片資料1点が第2次調査で発見されているのみで、平安時代までほぼ人間が住んでいない。平安時代の竪穴式住居址は第1次調査で1軒、本調査で1軒が発見されているのみで、縄文中期後半に比べれば寂しいものである。こうした変遷を遂げた後、長い期間林野や畑であったと思われるが、最近はまだ人々が多く暮らす住宅団地ができた。いまなお遺跡周辺での宅地開発は盛んで、遺跡の保護には良い傾向ではないが、この地は縄文時代中期後半以来、4000年余の時を経て再び賑やかな状況になったということになる。

調査以来、ひすい製垂飾や縄文時代の暮らしぶりについて話をさせていただく機会を多く持った。この調査が、はるか昔の縄文時代について興味をもっていただける良い契機になったと思う。それこそが本調査最大の成果であったと感じる。

最後になりましたが、調査実施にあたり御理解と御協力いただいた関係者の皆様、炎天下で汗を流し、小雪ちらつく寒空のもと身を貫かせ現場作業に携わっていただいた作業員の皆様、調査から整理作業まで様々な御教示を賜った皆様に感謝申し上げ、本書を締めくくりたい。



1区調査前全景



2区調査前全景



3・4区調査前全景

図版 2

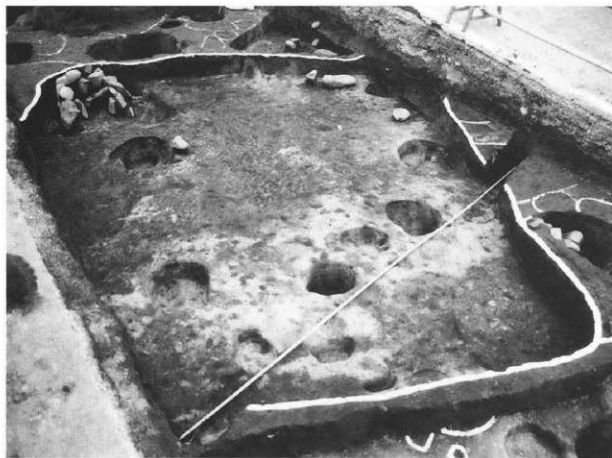


左上：1区全景 右上：2区全景 左下：3区全景 右下：4区全景



上:SB-05 下:SB-06

図版 4



上: SB-07 下: SB-08



SK-001 遺物出土状況



SK-005



SK-007 遺物出土状況



SK-007 土層断面



SK-010 土層断面



SK-045 遺物出土状況



SK-055



SK-060 垂飾出土状況

図版 6



SB-06 遺物出土状況



SB-07 遺物出土状況



SK-123



SP-229



SB-06 埋壘



SB-10 埋壘



SB-06 炉



SB-08 炉



3区道構検出状況



4区道構検出状況



表土除去作業風景



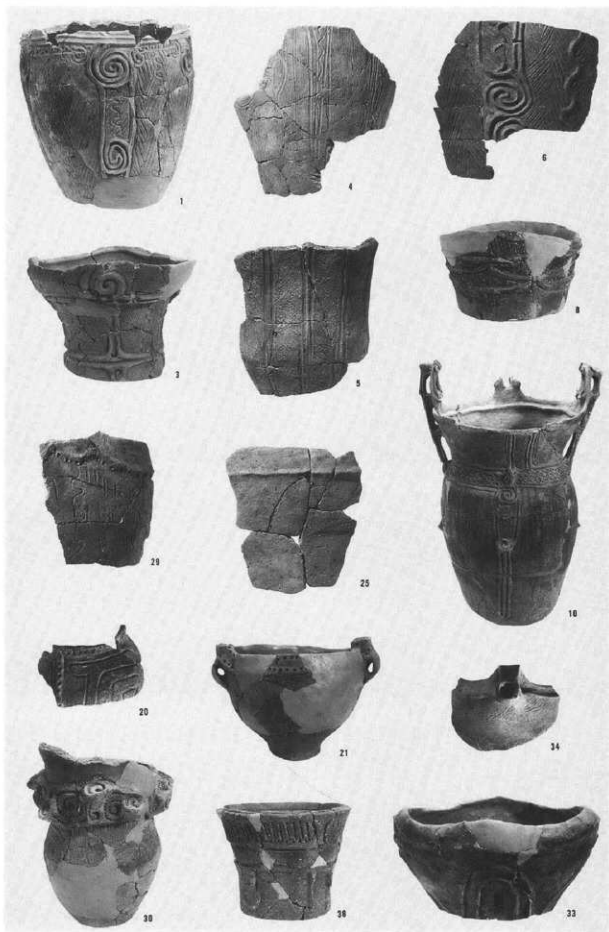
表土除去作業風景



作業風景



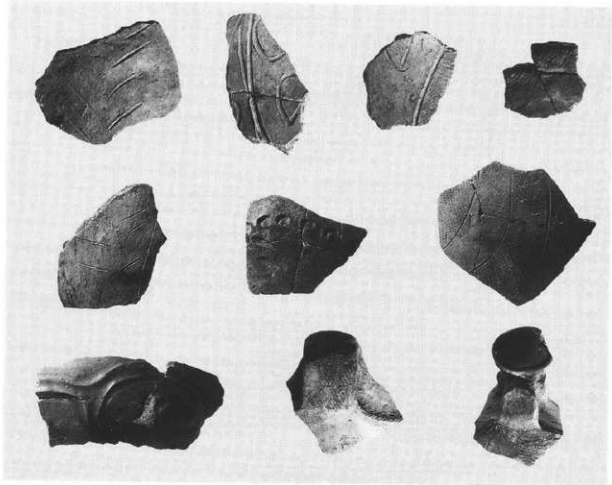
作業風景



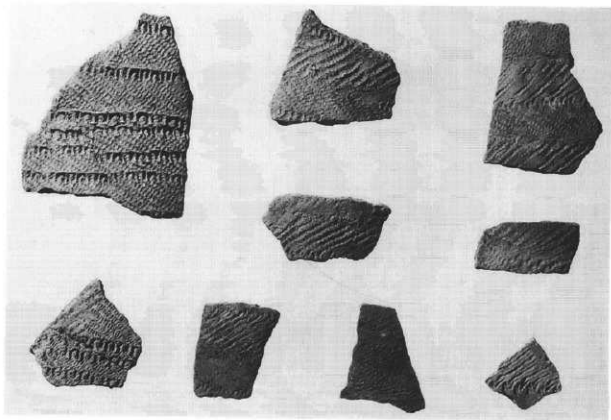
繩文土器(1)



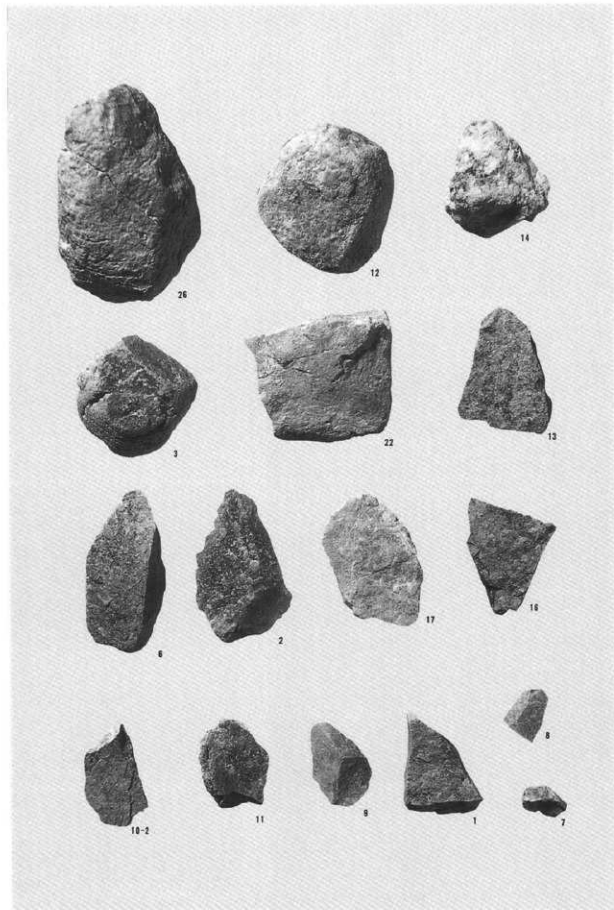
繩文土器(2)



鬲文中期末土器

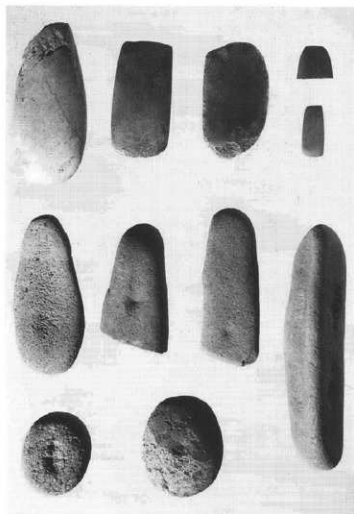
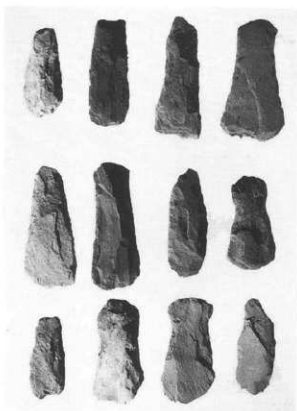
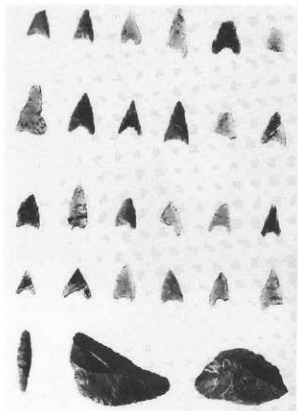


SB-05 出土土器



淀の内遺跡出土ひすい原石・剝片等

図版12



縄文時代の石器



平安時代の土器 (SB-07)

報告書抄録

ふりがな	よどのうちいせき 4							
書名	淀の内遺跡IV							
副書名	村道2級1号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	山形村遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	第11集							
編著者名	和田和哉							
編集機関	山形村教育委員会							
所在地	〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 TEL 0263-98-3155 FAX 0263-98-4256							
発行年月日	2001年3月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
淀の内	長野県 東筑摩郡 山形村 216-5他	204501	3	36° 9' 0"	137° 52' 47"	1998.11.10 ～11.27 1999.5.6 ～6.23 1999.11.15 ～11.30	550m ²	村道2級1号線 拡幅工事に伴う 緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
淀の内	集落跡	縄文	竪穴式住居址 14 土壇 122 ピット 382	縄文前期関山式土器 縄文中期末 ～後期初頭土器 ひすい製垂飾 3		縄文前期関山式期の竪穴式 住居址1基の検出。後期初 頭称名寺式の土器出土。2 つの土壇内から2点と1点 のひすい製垂飾が出土。		
		平安	竪穴式住居址 1	土師器 灰輪陶器				

淀の内遺跡Ⅳ

—村道2級1号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書—

平成13年3月23日 印刷

平成13年3月30日 発行

発行 山形村教育委員会

印刷 藤原印刷株式会社

